

社会福祉法人 雲柱社

2009（平成 21）年度事業報告

社会福祉法人 雲柱社 2009（平成21）年度 事業報告

I：事業基本理念・事業目標に基づく、社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念

(1999年12月24日)

- (1) 私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人ともに仕える仕事をします。
- (2) 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- (3) 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- (4) 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

<保育ブロック事業目標>

- (1) 私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
- (2) 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受け入れ伸ばしていく保育をします。
- (3) 私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
- (4) 私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
- (5) 私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
- (6) 私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

<障がい児・者ブロック事業目標>

- (1) 私たちは、障がい児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に立って事業を行います
- (2) 私たちは、障がい児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
- (3) 私たちは、障がい児・者の家族が抱える課題を深く受けとめ、その解決に向けて努力します。
- (4) 私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
- (5) 私たちは、障がい児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適のケアを提供するため専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

<児童館事業目標>

- (1) 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- (2) 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
- (4) 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- (5) 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

<学童クラブ事業目標>

- (1) 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
- (2) 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことができる学童クラブを目指します。
- (4) 私たちは、子どもたちがそれぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
- (5) 私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。
- (6) 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
- (7) 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛される学童クラブを目指します。

<子ども家庭支援センター事業目標>

- (1) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて、事業を行います。
- (2) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。
- (3) 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。
- (4) 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性に基づき対応します。
- (5) 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。

社会福祉事業（第一・二種）

種別	名称	個所	
第二種	保育所	愛の園保育園・五日市保育園・墨田区押上保育園・烏山保育園・神愛保育園・祖師谷保育園・高根学園保育所・ともしび保育園・光の園保育学校・黎明保育園 ※__は分園併設	10
	児童厚生施設	さくら橋コミュニティセンター・墨田児童会館・文花児童館・外手児童館（墨田区）、汐入ふれあい館（荒川区）、和泉児童館・狛江市立岩戸児童センター（子ども家庭支援センター事業併設・狛江市）、上池台児童館（大田区）、たまだいら児童館ふれっしゅ（日野市）、平野児童館・亀戸児童館（江東区） ※__は学童クラブ分室併設館	11
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ・れいめい宝学童保育クラブ・七峡小学童クラブ・汐入小学童クラブ（荒川区）、深川学童クラブ・大島四丁目学童クラブ・大島八丁目学童クラブ（江東区）	7
	知的障害者共同生活援助事業・共同生活介護事業 （グループホーム・ケアホーム）	かがわの家 シリウス・ベガ・ミラ・カペラ・ジュピター	5
	障害福祉サービス事業 （就労継続支援B型・生活介護・短期入所）	小金井生活実習所	1
	障害福祉サービス事業 ◇ 居宅介護 ◇ 行動援護 ◇ 移動支援事業 （地域生活支援事業）	かがわサポートセンター・ウイングス	1
	第一種	知的障害児通園施設	賀川学園
	知的障害者授産施設	かがわ工房、ワークスタジオかがわ	2

社会福祉事業（公益事業）

地域デイサービス事業	さくらの木（知的障がい碍学齢児 個別・グループ学習）	1
福祉共同作業所	小金井市福祉共同作業所（障がい者・高齢者共同 小金井市）	1
ファミリー・サポート・センター	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援センター内）、小平市（小平市子ども家庭支援センター内）	3
子ども家庭支援センター	江東区東陽子ども家庭支援センター・江東区大島子ども家庭支援センター・江東区深川北子ども家庭支援センター、江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区）、練馬区立光が丘子ども家庭支援センター（練馬区）、狛江市子ども家庭支援センター（狛江市）、小金井市子ども家庭支援センター（小金井市）、小平市子ども家庭支援センター（小平市）	8

収益事業

店舗賃貸ビル	和光ビル	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

II：法人の第一次中期計画（～2010年）の展開と検証

中期計画も終盤にさしかかって来た2009年度は、掲げられた計画の達成度を検証し、次の中期計画にどのように継承していくべきかを視野に入れながら、取り組みを続けてきた。社会状況の変化、それに伴い福祉事業分野も変化する中で、法人のミッションを基盤に、2009年度も利用者の立場に立って事業を担ってきた。特に今年度は創立者賀川豊彦先生の献身100年を迎え、法人としては、他団体と協力して記念行事に参加すると共に、この記念の年の意義を職員と共に理解を深めつつ、新たな福祉実践に向かつての決意を固くすることができた。

1：次代を担う人材育成のための研修の強化と人材の登用

(1) 次世代育成プロジェクトによる法人第二次中期計画の策定に向けて

*プロジェクトは雲柱社の次代を担う40歳から55歳までの管理職（施設長、主任）で構成されている。

*2年目を迎えた今年は、下記のような部門に分かれて話し合いと作業が行われた。

- ・人材組織部門
- ・本部組織改革部門
- ・計画提言部門
- ・事業企画部門
- ・研修部門
- ・法人政策部門

(2) 管理職の研修の強化 ー法人研修、ブロック研修の両面からー

*法人のミッションに立つ事業の展開の要は現場の責任を持つ管理職の姿勢にかかっている。

*今年度は法人全体施設長会、各ブロック施設長会等を通して、管理職研修に取り組んできた。

*研修は法人のミッション、マネジメント、事業展開、施設経営、労務管理等、管理職が担うべき職務を中心に実施していく。

*施設長会は各ブロック毎月1回実施

(3) 新任管理職の研修

- *新たに管理職となる者に、法人のミッション理解、管理職として心構え、職務内容等について研修を実施した。参加者6名。
- (4) 主任研修 一年5回—
- *保育ブロックの主任を対象に研修を行う。
- *法人のミッション理解、管理職としての職務、OJT展開他、施設長と共に事業を担っていく為の知識や方法などについて研修を実施した。
- *特別研修 2009年11月27日～28日（1泊2日）
 - ・改訂保育所保育指針の学びを中心に行った。
- *研修は主任たちが自主的に計画し実施した。
- (5) 全体施設長会 一年3回、4月、10月、2月—
- *法人ミッション研修
- *社会福祉の現状と事業展開について
- *労務管理研修
- *情報交換など
- *10月の会は1泊2日で法人第二次中期計画について話し合いを行った。
- (6) 一般職員の研修
- *法人が主宰する経験年数別職員研修 一各年1回、1日をかけて—
 - ・新入職員研修：3日間、法人のミッションの学び、賀川豊彦の生涯と思想、社会福祉の状況と法人の対応、法人の今後の事業ビジョン、法人職員としての心構えなどを学ぶ。
 - ・2年目、3年目、4年目、5年目、中堅Ⅰ（6年以上）、中堅Ⅱ（8年以上）、中堅Ⅲ（10年以上）研修（3年目研修は2泊3日で、山梨県にある障がい者福祉作業所での労働体験合宿を行う。各経験年数別研修の講師は理事長、常務理事、施設長が担当した。）
- *各ブロックが主宰する専門知識、スキル研修
 - ・各ブロックの専門性を高めることを目的とした研修である。
 - ・各ブロックが年間研修計画を立ててすすめた。
 - ・詳細は本部事業報告巻末の各ブロック研修報告を参照

2：経営の健全化と雇用の安定を基盤とした事業の展開

(1) 法人全体を視野に入れた施設経営の展開

- *指定管理事業においては、次期のプロポーザルを常に意識しながら、地域に支持され行政に選ばれる事業実績を積み上げるように努力を重ねてきた。
- *今年度はたまたいら児童館ふれっしゅがプロポーザルを経て、5年間の指定管理を受けることが出き、事業の更新が可能となった。
- *委託費の「残金」をめぐる、委託先の江東区と見解の不一致があり、理事会の決定により過去にさかのぼって委託費の自主返還を行った。

(2) 各ブロック・施設の支え合いの強化

- *法人全体のスケールメリットを活かして、相互に支え合いながら経営の健全化、異動等による雇用の安定、情報やスキルの伝達を通してサービスの向上に努めてきた。
- *法人が所有する施設については、新築計画を策定し改築を進めてきた。
- *今年度はともしび保育園の改築が完了。
- *小金井地域マスタープラン委員会を立ち上げ、小金井地域における事業展開を視野に入れながら関係者が集まって話し合いを行ってきた。

(3) 正規職員の雇用を中心とした人材の確保

- *求人状況が一段と厳しさを増しつつある中で、法人としては正規雇用体制を堅持しながら現場におけるサービスの充実に努めてきた。
- *今年も中途退職が多くあり、職員の定着について次年度は応分の対策を立てることが求められてくるものと考えられる。

(4) モラルサーベイの実施とその結果への対応

- * 保育ブロックの職員を対象に専門のコンサルタント業者に職員の意識調査を実施した。
- * 調査の結果明らかになったことは、以下の通りである。
 - ・ 職員が利用者に対して良いサービスを提供しようという意識は総じて高いことが分かった。
 - ・ しかし仕事の現状に対しては、多くの職員が疲れを覚えていることが判明した。
 - ・ また有給休暇等の取得についても、不満が多いことも明らかになった。
- * これらの結果を踏まえて2010年度は職場環境の改善に取り組んでいくことを予定した。
- * 他のブロックにおいても同様の調査を実施し、職場環境の改善に取り組んでいく予定である。

(5) 人材の確保への対応

- * 優れた人材を確保するために、人材バンク（仮称）を設け、法人のOB、パート職員のOB、実習生、ボランティア等々の登録を進め、適宜雇用していくことについては、現場での採用を進めることによって、それぞれの現場で柔軟に対応していくことにした。
- * 一方、定年退職者については、しかるべき職場を準備し、さらに5年を限度として勤務していただく体制を整えていくことにした。
- * 育児休業を終了した職員に対しても、その培ったスキルを活かしてもらうために、職場復帰に対して十分な配慮を行った。

(6) 給与制度について

- * 現行の制度を維持することにした。ただし、今後は行政の財政状況の変化を見すえながら柔軟に対応していくことが求められる。
- * 現行の給与、諸手当などに様々の矛盾が現れてきているので、早晚、制度に手を入れる必要が生じてくるものと考えられる。

(7) 職員の健康管理（特にメンタルヘルス）、福利厚生等について

- * 今年度は働き方検討委員会を立ち上げ、職場環境の見直しを中心に、職員の職場満足度の向上を図るための対応について検討することにした。
- * 職員のメンタルヘルスについて
 - 専門家（産業医）等の導入が大きな課題となっているが、今年はこの件について導入には至らなかった。法人の職場内で心の健康を害している職員が存在していることを認識し、早急な対応をしていかなければならないと考えている。
- * 福利厚生に関しては、現在、（株）リラックスコミュニケーションズのプログラム「福利厚生倶楽部」に入会している。
- * 今後も職員の声を聞きながら、より良い福利厚生制度の体制を整えていきたい。

3：各事業別ブロックの質的向上と共に、施設が存在する地域毎の協働関係の構築

(1) 地域福祉の流れの中で

- * 最近の福祉の流れは「地域福祉」が主流となってきている。そこで法人は次期中期計画をこの流れに沿って進めている。今年度も近隣地域に存在する事業所同士が問題を共有し、協力し合いながら、利用者にとってより幅広く、質の高いサービスを展開していくことを目指してきた。
- * 地域福祉の流れは、事業が施設内で完結することなく、事業所が地域で福祉を展開していく拠点として位置づけられることになった。
- * 法人としては、近隣地域に存在している異業種の法人施設のネットワーク（連携）を活かして、多様化する問題に対応していきたいと考えている。

(2) 指定管理事業への対応

- * 当法人は、委託事業や指定管理事業を多く引き受けている。事業の契約期間は単年度から、長くて5年である。特に指定管理制度においては、契約期間が終了した後、改めてプロポーザルに参加し、指定管理業者に選任されなければならない。
- * 事業を継続していくためには利用者に支持され、行政からその実績が認められ、地域におい

てなくてはならない存在とならなければならない。各施設はこのことを強く認識して事業の充実が心掛けてきた。2010年には12箇所の事業所が期間満了し、プロポーザルに臨む。

* 第二次中期計画の中心的課題として

従来のブロックごとの事業展開から、各地域に存在している異なった事業の連携と協働の取り組みについて、それぞれの地域で模索を重ねてきた。

4：本部事務局の体制の確立とともに、法人のスケールメリットを活かし合理化・効率化を図りコストの削減を目指す。

(1) 本部事務局体制の充実

* 時代の変化に応じて事業が広がってきている現在、本部事務局の体制の確立は重要な課題となってきた。法人のコンプライアンスの確立のための諸規定等の整備、IT関係の充実、書類のデジタル化、事務局職員の事業経営への参与、情報の公開、個人情報の管理、苦情対応、社会の変化に対応した人事、労務管理等々、課題は山積している。

* 事務室の改造

財団法人雲柱社事務局の協力により、年度の後半に事務室の一部を拡張した。これにより、事務量がふえる一方の本部事務局が多少なりとも仕事が進め易くなることを願っている。

(2) 法人のスケールメリットを活かした合理化、効率化において、福祉財源の減少が明らかになった。これは現在避けて通ることが出来ない課題である。今年度はVPN（法人固有のITシステム）の利用による有効な情報収集と管理を推進した。又、農家と直結した新鮮な食材の購入、また、職員の福利厚生の実、等々に取り組んできた。

(3) 本部事務局と施設との有機的な協働関係の強化

* 行政の姿勢が施設中心から法人中心に移行して来た現在、本部事務局と施設との新しい協働関係の構築が求められてきている。より良い事業経営を展開して行くためには、本部事務局と事業所とのより良い協働関係が求められている。今年度も協働のあり方を相互に検討しながら、より健全な事業経営を目指してきた。

5：人材育成に力を注ぎつつ、必要とされる新しい事業にチャレンジしていく。

(1) 新しい事業の展開の方針としては以下のような考えの下に取り組んできた。

* 新しい事業は法人のミッションから見てふさわしい事業であること

* 新しい事業は法人の事業戦略（地域での多様なニーズに応える福祉事業の展開）に合っていること

* 新しい事業は法人の人材育成に繋がっていくこと

* 新しい事業は経営的な見通しが確かであること

(2) 地域での多様な福祉ニーズに応えるための事業へのチャレンジ

* 2009年度は、新たに墨田区押上保育園（墨田区）、言問小学童クラブ（墨田区）、祖師谷保育園分園（世田谷区）の事業が開始され、利用者ならびに行政の要請に応える成果を上げることが出来た。

* 烏山保育園の移譲から3年が過ぎて、雲柱社独自の保育展開が出来ることとなった。

(3) 新しい事業への挑戦と人材育成

* 変化の激しい時代は、新しいニーズに挑戦し続けることによって、社会福祉法人はその責任を果たすことが求められている。

* 今後の人材育成は、既存の事業を充実させながら、新しい事業へも挑戦していく、という2つの視点に立って、それを担う人材の育成を進めてきた。

* 2010年度から新たに始められる事業

- ・ 練馬区 練馬区立大泉子ども家庭支援センター
- ・ 練馬区 練馬区立高松小学童クラブ
- ・ 目黒区 目黒区立中央町児童館
- ・ 荒川区 汐入東小にこにこすくーる

- ・世田谷区 家庭的保育事業（保育所実施型）祖師谷保育園本園・分園
- ・江東区 土曜江東きっずクラブ（亀戸児童館内）

Ⅲ：理事会、評議員会の開催

(1) 理事会

- * 定例理事会 年3回開催 5月、10月、3月
- * 他に臨時理事会が開催された。
- * 法人の最高決定機関である理事会の責任は、年々重さを増してきている。理事会に諮るべき問題、承認を得なければならない事項が生じた場合は、直ちに臨時の理事会を開催し対応してきた。

(2) 評議員会

- * 年間3回開催 5月、10月、3月。
- * 評議員会は、理事会の諮問機関として重要な働きが委ねられている。
- * 評議員の方々には地域にあって、有力な事業運営の協力者として、また厳しい批判者として関わりをいただいた。

Ⅳ：役員会並びに人事委員会

(1) 役員会の設置と運営（月1回程度予定）

- ・ 理事長、常務理事、ブロック担当理事と各ブロック代表の管理職によって構成（9名）
- ・ 理事会で決定された議案の執行状況の検証
- ・ 事業展開のなかで生起する諸問題への対応
- ・ 各ブロックの人事問題への対応
- ・ 各ブロックからの苦情の把握と対応
- ・ 法人事務局より提案される諸事項の検討、承認ほか
- * 以上の事項を審議、検討した。

(2) 人事委員会（随時）

- * 理事長、常務理事、ブロック担当理事によって構成
- ・ 管理職等の人事等について検討し理事会に提案した。
- ・ 人材育成に関わる事項の検討
- ・ 職員の採用に関する事項の検討
- ・ 職員の労務、人事上の諸問題の検討

Ⅴ：その他の委員会、施設長会など

(1) 働き方検討委員会

- * ワークライフバランスが時代の主流となる中で、福祉の現場はこの流れに反する状況にあるため、その原因を探り、問題に対応していくことを目的に設けられた委員会である。
- * 各ブロックから代表として施設長が委員として参加して、諸規定の改定、職員アンケートの検討、モラルサーベイの結果への対応など、当面の問題について検討を重ねた。

(2) IT委員会

- * 新しく導入されたVPNのより有効な利用の仕方
- * 各施設のITスキルの向上
- * IT関係に関わる諸問題への対応、ほか
- 以上の問題について検討し方向性を探る、と共に具体的な支援も行った。

※ 給与制度検討委員会と人事考課検討委員会は今年度は行われなかった。

(3) 全体施設長会（年3回）

- *全施設長が集まって法人（各事業ブロック等）の現状や課題について話し合った。
- *法人の現状、今後の課題について話し合った。
- *各施設間の情報の交換、施設長同士の交流を行った。

(4) ブロック別施設長会（原則毎月1回予定）

- *各ブロック（保育、児童館・学童クラブ、支援センター、障がい児・者）毎に行った。
- *各事業ブロック内施設の事業展開状況、課題や問題の検討
- *ブロック内施設の現状や情報の交換
- *ブロック内の財務、労務、行政、危機管理、地域との関わり等々の問題を検討し対応した。
- *ブロック内の研修計画の策定と実施に当たった。

VI: 他の団体と協力して開催する集会、研修など

(1) イエス団・本所賀川記念館との合同施設長研修

- *2010年1月29日～30日 神戸賀川記念館
- *賀川豊彦の思想と実践を継承しながら事業を展開している関西（イエス団）と関東（本所賀川記念館・雲柱社）の施設長の研修・交流を目的として行われた。
- *2009年度はイエス団が主催し、神戸の賀川記念館を会場にしておこなわれた。
- *イエス団の全体会にも雲柱社施設長が参加し交流を深めることができた。

(2) アドベント礼拝（2009年12月）への参加

- *各施設が存在する地域の教会でのアドベント期の礼拝に参加し、クリスマスの意義と法人の基盤であるキリスト教についての理解を深める。

(3) 賀川豊彦召天記念墓前祈祷会と講話会

- *2009年4月18日（土）午後1：30～ 多磨霊園 松沢教会墓地
- *イエスの友会、松沢教会、本所賀川記念館、財団法人、学校法人雲柱社との共催で、毎年賀川豊彦の召天日である4月23日の直近の土曜日に、多磨霊園の松沢教会墓地で開催。
- *礼拝 東駒形教会戒能牧師
- *講話 財団法人雲柱社 理事長 齊藤宏先生

(4) 本所地区施設職員合同職員研修会

- *2009年9月27日（日）
- *東駒形教会で礼拝
- *講演 深田未来生先生

- ・雲柱社の出発点となった本所地区の関係施設が、その精神を継承するために合同で実施する研修で、他の法人の職員も参加した。
- ・雲柱社からは墨田、さくら橋、文花、外手、亀戸の各児童館、光の園保育学校が参加した。

(5) 三法人、並びに関係団体との協力関係の構築

- *雲柱社の三法人（学校・財団法人）は、お互いの独自性を尊重しつつ互いに協力して事業を進めてきた。
- *三法人協議会を開き、ミッションを共有しながら、相互に抱えている問題の解決に協力し合った。
- ・協議会のメンバー：各法人理事長、常務理事（学校法人は園長）
- *広報活動についても協力し合い、賀川事業団（三法人の総称）の発信に努めた。
- *イエス団、本所賀川記念館、松沢教会との関係も深める。
- *雲柱社憲章の普及
- ・三法人共通の憲章を定め職員への周知を図った。

(6) 70年史の編纂

- *雲柱社創立70周年を記念して、三法人で「70年史」を発行することとなり、編纂委員会

が組織されて作業に入った。

*発行は2010年10月頃を予定している。

*編纂委員会の構成

主筆 石川和夫（元松沢教会牧師）

委員 加山久夫、齊藤宏、今関公雄、服部榮、進藤君枝、杉浦秀典

2009 年度保育ブロック研修報告

I. 保育士研修

A. 継続研修

スキルアップや保育の見直しを目的に、年齢別保育研修を 7～8 年行ってきた。その中で雲柱社として何を大切にしているか、遊びや環境が取り上げられ、参加した職員も重要な課題として考えている。人的環境や物的環境は保育の大きなテーマである。そこで、保育ブロックの次の段階として『保育と環境』を 3 ヶ年計画で学んだ。

目的

1. 研修内容の積み重ね
2. 具体的に他の園の保育を知り、自園の保育へ生かす
3. 全員で同じテーマに取り組み、研修を共有する
4. 中堅職員を中核とし、育成する

方法

1. 講演 西地区の園（愛の園、五日市、祖師谷、祖師谷分園、烏山）
今年度は西地区で環境についての実践的な講演を職員が聴く。
*樋口正春先生「保育と環境」愛の園保育園にて 7/12（日）PM 実施
 2. 各園で環境を見直すなど実践
 3. 施設見学及び実践研究
 - ・ 2009 年度は 3 つの園（12/11・1/13 愛の園、11/20・1/19 ともしび、10/20・12/1 光の園）へ行く。9 園から乳児保育士・幼児保育士が 1 人ずつ訪問する。
 - ・ 午前中は保育を見学（環境を中心に）
 - ・ 午後はその園の中堅職員が事前に準備したビデオや資料を基に、その園で何を大切に実践しているのかを発表、質疑応答
- <見学の前>見学される側は、発表する中堅職員を中心に、職員研修などで準備する
<見学の後>見学される側は、質疑応答を参考に、職員で共有する
見学した側は、DVD やビデオのダビングと資料を使い、園内研修などで共有する。
4. 保育ブロック全体会にて、見学された 3 園よりまとめの発表

B. 特別保育研修

目的 その年度でテーマをきめて、時代に応じた、今そのとき雲柱社保育ブロックに必要なものを学んでいく。2009 年度は「地域の子育て支援及び家庭支援」をテーマにする。

方法 各園の状況を共有し、施設見学をする。6/16・10/6 インフルエンザのため神愛保育園 近隣施設にて。

Ⅱ. 看護師研修

目的 職務基準、感染症マニュアル、年間保健計画など書類面は共有化してきた。

組織の中の役割など自主的・客観的に「保育園の看護師としてのあるべき姿」を学ぶ。

方法 2009年度は全看護師よりアンケートを取り、「保健指導」をテーマに、自主的に学びあう。インフルエンザ流行により、感染症について細かく話し合う。

6/30・9/29・1/26 本部にて

Ⅲ. 食事研修

目的 職員集団の中で唯一年度の入れ替えのない、固定された人間関係の部署である。

交換研修など積極的にいき、「保育園の中の調理のあるべき姿」を学ぶ。

方法 2009年度は全調理担当よりアンケートを取り、自主的にテーマを考える。

アレルギーマニュアルづくりや、調味料などの仕入れ方についても資料を作成する。

6/23・11/17 本部にて

2009年度より調理師対象の研修も開始する。11/24 本部にて

【2009年度の研修担当】

環境・・・小山、三幣、菊地・・・芹沢・・・発表園は愛の園、ともしび、光の園

(2010年度は黎明、烏山、押上)

特別保育・・・伊藤、秋山・・・柴田、中部・・・地域活動支援を中心に

保健・・・上松、吉岡・・・青沼・・・回数は3回で(看護職より出ている多くやりたい情報交換は地域別に自主的に企画してもらい、外部研修などに積極的に参加)

食事・・・武井、土屋・・・渋谷

全体会・・・松長、酒井、佐藤洋子・佐藤い

2009 年度児童館ブロック研修報告

I：学童クラブ研修

1：学童クラブ担当者研修—年 9 回—

*今年度は以下の 3 つのテーマで研修を行った。

- ①PDCA の理解と展開—PDCA に基づいて仕事を進めていくための研修—
- ②グループワークの理解と展開—集団での活動を展開していくための理論の学習と具体的な展開の方法についての研修—
- ③ケーススタディ—具体的なケースを取り上げ、それへの対応を多様な角度から学ぶ—

2：学童クラブリーダー研修—年 5 回—

*学童クラブを具体的に運営していくリーダーの資質の向上を目指した。

- ①学童クラブマニュアルの検証—昨年度策定されたマニュアルを 1 年間用いてみての問題点などを上げて、文言の訂正などを行った—
- ②OJT の理解と具体的な展開—研修の基本である OJT 理論の理解と具体的な展開について学んだ—
- ③学童クラブの運営—子ども達の受け入れ、保護者との関わり、事務作業等々について学んだ—

3：学童クラブ担当者全体会—年 1 回—学童クラブ事業目標について学ぶ—

II：児童館職員研修

*児童館職員としての資質の向上を目指して広い視野からの研修に取り組んだ。

- 1：論文講読研修—職員の視野を広げるための論文講読—（3 回）
- 2：講演会の開催「障がい児の理解と受け入れ」というテーマで専門家のお話を聴いた。
- 3：わらべ歌研修—わらべ歌を用い歌遊びの研修—（年 2 回）
- 4：キリスト教社会福祉について学ぶ—阿部志郎先生の論文を中心に学ぶ—
- 5：1 年目職員研修—児童館事業の理解と職員の課題について学ぶ—（1 回）
- 6：5 年目職員研修—各児童館で中堅として働く職員の資質の向上—（1 回）
- 7：リーダー研修—児童館事業活動指針づくりに取り組んだ—（7 回）

III：児童館ブロック全体会—次年度に向かってのブロックの方針を確認する—

IV：館長研修（年 10 回）—社会的ニーズに児童館事業はどのように応えていくのか、と言うテーマで現場に即した研修を展開した。（10 回）

2009年度ブロック別研修 障がい児・者支援施設ブロック（かがわブロック）報告

1. 全体職員研修

- ・全体職員会（年3回）礼拝 アドベント礼拝 法人報告
かがわブロックの事業方針、総括
- ・講演会実施（年2回）他法人の施設長を招いて、各地域での実践から学んだ。
「自閉症のひとの暮らし」「地域ネットワークの創造」
- ・「かがわの実践作成・合評会」（年1回）

職員全員が、1年間現場で取り組んだ実践をふり返って、学んだこと考えたことなどをレポートにまとめ、冊子を作成した。全体職員会で発表の場をもった。

・他事業体験研修

かがわブロック内の他の事業所で1日過ごし、現場での関わりを通して、かがわブロックの事業について理解を深める機会とした。（6名）報告書を作成、全体職員会で発表した。（年2回）

2. 新入職員研修（5日間）

- ・かがわブロックの歴史と組織について
- ・就業規則について
- ・職業人として「福祉施設で働くための接遇マナーについて」
- ・職務基準書について（成人部門・児童部門）
- ・勤務について（成人部門・児童部門）
- ・かがわブロック事業所見学
- ・現場研修

3. 成人部門職員研修（年2回）

- ・グループワーク「これからのかがわブロック」

現場からみえてくる仕事のやりがい、これからどのような事業展開が求められているのかをテーマに、経験年数別グループで話し合い、意見を模造紙にまとめて発表した。

- ・グループワーク「Aさんのこれから」

事例を通して本人が望む地域での支援を考えることをテーマに、様々な経験年数の職員のグループで話し合い、意見を模造紙にまとめて発表した。

4. 児童部門研修

- ・OT、ST等心理の専門職の方を招いて事例を通してケース検討の学習会を行った。（年5回）
- ・個別指導法に関する学習会を定期的に行った。（月1回）

5. 自己啓発研修

- ・各種専門講座へ参加した。
- ・東社協の他施設体験研修に参加した。
- ・他施設、特別支援学校等の学校見学を多数行った。

I.地域組織化を学ぶ 7月6日(月) 13:00~17:00

地域福祉の視点で、地域組織化の事業をとりあげる。自分たちの地域をどんな風を感じているのか。行っている活動の目的は何か。実施効果はどうか。等を話し合う。

事前に各センターの活動を挙げて、その活動の持つ意味、実施の実態と評価等、また、自分たちの地域の関係機関の役割と繋がりを、各センターで話し合い、資料をつくる。

自分たちの地域の様々な資源を知るとともに、地域活動ワーカーの職務内容を改めて考える機会となった。

II.ひろばにおけるスタッフの意味と役割を学ぶ 11月9日(月) 13:00~17:00

ひろばに入るにあたってスタッフ各自が自分の具体的な言動をふりかえり、今後の課題を考えることが目的。

子育て支援のコンピテンシーリストを使って、5つのジャンルに分かれているので、各自でチェックし、施設内でグループ討議しておく。

発表シートに記入し、全施設の参加者で検討する。

※今年度の研修は、I・IIとも事前に各センターで話し合い、準備をしたこと、また、研修後持ち帰って再度話し合うことができたので、参加者だけではなく、沢山の気づきを得られた。

III.全大会 1月11日(月) 10:00~17:00

職員一人ひとりが、自分の仕事に目標をもてるような会にし、職員の資質を高めることを目的とする。

西郷泰之氏(大正大学教授)を講師にお願いして、地域福祉における今後の子ども家庭支援センターの在り方を考えた。児童虐待の対応を民間がすることの限界、逆に虐待の予防的な働きを評価し、雲柱社としてスキルを高めていく必要があることを今後も引き続き検討していく。

IV.虐待対策ワーカー研修

① 6月6日(土) 14:00~18:00

各センターから報告と討議(江東区・狛江市・小平市)

- ・各自治体の虐待対応について
- ・2008年度の統計と課題

② 2月20日(土) 14:00~18:00

2009年度の総括(各センターから報告)

- ・「新東京ルール」についての各自治体の対応
- ・次年度に向けての課題
- ・情報管理についての現状と課題
- ・次年度研修について

前文

2009 年度も第三者評価の利用者アンケートを受けた。「温かい雰囲気の中で子ども達が大事にされている、また私たち大人の事も受け止めてもらい、安心している」と温かい評価をいただいた。しかし、現実的に子ども達と保護者と関わっている保育者は悩む事も多くなっている。両面の支援の大切さ、難しさを感じさせられている。

新しい保育指針が施行され、保育士の資質、保育の内容の充実が問われてきたところで、昨年から学んでいる、目の前の子どもの捉え方、記録の取り方を引き続いて学びながら、2009 年度は樋口正春先生を法人西地区の研修に招き話を聞いた後、参考資料を読み解きながら自分の保育を捉え直してきた。今後も目の前の子ども達が安心して過ごせる保育園でありたいと願っている。また子育て、仕事で悩んでいる保護者も多くなっているので一緒に考えていける保育者集団でありたいと考えている。

一時保育もまもなく 3 年目を迎える、登録者も多くなり、多くの人に利用してもらい、そこから地域のニーズも感じる事が出来た。その中でもアレルギー児の対応や発達が多少気になる子の受け入れ、保護者の内面的病気などから緊急で毎日預かったりしてきたので保護者からは喜ばれた。が、現場の苦労は大変だった。今後もこうしたケースは増えてくると思う。

環境整備・修繕など

○保護者トイレ改修

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（7 時 30 分まで）（1 時間延長後 30 分は自主事業）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（3 名受け入れ）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施（12 名）

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年 3 回実施予定だったが新型インフルエンザの流行のため 1 回のみ
- ・ 退所児童との交流 年 3 回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年 28 名受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 園庭開放 毎日

- ・プール開放 夏期期間中 120名ほど参加。とても好評だった。
- ・保育所体験 年 24回・30人受入れ実施
- ・育児困難家庭への支援 (10名受入れ在籍)
- ・外国人児童受入れ (6名受入れ在籍)
- ・自園型年末保育 (8名)
- ・自主的取組 障害児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ	0歳	6名(2名)	18名		午前フリー、看護師
たんぽぽ	1歳	4名(1名)	20名		午前、午後フリー
ちゅうりっぷ	2歳	4名	24名		午前フリー
花	3歳	3名(1名)	26名		午前フリー
星	4歳	3名(1名)	25名	(2名)	
月	5歳	2名	27名	(1名)	
園児計			140名	(3名)	
延長		1名			
一時保育		2.5名(1.5名)	10名定員		
他朝、夕、土曜日の保育士		25名(25名)		3名	
合計	55名(30名)				

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295 日
25日	23日	26日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	25日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月
- 幼児 年2回(5月、11月)
- 歯科検診 年2回(6月、11月)
- 蟯虫卵検査 年1回(6月)

エ 保 育

各組の保育目標

つき組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ・ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
- ・ 異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題・・・自分の思いを言葉で伝える事を考え、話し合える場面を多く持つようになってきた。トラブルがあると皆で話し合うようにし、お互いの思いを大人が繋げる事によって人の思いがわかるようになってきた。皆でやる事・協力しあう事・一つのことを成し遂げあう経験の中から仲間を意識し、一緒に工夫し子どもだけで遊びこむ姿もあった。また、自分が中心の甘えん坊が多いクラスだったが、自分たちより小さい子の面倒を見たり、お世話をするなどの年長としての自覚も出て、頼もしさを感じるほどに成長した。

ほし組（4歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 友だちと遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・ 意欲的に色々な事に挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

年間目標 評価・課題・・・ちょっとした事でトラブルになるほどに子どもたちの思いの中に余裕がなく、一人が何かをするとそれにつられての行動が多く、実年齢よりかなり年齢を下げて見守る必要があった。また、なんにしてもやる気が生まれてこない。「どうかなる。」「誰かがしてくれる。」という思いの子が多く、主体性が感じられないのは小さい頃からずっと続いている。それでも子どもたちの中から、色々な提案や思いを出せるようになってきたのを大切に拾いながら育んできた。5歳としての自覚を伸ばしていけるよう今後も見守って行きたい。

はな組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたいことが表現できるようになる。
- ・ 外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・ 食事・排泄・睡眠・衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。

- ・ 様々な物を見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにする。

年間目標 評価・課題・・・感覚遊びを続けてきた事によって子どもたち自身がかかなり落ち着いて遊べるようになり、個別に自分で遊びたい遊びを見つけて楽しむ事も出来るようになってきた。また、園庭や幼児クラスとして異年齢の子ども同士の関わりの中で、世界も広がってきたように感じる。まだ、思いを言葉にして伝えることの難しい子・出来ない子がいるので、その一人一人の思いを言葉にして返したり、代弁する事によって思いの共感を得られるようになることを今後の課題として行きたい。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・ 身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・ 簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・ 保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・ 大人やまわりの事に興味を持ち、見立て、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題・・・自分の感情のコントロールが出来ず、その姿が一人二人ではなくクラスに蔓延している状態が昨年から続いている。1人ずつの心をほどこく為の関係作りから始まり、遊びを通しての関わり、生活面での声掛け等、丁寧にクラスで話し合いながら進めてきた。一進一退を繰り返しながらも、人との関わり方や思いを言葉にして返していくことで徐々に落ち着いてはきているが、大人が気持ちを緩めるとクラスの雰囲気が変わってしまうので、子どもたちの姿を丁寧に見てゆくことと子どもたちの育つ力を信じて委ねることを課題として行きたい。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・ 保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にを行い身体を動かすことを楽しむ。
- ・ 安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・ 安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・ 身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

年間目標 評価・課題・・・大人に仲立ちをしてもらいながら、子どもたちは自分たちの遊びを見つけたり、友だちとの関係を繋げる関わりが出来ていった。グループごとで保育内容が異なり、その都度話し合いを持って来たが中々改善は難しかった。基本的には穏やかな子どもたちが多く、のんびり保育園生活を楽しんでいる様子が子どもたちの表情から伺えた。しかし、子どもたちの穏やかさに救われた1年であった。言葉を渡す事はこの年齢でも引き続き大切にして行きたいと考えている。また、園の保育の方針についての話し合いの場をもっと持てればよかったと反省している。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。

- ・ 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適な生活が出来るようにする。
- ・ 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・ 個人差に応じて離乳を進め、色々な食品に慣れ、幼児食への移行を図る。
- ・ 優しく語りかけたり、発生や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ・ 聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・ 安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触ったりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題・・・気にかかる保護者・子どもが居り、相互理解をはかるために一つ一つ丁寧に伝えていくことにした。子育てがわからない方や色々な情報から得た子育て論を持っている方がいて、話し合いで理解し合うのはかなり難しい状況である。今後も理解し合えるように信頼関係を築けて行けたらと思っている。また、人見知りや周りの環境の変化によってよく泣く子どももいたが、時間をかけて関わる中で安定していった。気長にじっくり関わる事の大切さを改めて教えてもらった。途中、職員の急な退職があったが、他の職員の迅速な対応と話し合いによって、安定した保育が提供できた。

つくし組（一時保育）の年間目標

- ・ お家の生活リズムにあわせながら、安心して過ごせるようにする。
- ・ 安心できる環境・人的環境を考え、居心地の事の良い空間を提供していく。
- ・ 思いを受けとめ信頼関係を作り、情緒の安定を図る。

年間目標 評価・課題・・・今まで利用していた方が幼稚園に入って利用者が一時少なくなったが、保護者や子どもの中に気になるケースが見られた。保護者のケアをどこまでするかも問題であるが、支援センターの支援を得て対応してることができた。7月頃より少しずつ保育希望者が増えはじめ、9月からは仕事を持つリピーターが多くなってきた。気になる子どもへの配慮や6ヶ月から乳児の預かりを行っているので、状況に応じて補助の職員が入り、対応してきた。保育園の平常の子どもたちと一緒に園庭で遊ぶこともあり、交流も出来た。一人一人を大事にし、ゆったりとした保育で子どもたちも自分の場所という感じで生活している。お散歩保育・アレルギー食・育児相談など、保護者にとっても安心して預けられる場所にしていきたいと考えている。

2009年度実施行事

- 4月 3日 入園式（2万円）・ 保護者会総会（19日）
- 5月 保護者懇談会(随時各クラス)・ 個人面談
- 6月 歯科検診（3.5万円）・ 歯磨き指導・保育参観・学童訪問
- 19日 救命救急法講習会
- 20日 地域食事講座
- 27日 地域お楽しみ会（8万円）
- 29日 プール開き（3万円）・ 地域プール開放（2万円）

- 7月 4日 まきばの会 (6万円) (ケアの必要な子を支える会)
- 11日 1年生の会 (2万円)
- 17日 0歳父親懇談会 (1万円)
- 18・19日 5歳児お泊り保育 (8万円)
- 9月 11日 Welcome Day (敬老の集い) (3万円)
- 10月 17日 運動会 (15万円)
- 22日 防災訓練 (かがわブロックと合同)
- 幼児遠足 (3歳・5歳 9万円)
- 11月 14日 秋祭り
- 18日 感謝礼拝・感謝訪問 (3万円)
- 歯科検診 (3.5万円)
- クラス懇談会 (随時各クラス)
- 12月 19日 クリスマス会 (17万円) ・OBと地域のクリスマス会 (5万円)
- 1月 9日 餅つき会 (3万円)
- 2月 保育参観・懇談会・年間総括
- 3月 新入児説明会・お別れ会食
- 14日 卒園式 (10万円)
- 18日 卒園遠足 (4歳・5歳) (9万円)
- 26日 進級を祝う会 (10万円)
- 月例行事 誕生会・避難訓練

年間行事 評価・課題 一つひとつの行事が子どもにとってどういう意味があるのかを検討し、確認しながら、大事にしていきたいものは残し、日々の保育の中で大人と子どもがゆっくり、過ごせる時間を多く持てるようにしてきた。目的、ねらいの確認もし、次年度のあゆみにつなげていくことにした。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題 年度初めに愛の園保育園の調理目標を作り、そこに中心を置きながら、子どもと食事を考えながら調理してきた。定期的に調理委員会を開き、目標の確認をしながら愛の園の「食事」を皆で確認しあえたと思うし、これからも続けて行こうと思う。家庭での食事のあり方が気になっているところで、子どもの食の基本をどこに据えるかも確認しあい、健康の為に薄味・食材選びなども考慮しながら、楽しく食事をするために保育士と調理が食育について考え、話し合ってきた。保育園、一時保育事業とアレルギーの子の幅も広がってきているので、クラスとの連絡を細かくする必要をますます感じている。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練 毎月1回 隔月は夕方

引き渡し訓練の実施 (10月22日)

安全管理 評価・課題 非常災害に関しては、職員や子どもが災害時、混乱することが少しでもなくなるように毎月の避難訓練には力を入れてきた。また、隣の障がい児・者の施設と合同の総合訓練を消防署立会いの下に消火訓練、通報訓練も行ってきた。

防犯の面では防犯用のカメラや防犯ブザーを設置したり、セキュリティの扉を設置し、不審者侵入防止対策をしている。不審者の件では市の子育て支援課、警察との地域連絡体制をとっており、連絡(メール)が入ると玄関に掲示し、保護者に伝えるようにしてきた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	20名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	30名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (7~9 月)

細菌検査 年 12 回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月2回

行事前打合せ会 (随時)

期別反省会 (年4回)

リーダー会 (月1回)

乳児・幼児打ち合わせ会 (週1回)

クラス別打ち合わせ会 (月1回)

調理委員会(月1回)

会議 評価・課題 月2回職員会議を持っている。1回は牧師先生に来ていただいて、聖書の学びをした後、諸問題について話し合い。2回目は学習会とし、今年度は2009年4月から保育指針が施行されたところでの中にある保育士の資質の向上から、子どもの見方、記録の取り方の学びを昨年に引き続き行った。一人一人が自分の保育について考えられるようにグループ討議、シンポジウム形式で学んできた。その他に乳・幼ブロック会では自分たちの抱える問題について話し合ったり、リーダー会では気になる子の話しや、問題となっている事を中心に話しをした。

エ 研修報告

○法人内研修

○園内研修

- ・ 牧師先生に来ていただいて聖書の学びをしている。
- ・ 環境について樋口正春先生の話聞いた。(5万円)
- ・ 発達上で気にかかる子どもの巡回指導(月1回)(20万6000円)

○法人外研修

- ・ 小金井子ども地域ケア一連絡会
- ・ 子どもの文化学校研修
- ・ キリスト教保育所同盟
- ・ 民間保育園協会研修
- ・ 東社協保育団体研修 食事研修

研修 評価・課題 法人内、法人外の研修に参加し、その報告を職員会でしてもらい、皆のものとなるようにしてきた。法人外の研修は新人のための研修や年齢別、保護者との関わり、食育等に参加し、共有してきた。法人の研修では法人の理念など学ぶことが出来た。また昨年に引き続き環境というテーマで話が聞けたことは良かった。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
- 株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務(保育、給食、健康管理)

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題 ・子ども達一人ひとりの成長を考えていく上で指導計画の充実に努力している。

・アレルギー児がますます増えてきて、食材が広がってきているので大変な面はあるが、医者、看護師、栄養士、保護者と話し合いながら進められ、他の子とあまり変わらない物が提供できたのは良かった。子どもの食育を考える上で一人ひとりの食について保育者と調理側が調理委員会などを通し考えながら進めてくれたのはよかった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

- 保護者用トイレの改修

乳児用砂場修理

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ クーラーのメンテナンス

設備関係 評価・課題 保護者から声のあった「トイレが少ない」の声に玄関前のトイレの改修をした。
また、一時保育室工事の時に使えなくなっていた乳児用砂場の修理をして小さい子供が遊べるようにした。
エアコン関係、給湯器関係が古くなり、今後も修理が必要になってきたのが増えてきている。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・ 電話機取り換え

イ 保育用品購入

- ・ 砂場の砂の取り換え

ウ 給食用品購入

- ・ 食器補充

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

子ども達が安心して落ち着いて遊べる環境づくりのためにおもちゃの充実をしている。
少しずつ各クラスの棚も考えているところ。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月 1 回

イ 防災設備の点検委託

年 2 回 (内、届け出 1 回)

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全園児数 + 全職員数) × 3 食 × (1 日 ~ 3 日) 分

災害対策 評価・課題 月に 1 回避難訓練を行なう中で、子ども達は、火事、地震などが起こったらどうしたらよいかの話を聞き、避難の仕方も上手になってきている。非常食も防災訓練の日に昼食として食べながら、本当に地震が起こっても保育園には食べるものがとってある事を伝えるとともに、在庫のものを新しいものと取り替えるようにしている。

3 地域社会との連携

- ・ 地域の子育て中の家庭を対象に母子通園、プール開放、育児講座、お楽しみ会などを行った。

地域社会との連携 評価・課題

- ・園に入所している子どもで気になる家庭の事を近隣にある子ども家庭支援センターと連絡を取りながら必要な場合には、保健所、市の子育て支援課などと定期的に話し合いを持ってきた。また、支援センターから気になる家庭の子どもについて紹介され緊急一時保育で預かったり、保育体験でクラスに子どもを受け入れたりしてきた。これからもっといろいろなケースが出てくると思われるので地域と連絡を取りながら出来ることはしていきたいと考えている。
- ・地域に向けてのお楽しみ会、プール開放、園庭解放などはとても喜ばれている。また一時預かり事業に週3~4回ぐらい仕事のために預けたいという家庭が増えてきている。そしてこの4月に幼稚園、保育園に入園というケースもあった。利用者も増えてきて、待機児解消も含めいろいろな意味での一時保育事業の必要性を感じている。

前文

- 昨年度に室内環境については一応の共通理解をしたので、今年度はそれをもとに整えることから始められるようになった。おもちゃの類も少しずつ整ってきた。「おもちゃのアルバム」がなかなか積み上がらなかったの、今後は職員がわかりやすく、意味ある形で積み上げていくことが出来るように考えていく必要があると考えている。
- 職員の知恵を出し合って考えた園庭の木製総合遊具が完成した。幼児が中心に使用することになるだろうと当初想定していた箇所でも、意外に乳児が使用出来るため、安全が守られるように何度も職員同士で話し合いをした。今後も観察して必要に応じて検討していく。園庭の環境についてはどんなものをどのように整えていくのか今後の大きな課題である。
- 新澤誠治先生、依田幸子先生を園内研修にお招きし、「親支援」について学び合う。
- 年度の後半に、「市の学童保育では保育時間等でニーズが満たされないので五日市保育園でなんとかならないか」という旨の要望が、年長組保護者からあった。そのため、職員と話し合いをもち、次年度から「小学校の低学年児童の受け入れ」を行うことを決め、その準備を進めることとなった。
- 4月は88名スタート。途中入園のニーズに応え、年度末3月で96名となる。（定員97名）

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：6名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受け入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（その他：5名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受け入れ 年 27 日受け入れ
- ・ 保育所体験 年 10 回実施
- ・ 出前保育 年 11 回実施
- ・ 年末保育 12/29、30 に実施。

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（3月現在）

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ	0歳	3名	10名		+パート1名

たんぽぽ	1歳	2名	12名		+パート1名
ちゅうりっぷ	2歳	2名	14名	1名	+パート1名
れんげ	3歳	2名	16名	2名	+パート1名
すみれ	4歳	1名	21名	2名	+パート1名
いちよう	5歳	1名	22名	1名	+パート1名
合 計		11名	96名	6名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294 日
24日	24日	26日	25日	27日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	24日	23日	22日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（4月23日、10月14日）

歯科検診 年1回（6月10日）

蟻虫卵検査 年1回（5月13日配布。18日回収）

エ 保 育

各組の保育目標

いちよう組（5歳児）の年間目標

- ①神と人から愛され、自分がかげがいのない存在であることを感じる子ども
- ②健康で体力のある子ども
- ③自分で出来ることを自分でする。また、意欲的に物事に取り組む子ども
- ④友達と遊ぶことを楽しむ子ども
- ⑤色々な人との関わりの中で相手を思いやりつつ、自己発揮できる子ども
- ⑥自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり、表現する子ども

年間目標 評価・課題

担任は昨年に引き続き二年連続で年長クラスを見ることになったため、一年の流れもよく把握し、室内環境づくり等のクラス運営をすることが見通しをもって出来たようになり、子ども達も落ち着いていた。子どもたちは、お泊り保育やクリスマス会を通して協力してひとつのものを作り上げる喜びを経験することが出来た。インフルエンザの対応に追われ、運動会準備は運動会前日に全員が揃うという年であった。家庭・夫婦の問題を抱えている保護者が多いクラスであり、その対応に担任として丁寧に関わっていたと感じている。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ②身近な遊具や用具を使い、体を十分に動かし楽しむ子ども
- ③自分で出来ることを自分でする
- ④異年齢児に関心やいたわりを持つ。簡単なルールのある遊びを楽しむ子ども
- ⑤自然事象、動植物への関心や愛護の心、身近な社会事象などにも興味関心を持つ子ども

年間目標 評価・課題

障がいを持った子どもをはじめ、気になる子どもが多いクラスだった。はじめは子どもが担任によって自分の行動を使い分けていたような場面も見られたが、担任二人の考え方・子どもへの接し方が整えられ、少しずつクラスの子も達が落ち着いてきたものと感じられた。いつも同じ流れで進められたので、保育の流れが子どもたちにも理解でき、子どもたちが自分で選び、出来る部分が少しずつ多くなってきたのではないかと感じている。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ②散歩や戸外遊びなどで、自ら楽しんで体を動かす子ども
- ③身の回りのことで、自分で出来ることをしようとする
- ④ごっこ遊び等友達と仲良く遊びを楽しむ子ども
- ⑤身近な自然や小動物に興味をもつ子ども

年間目標 評価・課題

2歳クラスからの積み上げもあり、また室内の環境づくりについても年度当初から整えられ、クラスの子も達の雰囲気はとても落ち着いていたと感じられた。担任2人が室内でどのように動き援助していくのかわかってきているなども感じられた。気になる子が2名在籍することもあり、朝の会など集会には落ち着かずクラス全体がまどわされてしまう場面もあったが、全体的には徐々に落ち着いてきていると感じられた。気になる子に関しては関係機関との連絡もまめにしている。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ①自分の要求を大人の援助を受けながら言葉で伝えようとする子ども。
- ②体を思い切り動かして遊ぶ子ども（走る、はねる、飛び降りる等）
- ③保育士に声をかけられながら、自分で出来ることをしようとする子ども
- ④少人数の友達と関わって遊ぶことを楽しむ子ども
- ⑤身の回りの事物や自然などに興味を持つ子ども

年間目標 評価・課題

障がい児1名。この子は本来ならば3歳児クラスなのだが、3歳児クラスにすでに障がい児が2人在籍している為、保護者の了解もとり、このクラスで一年過ごすこととなった。

関係機関との連携をとりながら保育にあたる。また別に、本来は1歳児クラスなのだが、「かみつぎ」の問題から、このクラスで過ごすことになった子どもも1名いた。このように柔軟な保育体制を取り入れていった。このことについては次年度の保育を考える上でむしろ積極的に職員全員で話し合い、検討していく課題だと考える。この部屋は朝夕・延長保育時間にも使用するため、室内の環境の作り方は大変難しいものだと感じている。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①保育士に受け止められながら、自分の世界を広げていく子ども
- ②自由に体を動かして遊んだり、色々な道具を使い一人遊びを楽しむ子ども
- ③自分でしようとする気持ちを持ちながら、少しずつ基本的な習慣が身についてくる。
- ④大人からの話かけや絵本を喜び、自分でも片言を話すことを楽しむ子ども
- ⑤子ども相互のふれあいや、人とのふれあいを経験する。

年間目標 評価・課題

1名の男の子が、月齢の低い特に特定の2名に関して、繰り返し強いかみつぎが見られたことから、保護者と連絡を取り合い、情報交換したり、職員全体の問題として話し合いをしてきた。その結果、クラスを分けて観察していくこととなった。この子の本来的な欲求を含め、今後も引き続き対応が必要だと感じられた。1歳児クラスは月齢差・個人差が大きいクラス年齢と考えられるので、職員同士の関係プレーはより一層大切な上、今後の乳児の柔軟な保育体制をどのようにしたらよいか課題として考える必要がある。

れんげ組（0歳児）の年間目標

- ①特定の保育士との愛着関係が出来、安心して過ごせる。
- ②はいはい、伝い歩き等を経ながらしっかりと歩けるようになっていく。
- ③基本的な生活習慣が芽生え、徐々に離乳食が完成していく。
- ④簡単な言葉を理解したり、言葉を発したり、大人の真似を楽しむ。
- ⑤身近な人の働きかけや言葉かけを通して、身の回りのものに関心を示す。

年間目標 評価・課題

ゆるやかな担当制をとり、それぞれに安心出来る愛着関係が出来たのではないかと思う。年度の途中で園児が増え、それに応じてまた臨時職員を雇用し、増配置した。新たに入園した子どもの月齢も低く、それぞれの生活（睡眠等）の保障をクラス内でしていくために、またクラス全体の保育・職員の動き方を考えなければならず、大変であったろうと感じられた。年度の途中で園児数が変わるこの乳児クラスの現状を踏まえながらも、特に乳児はのんびりした雰囲気でも過ごしてもらいたいので、今後の0歳児クラスの保育を職員全体で考えていく必要があると思われた。

2009 年度 実施行事

4 月	1 日	入園式
5 月	14 日	遠足（幼児は親子遠足）
6 月	19 日	花の日。老人ホーム訪問。
7 月	4 日	夏祭り
7 月	16・17 日	お泊り保育
8 月	6 日・7 日	卒園児キャンプ
9 月	18 日	祖父母の集い
10 月	17 日	運動会
10 月	29 日	2 歳クラス親子遠足
11 月	6 日	遠足（2 歳クラス以外）
11 月	13 日	感謝祭・豚汁大会
12 月	19 日	クリスマス会
1 月	8 日	新年挨拶会
1 月	16 日	6 年生同窓会
3 月	13 日	卒園式

月例行事 誕生会 園開放

年間行事 評価・課題

園庭開放は月に 1 日程度実施しているが、特に決められた日以外でも来ていただけるように案内している。いらした方が（事前の連絡を頂いた上で）給食を食べられるようにしたり、陶芸を一緒にすることが出来るような企画も用意してみたが、あまり利用者は増えていない。今後は登録されている家庭により積極的に働きかけて、五日市保育園と家庭とのつながりを密にしていくことが必要かと考えられた。

昨年度から、誕生日会とは別に、園児の誕生日当日に誕生日シールを子どもの胸に付け、「おめでとう」と声を掛けることにしたが、子どもたちや保護者の方はとても喜んでくれている。その子にとって独自のとても大切な日と捉えて今後も大切に考えていけたら良いと思う。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

・乳幼児期における成長・発達を促すエネルギー量、たんぱく質量を考慮し、季節感を取り入れ、栄養素のバランスのとれた献立を作成し、実施することが出来た。

・今後も引き続き、子どもたちに食の大切さを伝えていきたい（畑での野菜づくり・クッキングデー他）。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練（月 1 回）

引き渡し訓練の実施（9 月 11 日）

安全管理 評価・課題

小学校のグラウンドを使い引渡し訓練を行う。並び方・引渡し方、いつもと違う人がお迎えに来たときの想定など色々なケースが考えるので、更なる共通理解が必要であると考えられた。この方式で 3 年目となり、我々職員も少しずつ要領よく進めることが出来るようになったと感じている。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1 名
主任保育士	1 名
看護師	1 名（主任兼任）
保育士	10 名
産休・育休職員	1 名
調理員	3 名（栄養士含む）
嘱託医	1 名（非常勤）
臨時職員、パート職員	32 名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（10 月 23 日）

細菌検査 年 12 回（全員）

ウ 職員会議

定例職員会 毎月 1 回

事前リーダー打ち合わせ会

乳児カリキュラム会議・乳児クラス打ち合わせ 毎月各 1 回

幼児カリキュラム会議・幼児クラス打ち合わせ 毎月各 1 回

反省会（2 月 10 日）

非常勤職員研修

会議 評価・課題

事前にリーダーと議題を確認してから始めているので、各打ち合わせがスムーズに行われるようになってきている。内容にもよるが、役割を分担し、職員主導でどんどん進めていくことが出来るように整えていきたいと考えている。

エ 研修

- ・園内研修 毎月1回
- ・法人内研修（階層別研修・職種別研修・他職場体験研修等）
- ・他保育園見学研修
- ・その他研修

研修 評価・課題

非常勤職員が多く在籍しており、職員会議に出ていない職員には決定事項が伝わりにくい。そこで今年度も昼間・夜の時間を使い、非常勤職員研修を充実。決定事項の伝達とともに研修を行うことが出来た。非常勤職員はその勤務時間の関係から日常的にあまり会わない職員同士もいるので、これを機会に関係が密になり、良かったのではないかと感じている。利用者ニーズが増えている今日、保育をしていく仲間として非常勤職員の働きの意味はとても大きい。非常勤職員の声をより一層聞き取り今後に生かしていくことが大事だと考えている。特にクラスづきの非常勤職員については、月案をもとに月一回程度の情報交換がとても必要になると思う。

正規職員の園内研修について。今年度は新澤誠治先生・依田幸子先生をお招きして、「親支援」ということでお話をしていただいた。各クラスに、ひとり親家庭・夫婦の危機を抱えている家庭・うつの親なども増えており、親との関わりが年々ますます困難になっていることも事実なので、今後もこの課題について考えていく必要があると感じている。

また、障がい児を含め、年々気になる子が増えていることも否めない。クラスに複数いる場合もある。今後専門的な知識を持っていくとともに、職員間の協力関係を一層必要と考えられるので、今後の大きな課題である。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
- 株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務

- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

会計事務においては整理が進んでおり、業務も行いやすくなってきている。保育主任と事務主任と業務分担をしたことで全体的にはスムーズに仕事が進むようになったと感じている。今後はパソコン等の導入で更なる業務の効率化を目指したい。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

特に 2 階の保育室の床で悪くなってきている箇所がいくつか出てきている。また、もともと幼児クラス様につくられた部屋をここ数年 2 歳児クラス（朝・夕は合同保育や延長保育室）として使用しているが、トイレ設備は昔のままになっており年齢にマッチしているとは言えない。早い時点で耐震調査等の点検をしてもらい、今後大規模修繕・建て替え時期はいつ頃を予定してくのか、その見通しにもより今後の計画をたてていきたい。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

子どもがその興味・関心に応じて遊び、また生活の場面においても各々の空間が保障されるように、コーナー的な室内のつくりを必要とする。少しずつではあるがおもちゃの棚・ままごとセット・しきり等を購入し、全体的には充実してきている。今後も家庭的で落ち着けるような雰囲気的环境づくりを目指し、少しずつ整えていく。

「がた」や「きしみ」のあるイスなども出てきているので、よく点検し、必要な物を修繕したり購入していく予定である。

園庭の環境づくりはまさにこれからと考えられるので、必要な備品等についても考えていきたい。

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
年2回（4/13、3/26の2回）

- ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

避難訓練はほぼ予定通りに行われ、非常食糧の備蓄も出来ている。ただ、より現実的に災害を想定して訓練を行う為には、土曜日・朝夕・延長保育時間等、職員の人数が少なくなっている時間帯・曜日での避難訓練をしていく必要があると感じられた。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

近隣の老人ホームや障がい者施設とは行事等を通して交流を続けている。特に障がい者施設は近いこともあり、散歩のときにお互い立ち寄るなど無理なく継続した交流が出来ている。小中高生の職場体験等も可能な限り受け入れ、様々な人との交流が出来るようにしている。初めは慣れない子どももいるが、ほとんどの子どもは喜んで関わりをもっている。

育児困難家庭が増えており、今年度は地域の民生委員と連絡をとることがとても増えた。今後もますます連携が必要となる場面が増えることだろうと考えている。

4 その他（特記）

- (1) 卒園児キャンプ…8/6・7日。青少年旅行村。31名が参加。
- (2) 6年生同窓会…1/16日。保育園内で実施。
- (3) つくし講座(親講座)…1/16。親子参加型のリトミック体験講座。

前文

- 新保育所保育指針の改訂によって、小学校との連携が求められることとなったが、この1年間を通して地域の保育園4園と力を合わせ、地域の小学校との連携を進めてきた。単に保育要録を送るだけでなく、本当に連携をしていくとはどういうことなのか、地域の園長が集まり協議を重ね、小学校にも働きかけ、校長の講演会や、小学校児童との交流を実施してきた。地域の保育園で力を合わせてできたことの意義は大きいと思う。指針の改訂では食育も大きなことだと思う。実際に神愛で実践していることは食育そのものだと思う一方、その発信や表現は不十分な所が多いので、そのあたりをしっかりと形のあるものにしていきたい。
- 子育て支援は17年目を終わることになる。担当者が代わり良かったこともあるし大変だった部分もある。担当者は固定しないで、保育の経験を十分積んだ上で色々な職員が経験できると良いと思っている（誰でもできる部署ではないので）。一言で17年というが、その歩みは社会の必要を先取りした、本当に大切なものであったと再確認している。このことが法人の中でどれだけ認識されているのかと思うこともあるが、広がる子育て支援の働きをこれからも地に足をつけて進めていきたい。
- 卒園児支援のプログラムは多い。これらの事業を正規職員が減り、中心的に担ってきた職員が一人ずつ異動していく中で続けていくにはどんな工夫が必要か。神愛の大事な柱として続けているこの事業をしっかりと継いでいくために、今までの既成概念にとらわれずに考えることが求められてくるだろう。
- 保護者への発信も積極的にと、園便りに日誌の掲載をしたことも大きな意味があったと思う。これからも、日誌の掲載を通して保護者の理解が少しずつでも進むことを願っている。また、日誌を読み合うことで保育者達の学びにもつながるので続けていきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児のスポット受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（今年度は在籍2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施
- ・ 退所児童との交流 年6回実施

- ・小中高生の育児体験受入れ 年 30 日間受入れ
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年 20 回・40 人受入れ実施
- ・出前保育 年 11 回実施
- ・子育てサークル支援 年 15 回実施
- ・子育て情報誌の発行 年 5 回発行
- ・育児困難家庭への支援 (1 名受入れ在籍)
- ・自主的取組 障碍児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
つくし	0 歳	3	9	0	
たんぽぽ	1 歳	2	10	0	
もも	2 歳	2	14	1	
ちゅうりっぷ	3 歳	1	16	0	
ひまわり	4 歳	1	17	1	
ひまわり	5 歳	1	14	0	
子育て広場	その他	1			
合 計		11	80	2	

イ 月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計 293 日
25	23	26	26	26	23	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
26	23	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎 月
- 幼児 年 2 回 (5 月、 10 月)
- 歯科検診 年 2 回 (6 月、 10 月)
- 蟯虫卵検査 年 2 回 (6 月、 10 月)

エ 保 育

各組の保育目標

ひまわり組 (4・5 歳児) の年間目標

好きな友達やクラスの仲間と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わう。

様々な活動や遊びに意欲的に取り組んで行く。

自分なりのイメージを表現することを楽しむ。

自分の好きなこと、得意なことがあり、友だちのことも知り、皆で認め合うことで自信になっていく。

人の話をよく聞き、自分なりの考えを持ち、自分の気持ちを言葉で伝えることができる。

年間目標 評価・課題

男の子だけ 14 人の集団になったが、4 歳児との混合クラスということもあり、特別に困ること、変わったこともなく過ごしていた。男の子だけの集団活動になると、やはり雰囲気が違う等のことはあったが、このことも前向きにとらえ、特に卒園式は男の子の集団らしい式になったのではないかと思う。この 1 年も、たてわり保育を考えながら 3・4・5 歳児の保育も考え実践してきた。充分ではないが評価はできるだろう。これからにつなげていけると思っている。2010 年度も進めていきたい。

(4 歳児) の年間目標

自分が思うこと、考えたことを言葉で伝えあい、相手のことも受け止められるようになってくる。

年間目標 評価・課題

4、5 才混合クラスの中の年中児は、やや中途半端な感じになりがちだが、はじめから一緒に考えるということでスタートしたので、そんな感じはなかった。気になる子の関わりについては丁寧に行っているつもりだが、母親と一緒に考えることは十分ではなかったと反省している。

ちゅうりっぷ組 (3 歳児) の年間目標

生活する中で自分でできることが多くなり、大人が受け止めていく中で自信が持てるようになる。「ぼくが、わたしが」と自分でやってみたいと思うようになる。

身体を動かして遊ぶ楽しさを十分味わえるように、泥んこ遊び、水遊びなど年間を通して様々な遊びを楽しんでいく。

大人に見守られながら、生活の流れが分かるようになり自分で身の回りのことが少しずつできるようになってくる。

経験したことや楽しかったことなど、大人や周りの友達に伝えていくことが楽しいと感じられる。また自分の思いをたくさん出していく中で、少しずつ相手の思いに気付いていくようになる。

ごっこ遊びを十分に楽しみイメージを広げていき、その中で友だちとの関わりが楽しいものとなってくる。

年間目標 評価・課題

外遊びが大好きでたくさん外での遊びを楽しんできた。いつも決まった公園だけでなく、地域の中に出ていくという感

じの散歩もして、実際パン屋さんにつながったりしていく過程はとでもおもしろい。中には、部屋の方が好きな子もいるが、ごっこ遊びを中心に部屋でじっくり遊んでいる。表現活動は描画を中心にかなり意図的に取り組んできて、面白みのある実践を通して、神愛の今までの表現活動に一石を投じたと言えるかもしれない。どちらにしてもたくさん遊んでいく中で、友達同士の関係はより親密になってきている。個別に見ると気なる姿のある子はいるが、丁寧にやりながら子どもたちの変化を見ていく。重度のアレルギー児がいる中、調理活動や絵の具の活動に前向きに取り組んできた。

もも組（2歳児）の年間目標

沢山の自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して自分の気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。

自分の好きな遊びをじっくりと遊んだり、さまざまな遊びを通して他の子どもたちと遊ぶのが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。

日簿の様々な体験の中で感じる嬉しさや楽しさ、新しい発見などを大人や他の子どもに伝えようとしたり、思いがぶつかった時には「どうしようか」と少しずつ考えようとする。

絵の具や土粘土など様々な素材に十分触れて、のびのびと表現活動を楽しむ。

年間目標 評価・課題

子どもたちの自己主張に対して、保育者はそれぞれの気持ちに耳を傾け受け止めようと努めてきた。特定の大人との関わりを執拗に求める子どもに対しては、職員のチームワークの中で対応を考えてきた。また、自分をあまり出せない子には、その子の思いを職員が代弁することで少しずつ思いを出せるようになってきている。子ども同士の関わりも多く見られるようになり、一緒に楽しんでた。昨年課題として残った表現活動は保育者が計画的に活動を組み立てたことで、いろいろ経験することができた。初めはあまりやりたがらなかった子も経験を重ねていくことで、楽しんで出来るようになったことはうれしい。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

保育士に親しみ、安定した中で十分に自分の思いを出す。

一人ひとりが自分の興味あるものに向かい、好奇心をふくらませ、じっくりと満足するまで探索活動を楽しむ。

他の子や保育士と一緒に遊ぶことを楽しむ。

歩いたり全身を動かして遊ぶことを楽しむ。

年間目標 評価・課題

経験者が途中から産休に入り、2年目の保育者がリーダーを引き継いだ。パート職員と力を合わせて目標の達成に向け、保育を進めることができた。少人数の活動を取り入れたり、日頃から保育者同士で子どもの姿について話し合いを深めたり、子どもの自己主張に対してどう関わるか等について声を掛け合いフォローし合いながら出来た。

つくし組（0歳児）の年間目標

園と家庭とで連携して、24時間の生活リズムを大切にすることで、気持ちよく過ごす。

大人との関わりの中で、様々な欲求や要求を十分に受け止めてもらい、信頼できる大人の存在

ができ、その大人を介して、周りの人や物へと興味を広げていく。

姿勢を変えたり、移動、歩行など身体を十分に動かすことを楽しむ。

室内外での探索活動を楽しみ、見る、聞く、触る、しゃぶるなどの感覚や手の動きが育つ遊びを沢山する。

嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く・笑う・表情・仕草・喃語・片言などで自分の気持ちを表す。

大人が歌う歌を喜んでいたりする中で心地よく過ごし、大人にあわせて声を出したり動作を真似て楽しむ。

年間目標 評価・課題

子どもや保護者への関わり方について、当初はクラス内で意思疎通を欠く面もあったが、親子にとって保育園生活のスタートの場であり、本来はゆったり安心できる場であるべきことを相互に確認し取り組んできた。子どもは内なる力に信頼し、より良い関わりをつくることに力を注いできた。このような経過の中で、チームワークが何よりも大事だということを再確認した。

2009 年度実施行事

4月2日	入園式
6月16日	こどもの日、花の日
6月5日	親子遠足
7月8日	プール開き
7月16～18日	4・5歳児キャンプ
8月7日～9日	卒園児キャンプ
9月11日	おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会
10月10日	運動会
10月16日	いもほり遠足（3～5歳児）
10月20日	収穫感謝礼拝
11月8日	神愛まつり
12月19日	クリスマス会
1月8日	餅つき
2月15～22日	作品展示
3月18日	お別れ会
3月20日	卒園式

月例行事 誕生会・隔月で園外保育

年間行事 評価・課題

年間行事については見直しをしながら進めている。行事の中心となる年中・年長クラスを初めて持つという職員にとっては、確認をしながらの作業が必要であり、時間もかかるが子どもにとってという視点と見通しを大事にしていく。どこを

大切にしていけるか？という確認はしてきているが、特に手作り等は保育者の時間のやりくりが難しく負担に感じている様子はある。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して、季節の素材を積極的に取り入れた献立をたてること、安心・安全な食材を使用していくことは、園としての大事な考え方である。それをより積極的に伝える方法として、季節の食材の展示を行なった。保育との連携という点では、お互いに意見を聞きながら進めているが時間に追われ、もう一步踏み出せないところもある。また、アレルギー児への対応では、チェックリスト等も揃えて対応してきているが、それでも落ちてしまうことがあったのは大きな反省である。給食室のメンバーも変わっていくので更に努力が求められる。食育に関しても給食室主導で園全体のものを作っていく。

カ 安全管理

交通安全教育（11月14日）

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施（9月1日）

安全管理 評価・課題

「ホンダ」の交通キャラバン隊による交通安全指導を実施した。子どもたちの興味、反応も大きく、親の反応も大きかった。日常の保育士による指導だけでなく、こういう機会も大切にしていける。避難訓練は子どもたちの中に浸透してきており、上手に避難できるようになっている。課題として非常滑り台の使い勝手の悪さがあり、どうしていかか考えていきたい。そしてかんたんメールでその報告をするように心がけている。引渡し訓練は、親の意識も大きいので防災の日に設定している。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	11名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	17名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（9月～11月）

細菌検査 年 2回 (5月、10月)
給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月2回
行事前打合せ会 (随時)
期別反省会 (年2回)

会議 評価・課題

職員会議は少ない時間で中身の濃い話し合いにしたいと、主任を中心に工夫している。職員の意識も少しずつ変化してきていると思うが、十分とはいえない。主任・リーダーは会議の進行(必要な話か、まとめられるものかを見極めて)を工夫しなければと思う。期末反省は、年2回で十分な話し合いの時間をとっている。それぞれの反省を全体のものとして生かす努力がもっと必要と思われる。

エ 研修計画

- ・ 園内研修 (年5回)
- ・ 法人内研修
- ・ キリスト保育連盟研修
- ・ 全国私立保育園連盟カウンセリング研修
- ・ 子どもの文化学校研修
- ・ 東社協保育士会研修、給食研修
- ・ 行政主導の研修
- ・ 江東区私立園長会研修・公私立園長会研修

研修 評価・課題

外部の研修は近場に出かけることが多かったが、職員が自分で学びたいと思うところに行けたのは良かったと思う。職員みんなで共有していくために、会議の冒頭に研修報告の時間を入れるようにしたが、これは研修に参加した本人も、また報告を受けた職員も双方にとって良かったと思う。こんな保育がしたいと休日を使ってでも参加する意欲は評価していきたい。また、荒馬に関する研修は園独自のものとして全額補助の考えでやっっていこうと思う。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、
- ・ 実費徴収事務

- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成・日誌・児童票
- ・ 給食献立表等の作成・給食日誌
- ・ 健康診断記録表等の作成・保健日誌

事務関係 評価・課題

会計事務、管理事務とも事務局の助けを借りながら、把握できるように努めている。まだ、園の会計全体はすべて見渡せない部分もあるので、更に理解を進めていきたい。事務のパートを雇い入れ、日常の印刷・配布などの事務仕事もお願いできるので、保育者の事務量の省力化にはなっていくのではないかと。保育、給食の事務はなんとか時間内にとの気持ちはあるが、現実には簡単ではない。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ 給食室給湯管工事
- ・ 乳児室床磨き

設備関係 評価・課題

施設の建物自体の老朽化と設備の老朽化と双方を考えなければならない。見渡せば更新したい場所はいくらでもある。計画的にすすめていくことの大切さを痛感している。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

- ・ ひだまり・給食室エアコン
- ・ 給食室流し台
- ・ 3歳児机
- ・ 2歳児棚
- ・ ひまわり階段
- ・ AED

- ・ ハンディキャンパー（折りたたみ式リヤカー）

備品関係 評価・課題

手を入れたい老朽化所はまだまだあるのだが、計画的にすすめていきたい。指導検査で指摘のあった0歳児室の高床ベッドについては、なんとか年度内に撤去できたのは良かったと思う。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

災害時の非難訓練もほぼ予定通り実施。実際に起こった時はどうなるのか課題はその都度出されるが、話し合いながら進める。障がい児もいる中で、おぶいひもを各クラスに用意することを確認したにもかかわらず実行されていなかったのは大きな反省である。園で用意している避難靴、防災頭巾なども十分なのか続けてみていく必要もある。また、今年も防災の日に、非常食を食べ比べて子ども達にもその意識を持って欲しいと実行した。

3 地域社会との連携

- ・ 花の日に近くのデイサービスホームを訪問する。
- ・ （十分ではないが）江東区子ども発達センター、親子教室との連携
- ・ 近隣の小中学校との連携—今年は、年長児の保護者対象に小学校の校長先生に講演会をお願いしたが、新型インフルエンザの流行と重なってしまったため、参加者が少なめで残念であった。また、夏の保育園体験ボランティアにも協力していただいている。反対に中学校の職場体験も受け入れ、相互交流となっている。

地域社会との連携 評価・課題

ある程度定期的なお年寄りの施設を訪問したいと思っているが、なかなか実行できずにいる。ご近所との協力関係については、日々の確認が欠かせないが、職員みなで努力した1年だった。今後もパートの人も含めた特に若い職員の対応を確認すると共に、職員全体で気をつけていくことを書類でも確認し、毎日チェックするようにしている。

子育て支援事業を進めていく上でも、民生・児童委員さんたちとの連携、また地域の方との連携を図りたいと思い、子育て支援の通信を送っている。更に地域の保育ママさん、保健センターとの連携も努力していきたい。

学校との連携では、新しい指針に則り、小学校長の講演会や交流等の連携を進めてこられたのはよかった。中学校では体験学習の場としての交流をこれからもはかっていきたい。

4 その他（特記）

記入者 菊地 せい子

2009 年度 7 月に分園が開設された。4 月から 6 月までの 3 ヶ月間、本園の弾力化の中で分園入園予定児 15 名受け入れた。分園採用職員も事前研修という形で本園に勤務した。園児も職員も人数が多く、慣れるまで混乱する事もあったが、互いに協力しあいながら保育をすすめることができた。特に大きなトラブルや事故もなく、3 ヶ月過すことができ感謝である。分園開園後は交流を持ちながら、行事、研修など合同で行なった。これから本園、分園がそれぞれの特色をどのように出していくのか、どのような関係を築いていくのかが問われていくことと思う。

また、年度後半には家庭的保育事業を実施することになりその準備が始まった。この家庭的保育と本園とどのような形で協力関係を築いていけるのか、2010 年度は試行錯誤しながら模索する年になることと思う。

分園への職員異動によって主任、リーダー体制を変更せざるを得なかったが、職員の協力もありそれぞれの職務を果たすことができた。

地域のネットワークとつながりながら園開放、出前保育を実施し、中学生、高校生の保育体験、ボランティアなどもできる限り受け入れ、次世代育成支援につとめてきた。地域のニーズに応えつつ、保育内容の充実、職員の質の向上を目指していきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（特児対象：2 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 50 日間受入れる
- ・ 保育所体験 延べ 100 人受入れ実施
- ・ 出前保育 年 6 回実施
- ・ 育児困難家庭への支援（2 名受入れ在籍）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
うさぎ組	0 歳	3 名	9 名		看護師

あひる組	1歳	3名	14名		
すみれ組	1歳	2名	5名		4月～6月
はな組	2歳	3名	17名		
たんぼぼ組	2歳	2名	8名		4月～6月
つき組	3歳	2名	20名		
ちゅうりっぷ組	3歳	1名	2名		4月～6月
ほし組	4歳	2名	24名		
ゆき組	5歳	2名	25名	1名	
	その他	主任2名			7月から1名
合計		22名	124名	1名	4月～6月
合計		16名	109名	1名	7月～3月

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 296日
25日	23日	26日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	26日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児	毎月（1回～2回）	*耳鼻科検診	年1回（5月）
幼児	年2回（5月、10月）	*視力検査（4、5歳児）	年1回（10月）
歯科検診	年1回（5月）		
蟯虫卵検査	年1回（5月）		

エ 保 育

各組の保育目標

ゆき組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・生活面などではできるだけ丁寧にみていき、苦手な事もそれぞれできるようになる。自分のやりたい思いが叶えられるように環境設定をすることで自主性や積極性ができた。

ほし組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・年間を通して集団での活動を多く取り入れたことで運動会や作品展では一つのをみんなで作り出す喜びを感じることができた。戸外での活動は充実していたが、室内では環境をうまく整える事が充分とはいえず、遊びが充実していかなかったように思える。

つき組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

- ・生活の流れが身についていた子どもたちだったので前半ははな組からの流れを崩さないように心がけた。後半は子どもたちが自ら気づいて行なう事を大切にし自主性が育つようにした。自信を持って自分でできる姿に成長を感じる。担任間の確認不足や設定の遅れから環境が発達の後追いになってしまった。きれいにする心地よさを伝えることで物の管理や片付けなどは身についてきたと思う。

はな組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。

- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

- ・子どもの気持ちを受け止めることを大事にしたことで子ども同士でも相手にも思いがあることを理解したり、言葉で自分の思いを伝えられるようになってきた。環境（室内）が成長に追いつかず、後追いになってしまった。

あひる組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標 評価・課題

- ・月齢差や生活リズムなどを考慮し小グループで活動することで子どもに丁寧に関わる事ができて良かった。長時間保育の子どもが多く、朝から夜までクラスで過ごすことが多かったので室内の遊びの工夫や休息できるスペースも確保していく必要性を感じた。

うさぎ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

・月齢の低い子どもが多く、年度の途中で新入園児が入り、担当が代わることなどがあったがその都度クラスで話し合っ対応できた。高月齢児への遊びの提供という面では物足りない部分もあり、後半は1歳児と関わる中で刺激を受ける事もあった。年間を通して子どもたちが満足できる環境を整えることが課題とを感じる。

2009 年度実施行事

- 4月 入園式 イースター礼拝
- 5月 各クラス懇談会 3、4、5歳児親子遠足
- 6月 花の日子どもの日礼拝 一週間縦割り保育
プラネタリウム
- 7月 5歳児キャンプ 夕涼み会 プール開き
- 8月 卒園生遊ぼう会
- 10月 運動会 ほのぼの会 プラネタリウム
- 11月 そしがや祭り 収穫感謝祭
- 12月 クリスマス礼拝 卒園児クリスマス
- 1月 餅つき 1週間縦割り保育
- 2月 大きくなったよ会 各クラス懇談会
- 3月 お別れ会 卒園式 進級式

年間行事 評価・課題

・それぞれの行事は係りが中心となって準備、実施、反省を行った。例年通りではなく、目的を再確認し子どもにとってどうかとの視点に立ち内容や実施時期などの見直しを行なった。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年2回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・クッキングはあまり取り組むことができなかった。次年度は保育と連携して考えていきたい。
- ・旬の食材を使うことや手作りおやつについては多く取り入れることができた。
- ・食事だよりはより興味を持ってもらえる内容になるよう充実をはかった。
- ・アレルギー児の面談を6ヶ月毎に持つ事にし、確認しながら進めることができた。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施(9月19日)

安全管理 評価・課題

毎月安全点検をし、安全な環境を常に心がけている。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	12名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
リトミック講師	1名（非常勤）
パート職員	16名

イ 健康管理

健康診断	年1回（6月）
細菌検査	年12回

ウ 職員会議

定例会	毎月1回	乳幼児打ち合わせ	毎月2回
行事前打合せ会（随時）		クラス、食事打ち合わせ	
期別反省会（年2回）		主任会	

会議 評価・課題

会議の持ち方、内容はだいぶ整理され、実施できるようになってきた。保育との同時進行となるため出席できない職員は記録を読み、報告を受け周知徹底をはかるようにしているが、パート職員への伝達がスムーズにいかないことがあり、さらなる周知徹底を心がけていくことが課題である。

エ 研修

- ・園内研修
- ・法人内研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修
- ・世田谷区の研修
- ・自主研修

研修 評価・課題

園内研修では外部講師による研修を実施し、職員が学びを共有することができ、保育現場での実践も重ねつつある。外部研修へは出来る限り参加した。研修の成果や報告をもっと共有できるよう方法を考えていく必要がある。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
- 株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

- ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
 - ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）
- イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・4月から6月まで分園準備のため、園児、職員を受け入れた。職員数が増えたため事務処理や労務管理に追われ、特に会計処理に関しては混乱する事もあった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・建物の2年目点検が行なわれ、チェック箇所の修繕を実施した。駐車場の排水が出来ず水たまりがひどくなり、排水、アスファルト化が次年度の課題。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・掃除機
- ・扇風機

イ 保育用品購入

- ・おでかけ兼用避難車
- ・体操マット
- ・三輪車

ウ 給食用品購入

- ・食器

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

- ・特に高額な購入品はなかった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食33日分

災害対策 評価・課題

- ・非常食の備蓄の入れ替えを定期的に行なっているが、災害時を想定して中味や量の点検を今一度、行なっていくことが必要。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・烏山地域の各種保育関係者が集まって作った保育ネット烏山に加わり、入園相談や防災訓練、粕谷児童館でのイベントなどに参加し、地域の保育園としての役割を果たす。
- ・烏山地域のぱる児童館、留学生会館等のフェスタにも参加し、他の団体との交流をし、保育園の PR をすることができた。

4 その他（特記）

記入者 佐藤 洋子

- 待機児童解消対策園として 7 月に開園して 8 ヶ月、4 月から 15 名の子どもたちは本園で過ごしたが、ほとんどが新しい子どもたち 50 名でスタートした。
- 新設園スタートに当たり、職員一同、子どもたちとの関わりはもちろんだが、保護者との関わりを丁寧にして信頼を得る努力をした。
- 運動会やお祭りの行事に関しては、今年度は本園との合同で行ったのだが、保護者から「分園として独立の行事として取り組んで欲しい」などの声が多くあり、特に乳児には移動時の負担も見られ、次年度は合同行事の在り方を検討していきたい。
- 新人が多い職員集団なので、見通しをもった保育の組み立ては経験不足から難しい面も見られたが、新人も経験者も力を合わせて、分園の保育を創り上げていく過程を大切にしていきたい気持ちも次年度にも繋げていきたい。
- 施設面では、保育を始めてみて、不具合な所が沢山見えてきた。そのつど建築業者に連絡し、子どもたちの安全が保たれるよう補修を行っている。
- 園庭については、保護者より「園庭が狭い」「遊具が少ない」などの意見を頂いている。園庭の工夫した使い方、遊具などについても対応していきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（特児対象：2 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 50 日間受入れる
- ・ 保育所体験 延べ 100 人受入れ実施
- ・ 出前保育 年 7 回実施
- ・ 育児困難家庭への支援（3 名受入れ在籍）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つくし組	0 歳	3 名	9 名		看護師

すみれ組	1歳	3名	14名		
たんぼぼ組	2歳	3名	14名	1名	
ちゅうりっぷ組	3歳	1名	8名		
ひまわり組	4歳		5名	1名	
	その他	主任・園長			
合計		12名	50名	2名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 219日
			26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児	毎月(1回~2回)	*耳鼻科検診	年1回(5月)
幼児	年2回(5月、10月)	*視力検査(4、5歳児)	年1回(10月)
歯科検診	年1回(5月)		
蟻虫卵検査	年1回(5月)		

エ 保 育

各組の保育目標

さくら組(5歳児)の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・今年度対象児無し

ひまわり組(4歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・3・4歳児合同保育は新しい環境の中で、全員が新入園児で集団生活のスタート。一人ひとりに合わせた丁寧な関わりを大切にすることで、その子らしさを発揮し、無理なく友だち関係を広げていくことができた。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・基本的な生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁寧に関わり、子ども達ができる流れを作るようにした。そのため初めは差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。
- ・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを活かすことが課題。
- ・クラス、仲間というところでは関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標 評価・課題

- ・3・4歳児と合同保育をする中で、4歳児の遊びや興味から影響を受け、粗暴な面もあったが、後半は落ち着き、集団での遊びを展開していた

たんぽぽ組（2歳児）の年間目標

- ・身の回りのことを自分でできるようになるので、自立の要素を受け止め、困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
- ・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
- ・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えのときと受け止め、自信をもって行動できるように援助していく。

年間目標 評価・課題

- ・子どもの自己主張を受け入れつつ、周りの様子や状況を感じ取り行動することが少しずつ出来るようになった。だが職員間の情報やイメージの共有がなされていないこともあり、もっと意識的にクラスの打ち合わせや日常の話し合いを持つべきだった

すみれ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。

- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・前期は担任間での保育感の相違からコミュニケーション不足になったことは反省すべき点だった。
- ・保育室の環境作りに力を入れてきたが、玩具が少なく、もっと手作り遊具等を取り入れるべきだった

つくし組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ、幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・緩やかな担当制をとることにより、臨機応変に対応することが出来た。遊びの面では、月齢差があるので個々に対応することにより、多少解決できたが困難な部分もあった。
- 生活や遊びの部分で、どのように工夫していくかが、今後の課題である

2009年度実施行事

7月	入園式	夕涼み会	プール開き
10月	運動会	ほのぼの会	
11月	そしがや祭り	収穫感謝祭	
12月	クリスマス礼拝	卒園児クリスマス	
1月	餅つき		
2月	大きくなったよ会	各クラス懇談会	
3月	お別れ会	進級式	

年間行事 評価・課題

- ・本園との合同行事は、打ち合わせ、練習その他で、園から出て行く事もかなりの負担感があった。また

どうしても本園職員が主体になるので、同じ行事を経験しても、達成感などが得られにくいなどの声もあり、合同行事、独自の行事の区分けをしていきたい。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ 調理室前の献立ボードに貼ってある野菜に興味を示す子どもたちが多く、食事に関心を持つなど、ボードを通して子どもたちと関わることができた。
- ・ クッキングは幼児でも初めて体験する子どもが多く、緊張しながらも作る楽しさを経験していた。
- ・ 配慮食は体調の悪い子に限り、当日の献立を変更して提供した

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月19日）

安全管理 評価・課題

- ・ 職員も子どもたちも初めての避難活動、7月からの年間予定に添って確認しながらの訓練だった。避難警告のマイク設備が設置されていない事もあり、戸惑うことも多かったが、園外避難先は隣接している中学校であることは心強い

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	10名
非常勤保育士	1名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
リトミック講師	1名（非常勤）
パート職員	10名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（ 6 月 ）

細菌検査 年 12 回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回 乳幼児打ち合わせ 毎月 2 回

行事前打合せ会（随時） クラス、食事打ち合わせ

期別反省会（年 2 回） 主任会

会議 評価・課題

- ・ 職員数が少ないので、夕方の会議は職員の参加は少なく効率ある会議進行がなかなか出来ない為、たいせつな情報が有る時は昼の時間帯に集まり共有している。
- ・ 前半は討議する会議より、伝達・確認事項の多い会議だったが、後半に入り、会議も少しずつ活性化して来た。新人職員が多い事もあるためか、一人ひとりが意見を出す会議にはまだ至っていない
次年度はグループ討議も入れ、自分の意見を出せる会議の在り方を作っていく

エ 研修

- ・ 園内研修 ・ 世田谷区の研修
- ・ 法人内研修 ・ 自主研修
- ・ 全国私立保育園連盟研修
- ・ 東京都社会福祉協議会研修

研修 評価・課題

- ・ 新人職員が多いので出来る限り外部研修を受け学びの場を多く設けてきた。特に看護師は積極的に学びの場を持ち、現場に保健関係の新しい情報や確かな情報を提供している
- ・ 研修報告の場が流れてしまうことが多々あり、報告書の閲覧など自由にしたい

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、 ・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・ 7月からの事務量としては多くないのだが、会計・労務管理のほとんどが施設長の管理となり、本園の書類を下地として分園なりの書類として作成して何とかやることができた
- ・ 本園同様モデルケースとしてクラス用パソコンを設置した。
- ・ 各々が担当する記録に関しては各々が専門職として怠ることなく実施しているが、より良いものとして工夫していく

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・災害時のマイク設備がなく、避難訓練時はハンドマイクを使用していたが、クラスより聞こえにくいと
の声が多く、電話使用でのアナウンス設備にした

(3) 備品関係

- ア 備品購入
 - ・テーブル、椅子、その他新園開設に伴う備品購入
- イ 保育用品購入
 - ・おでかけ兼用避難車 その他新園開設に伴う保育用品購入
- ウ 給食用品購入
 - ・食器、その他新園開設に伴う給食用品購入
- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

- ・備品関係は全部揃っていないので次年度も購入していかなければならない

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月 1 回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年 2 回 (内、届け出 1 回)
- ウ 非常食糧の備蓄
 - (全園児数 + 全職員数) × 3 食 × 3 日分

災害対策 評価・課題

- ・月 1 度の避難訓練を初めて経験する子どもたちの誘導を丁寧に行った。次年度はより職員の危機意識
を高める訓練をしていく

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・保育ネット烏山に加わり本園と共同で入園相談を行う
- ・隣接の中学生の体験学習や家庭科教材の遊具などをもらう、交流があった
- ・要保護児童支援烏山地域協議会研修参加

4 その他 (特記)

民営化 3 年目の 2009 年度は、雲柱社らしい保育を模索し実践しつつ、公立時代の保育の中で踏襲したい部分は何かを確認していく 1 年だった。

雲柱社らしい保育とは、常に神と人に仕える姿勢で利用者の人格を尊重し、子どもたちの最善の利益を守りつつ、相手の立場に立った支援を行うという法人基本理念に立つことである。

具体的には、子ども達が毎日楽しく通園し、保護者の方が支障なく仕事を続けることができることをいう。基本に立ち返り、気持ちのよい挨拶からはじめ、急な延長保育にも応じるなど 1 年目に評価いただいたことを行った。職員が経験を積み、保護者との対応も管理職に頼るだけでなく、フロントラインの職員が行うことが多くなった。保護者アンケート結果では、多くの保護者より保育園に対して満足であるとの高い評価をいただいた。しかし、僅かではあるが、より丁寧な対応を望む声もきかれた。保護者の方の要望に応じた臨機応変な援助が課題である。

3 年目以上の職員が多く、その経験が生かされ、保育の場でも話し合いの場面でも、新しい意見を出せるようになった。次の課題は、烏山保育園の保育として何を大切にし、何を目指していくのかを検討していく力をつけていくことである。そのためにもより専門の知識を深め、技能の研鑽に努めることが必要である。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 0 歳児保育特別対策事業実施（0 歳児取扱人員：13 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（0 歳児の受け入れ、4 時間延長） * 月延長登録児…平均 50 名
- ・ 休日、年末保育 * 休日利用…日平均、5~6 名 * 年末保育（2 日間）…17 名利用
- ・ 障がい児保育事業実施（2 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施（10 名）

イ 地域子育て推進

- ・ 出前保育 6 回
- ・ パートナー保育登録 60 名
- ・ 中・高生の育児体験受入れ 延べ 50 人受入れる
- ・ 地域交流事業 年 7 回・198 人
- ・ 卒園生交流 年 4 回・56 人
- ・ 育児困難家庭への支援 1 名受入れ

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		看護師 パート2名
ちょうちょ組	1歳	4名	18名		パート2名
うさぎ組	2歳	4名	20名		パート1名
たんぽぽ組	3歳	2名	22名	1名	
やま組	4歳	2名	22名		パート1名
ひ組	5歳	2名	22名	2名	
	その他	休日、延長4名 主任2名			
合計		25名	117名	2名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 360日
30日	31日	30日	31日	31日	30日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
31日	30日	29日	28日	28日	31日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月（1回）

幼児 年3回（5月、プール前、10月）

- ・視力検査（4、5歳児）年1回（10月）
- ・耳鼻科健診 年1回（9月）
- ・蟻虫卵検査 年1回（5月）
- ・歯科検診 年1回（5月）
- ・身体測定 毎月1回
（胸囲、頭囲 年2回）

エ 保 育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

遊びや生活の中で困ったり、ルールを決めるときに大人に頼ることが多かった。お泊まり保育の中

で子ども同士で相談する時間をつくり、自分たちで解決する力をつけるよう心掛けた。配慮の必要な子どもの影響が大きく、クラス全体が不安定な時期もあった。子どもへの接し方などを研修や巡回指導で学び工夫する中で、保護者への支援も深まり、本人も安定し、周りの子ども達も成長がみられた。異年齢児の関わりがインフルエンザの流行のため少なかった。

やま組（4歳児）の年間目標

- ① ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② ・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④ ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤ ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

クラスでの活動、取り組みをたくさん楽しみながら、子ども一人ひとりとの関わりも大切にしてきた。（配慮が必要な子どもも同様）また、基本的な生活習慣は、繰り返し丁寧に伝えることで、子ども達の身についていた。クラスでの集まりなどを通して、自分の思いを言葉で表現する機会や、皆と一緒に考える機会を多く持った。

たんぼぼ組（3歳児）の年間目標

- ① ・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ② ・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③ ・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④ ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

基本的な生活習慣は、個人差がまだまだ大きく、個々の成長に合わせて関わることを大切にした。配慮が必要な子どもに対しては、担当者全員が同じ気持ちで関わるために、話し合いを持つよう心掛けた。後半は、遠足やクリスマスなど行事に向けて期待を大きく持ち、クラス全体でその楽しみを共有していくことができた。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ① ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ② ・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③ ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④ ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤ ・大人やまわりのことに興味を持ち、みたく・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

進級当初は子どもの戸惑いを減らす為、少人数グループで動き、生活時間にも時差をつけるようにした。子どもが主張や甘えを出し、受け止めてもらえる安心感を得られように、大人との信頼関係づくりを大切にした。あそび、生活の中でルールや順番を知り守れるよう援助した。自分でやりたいという意欲を大切にし、出来たという喜びから自信へとつなげていくようにした。

ちようちょ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

年度当初1日を2グループで過ごした事で、ゆったりとした生活を営み、情緒の安定も図れた。生活に関しては年間を通して、2グループで過ごし丁寧に関わられた。室内環境設定に力を入れ、子どもたちが好きな遊びを見つけ、遊び込み、落ち着いて過ごすことができた。

ひよこ（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ、幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

担当制を導入し、一人一人の子どもとの信頼関係を深め、安定した生活を送ることができた。産休など、年間を通して担任の入れ替わりが多く、その都度話し合いを重ね、大人の動きや保育の考え方の確認をし、共通認識を深めるよう心掛けた。新型インフルエンザ流行のため運動会に参加できなかったり、園庭などで異年齢児と交流する機会が少なかった。

つき・ほし組（延長保育）の年間目標

- ①・家庭的で落ち着いた雰囲気保育を行う。

- ②・個々の子どもの状態を深く捉えて愛情を注ぎ、細かい配慮によって楽しい時間を過ごす。

年間目標 評価・課題

一日また一週間の中で、動の遊びの時間と静の遊びの時間のメリハリをつけることを心掛け、毎日の生活の中で、子ども達自身に身につくよう援助した。一日一日を安心して、楽しく過ごしながらも、長時間保育が子どもの夜の過ごし方として適しているかの検討も課題である。

にじ組（休日保育）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを知る。
- ③・一人ひとりのペースを考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④・異年齢児間で、世話をしたり世話されたりする喜びを知る。

年間目標 評価・課題

0～4歳児と幅広い年齢が利用し、継続利用児が4～7名と定着した。生活リズムが全く異なるため苦慮したが、事前にメンバー構成や人数に合った保育内容を計画的に立てることで、休日としての保育の流れが徐々に確立してきた。また、継続利用の子ども同士が名前を覚え、保育士との関係も深まり「にじ組」としての仲間意識が芽生えてきた。何年も利用する保護者からは悩みなどの相談もあり、園や担当者に信頼を寄せてくれている。

2009年度実施行事

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 4月 | 進級式・入園式 |
| 5月 | 保護者会 4、5歳児遠足 |
| 6月 | プール開き |
| 7月 | 夏祭り 七夕 笹もやし 5歳児お泊り保育 |
| 9月 | プールじまい 敬老の集い お月見会 |
| 10月 | 運動会 5歳児遠足 |
| 11月 | 3、4歳児遠足 焼き芋豚汁会 *仮) おやじの会園庭倉庫づくり |
| 12月 | クリスマス会 |
| 1月 | 餅つき お店屋さんごっこ |
| 2月 | 節分 保護者会 |
| 3月 | 雛まつり 卒園・終了式 5歳児さよなら遠足 |

年間行事 評価・課題

3回目となる行事も多く、準備から当日まで係りの職員を中心にスムーズに行われるようになった。子ども達の意見も吸い上げ、内容も工夫されてきている。昨年行事の数などを見直したため、年間を通して無理なく保育の中で行っていったと思う。ねらいなどのもう一歩深い理解が課題である。

*職員の発案により、保護者との交流を兼ねて主に父親と保育士と一緒に園庭の倉庫を作った。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年2回

栄養素の質、量のバランスを考えて献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

季節や行事などに合わせて見た目を工夫したり、なぜその素材なのかをクラスに行って説明したりと保育への関わりが多かった。しかし一方で献立作成が遅くなり、発注などの問題があった。クッキングでは、1年目、2年目の積み重ねに加え、栄養士のアイデアを生かし回数、内容ともに充実した。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引取り訓練の実施

安全管理 評価・課題

公立時代から課題であった、雨の日のオートロック対応を管理職が対応することで可能にした。
煙中訓練を実施し、煙の怖さを子どもたちが実際に体験することができた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
副園長	1名
主任	2名
保育士	23名
看護師	1名
栄養士	3名（調理師含む）
パート職員（調理、見回りも含む）	13名
リトミック講師	1名（非常勤）
嘱託医	1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断	年1回
細菌検査	年12回
給食、職員・非常勤	毎月1回

ウ 職員会議

- ・職員会 月1回
- ・運営会（園長、主任）月2～3回
- ・乳児、調理打ち合わせ会 月1回
- ・幼児打ち合わせ会 月3回
- ・キリスト教勉強会 隔月1回
- ・クラス打ち合わせ会 月に1回
- ・延長、休日打ち合わせ 月1回
- ・献立、離乳食打ち合わせ 月1回
- ・安全委員会 毎月1回

会議 評価・課題

幼児乳児打ち合わせを昼の時間にし、夜の時間を園内研修にあてた。カリキュラムをじっくり話したいとの声上がり、後半は月にもう1日夜の時間を増やす。また必要に応じて夜のクラス打ち合わせを

臨時に行い、クラスの問題に即対応するようにした。土曜の保育や週案の打ち合わせなどのミニ会議も、子どもの安全や風通しのよい保育のために臨機応変に行った。そのため昼の事務時間が減り、効率よい時間の取り方が課題である。

エ 研修

- ・園内研修（中間年間保育まとめを含む）
- ・法人内研修
- ・自主研修
- ・世田谷区の研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修 他

研修 評価・課題

3回に分けて、新澤誠治先生より雲柱社の保育課程、賀川豊彦の保育観、保育理念の展開を学ぶ。外部研修では、中堅職員が連続講座を受け、保育のリーダーとしての力をつけるようにした。法人研修は職員が必ず1年に1度は参加しミッション理解の時を持てるようにした。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
- 株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務 ・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

事務関係 評価・課題

新主任が加わり、管理職4人体制にもどる。家庭的保育事業の立ち上げのため、園長が多忙となり、事務分担もなるべく3人で補った。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

総合支所の中にある保育園なので、区と一緒に点検（自動ドア、貯湯槽等）をする事が多い。
園庭のすべり台の下と、鉄棒の下にクッション性のある敷物を埋め込んだ。

(3) 備品関係

ア 備品購入

・大型乳母車 ・掃除機 ・1階テラスすのこ ・砂場用砂

イ 保育用品購入

・乳児用エプロン ・3～5歳児用のテーブル ・玩具 ・玩具棚
・パラバルーン ・三輪車、トレーラー ・ハンドベル

ウ 給食用品購入

・食器 ・電気ポット ・調理器具

エ 固定資産物品購入

・冷蔵庫

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

・保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する予定だったが、インフルエンザのため自園のみで行った。
・総合支所設備担当の方と、屋内消火器の使用練習を行う。更衣室のカーテンも防災に変えた。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・地域交流では、栄養士や看護師からの話し、リトミックなど好評で来年度も継続していきたい。又、母親同士での交流をもてる場ともなった。園見学以外の希望も多い。
- ・出前保育では、遊びや遊具の紹介だけでなく保護者の子育て相談なども聞くことができ、続けていきたい。今年度は午前中だけでなく、午後にも活動の時間を広げ幼稚園児の参加や子育て相談も行っている。

年主題 「安全な生活」新しい環境に慣れる ― 法人事業理念 保育理念にそって

4月末に新園舎に引越しをして、新しい環境での保育が始まった。全面フローリングのため上履きを使用しない生活になる。子ども達は新園舎の環境に程なく慣れたが、危険な箇所がないか当初は使い勝手をみながら改善していった。法人保育ブロックの環境研修の担当園でもあったので、保育を振り返りながら、より子どもにとって安全で主体的な生活ができる環境を職員全体で検証し合い整えていった。床暖房完備、24時間換気（ロスナイ）、ポラリズム（消毒液装置）の設置などの保健衛生的にも配慮した環境が、新型インフルエンザの集団感染を食い止めた原因の一つでもあろう。施設維持費がかかるので省エネを心掛けていく。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「ひとりひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

1. ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
2. のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
3. 基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
4. さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
5. 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点

- * 誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るよう保育する。
- * 子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。
- * 保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。
- * 保護者ととともに、地域との交流をもって子育ての援助をする。

事業の内容と展開

1. 新園舎に慣れる 子どもの動きや職員の動線を考慮した保育室の環境を整えた。3階建てで24時間換気システム、エアコン、床暖房、エレベータなど、光熱費がかさむ建物なので、省エネを心掛け、無駄をなくすよう職員に周知していき、マニュアルも整備していった。
2. 安全対策 安全委員会を中心に新園舎の環境チェックリストを作成して、毎月点検していった。課題に挙げたことを速やかに改善したり、保護者にも意見を求めていった。
3. 1歳児クラス2グループでの保育
19名の1歳児を高月齢児（くるみグループ）10名と低月齢児（まるんグループ）に分けて保育をした。4人の保育者と補助者1名で少人数担当制にして、当初はグループの差が大きかったが発達を踏まえた丁寧な援助ができた。

4.2 時間延長保育 2時間延長の利用者は年間を通して2～3名の登録であった。夕食は家族と食卓を囲んでほしいという願いもあり、登録面接をしっかりと行う。1時間延長の登録者も20名前後と少ないので、同じ仕切りをつけて補食と夕食を同時に進めてきた。少ない人数でも職員配置は必要なので経営的な課題が残る。

5. 地域社会の保育ニーズの調査

第三者評価利用者アンケートや年度末に保護者アンケートをとった。病後児保育の要望が多かったので、病後児保育室の見学に行き、取り組むための条件等江東区に問い合わせた。同じ建物内に病後児保育室を作ることはできないので3階をリフォームして病後児をするのは難しいとのことだった。当園独自の保育サービスを保護者のニーズに合わせて展開していきたい。

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：12名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（2時間延長）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施 4名

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施
- ・ 退所児童との交流 年6回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年32日間受入れ 延32名
- ・ 育児相談 随時実施 年間119件
- ・ 保育所体験 年60回 延50組受入れ実施
- ・ 子育てサークル支援 年6回実施 延55名
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行 308通
- ・ 育児困難家庭への支援（3名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29、30実施 2名受け入れ

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
ひよこ	0歳	4名	12名		

りす	1歳	4名	19名		保育アシスタント1名
うさぎ	2歳	3名	19名		
こぐま	3歳	2名	19名		
ぱんだ	4歳	1名	19名		保育アシスタント1名
きりん	5歳	1名	18名		保育アシスタント1名
こあら一時保育	1～5歳	1名	10名	3名	保育アシスタント2名
その他		2名			
合計		17名+4名	110名+10		パート職員12名

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
25	23	26	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児（0歳児） 毎月 1回

幼児 年2回（5月14日、10月1日）

歯科検診 年2回 乳児（6月11日、11月19日）幼児（5月21日、10月8日）

蟯虫卵検査 年2回（5月7日、11月16日配布）

年間目標 評価・課題

「のびのびとしなやかに自分のからだを動かして遊ぶ子ども」

- ・ 月の目標、配慮、保健指導、保護者への働きかけやおたより等 年間計画に沿って保健業務を行った。受診に至る怪我は12件。例年と大きな差はなかったものの、乳児はやはり戸外に出て活動的になる秋頃の受診が多かった。
- ・ 感染症については流行性耳下腺炎、水痘が多く発生する時期もあったが、新型インフルエンザの拡大という社会的な流行にもかかわらず当園に至っては集団感染がひろがることもなく済んだ。
- ・ 今後の課題では、新園舎になり新たに出てきた安全面や生活面での配慮すべき点について環境設定を行っていくようにする。

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。

- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
 - ・ 異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・ 友達と刺激し合い、様々な活動や行事を通して仲間の中で育ちあう姿が見られた。
- ・ それぞれの違いを意識していく中で、「違ってもいいんだよ」ということを、日々の生活の中で感じながら互いの思いを伝え合い、認め合う経験を持っていたことは良かったと思う。
- ・ 自分たちで生活を進める力がつき、友達同士で協力し合い、生活や遊びの中で様々なことを身につけていった。

ばんだ組（4歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・ 様々な葛藤を経験しながら、友達と遊ぶ事の喜びや楽しさを感じられるよう心掛けていった。
- ・ 自分の経験したことや思っていることを話す機会を多く持ち、言葉で伝える楽しさを味わうことができるようになってきた。
- ・ 身近な自然や生き物に興味を持ち、図鑑で調べたり飼育をする経験を大切にしていっていった。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ② 外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③ 食事・排せつ・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

- ・基本的な生活習慣が身につくように、保育者2人で分担して個々に声を掛けたり、必要に応じて援助することを心掛けていった。
- ・友達との関わりの中では、自分の気持ちを相手に言葉で伝えられるようになり、そのことでごっこ遊び等の遊びがひろがっていった。
- ・身近な自然を通して様々なことを感じていた子ども達だが、保育者の方からも、もっとたくさん働きかけても良かったと思った。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びのなかで、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

- ・担当との関わりから少しずつ他の人との関わりに広がり、担当に限らず自分の要求や主張を伝えられるようになっていった。その都度受け止めていくよう心がけた。
- ・昨年度の研修を保育に生かし、戸外だけでなく室内でも身体を動かせるように巧技台・マット・手作り遊具を設定。動と静の遊びをどちらも保障することができた。
- ・「同じ遊びをする友達」から「気の合う友達」と一緒に過ごすことが楽しくなり、友達関係や遊びが広がっていった。トラブルになった時には保育者がお互いの思いを聞いて仲立ちしていった。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③安心できる保育士との関係のもとで食事・排せつ等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心できる大人に見守られる中で、他のこどもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・2グループ制になり、月齢別少人数グループになり、個々の生活リズム、発達段階を

大切にしながら保育することができた。試行錯誤を重ねながら進めていく中で形ができてきた。次年度にきちんと引き継いでいきたい。

- ・初めての園舎、ホール等ということもあり、目配りをしていたつもりでも、その瞬間を見ていなかった怪我等も多数あった。怪我から室内環境やホールでの過ごし方など見直すべき点も幾つも見え、怪我、ヒヤリハットの点検から学ぶ一年であった。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ② 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
- ③ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排せつなどの生理的欲求をみだし、情緒の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食に慣れて幼児食への移行を図る。
- ④ 優しく語り掛けたり、発音やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤ 聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・新園舎は広さ的には旧園舎と変わらないが、遊びのスペースに畳があったり室内に動と静の遊びの設定ができたことで噛みつきなどのトラブルがかなり少なかった。反面、計画して作ったはずのオムツ台や沐浴台は構造上の誤算で予定通りの使用ができなかった。
- ・担当制を大事に一人ひとりの生活リズムを守ることができた。
- ・保育室の出入り口が受け入れコーナーのほかに、調乳室、沐浴室があり、担任が動くことによる子どもへの動揺がほとんどなかったので落ち着いた生活をする事ができた。

こあら組（一時保育）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ② 保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④ 安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 身の回りの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・定員が 10 名になり待機児童解消策の一助につながった。秋以降は定員を超える受け入れをする日もあった。
- ・一人ひとりが安心できる場所になるよう保護者との信頼関係を築きながら丁寧に保育をしていった。
- ・子ども同士で顔や名前を覚えて、会えるのを楽しみに子ども同士が育ち会う姿が見られた。初めて来た子が泣いていると、慣れてきた子が頭をなでる姿も見られた。

2009 年度実施行事

- 4 月 1 日 入園式 (74,390 円)
- 5 月 22 日 親子遠足 (都立水元公園) (182,119 円 : バス代 120,000 は保護者徴収)
- 6 月 8 日 子どもの日花の日礼拝 (5,000 円)
- 7 月 4 日 夕涼み会 (20,000 円)
- 16~17 日 年長お泊まり保育 (ファミリーロッジ五日市) (134,480 円)
- 29~31 日 小中学生キャンプ (五日市青少年旅行村) (52,000 円参加者徴収)
- 7 月 21 日~8 月 31 日 中高生ボランティア受け入れ
- 9 月 17 日 祖父母会 (14,760 円)
- 10 月 3 日 ファミリーデー (121,825 円)
- 10 月 23 日 いもほり遠足 (幼児) (200,323 円)
- 11 月 4 日 収穫感謝祭
- 12 月 12 日 クリスマス礼拝・祝会 (224,326 円)
- 18 日 地域ともしびクリスマス
- 1 月 7 日 餅つき会 (10,800 円)
- 2 月 26 日 大きくなったね遠足 (36,900 円)
- 3 月 20 日 卒園式 卒園を祝う会 (238,450 円)
- 月例行事 誕生会 (プレゼント 350 円×110 名)

年間行事 評価・課題

新園舎になり昨年できなかった行事が復活した。夕涼み会は例年通り園舎で行い、加えて 3 階ホールでマジックショーをすることができた。焼き芋会や餅つき会は近隣からの要望で灰が舞い上がるものはできず、やり方を工夫した。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

食事年間目標

1. 食べ物の大切さ、食事の楽しさ、感謝する気持ちを伝える。
2. クッキングを通して作る事の楽しさを知る。
3. 食育を通じて「食」に興味を持つ。

栄養管理 評価・課題

- ・新園舎になり調理室に子ども達が「今日のご飯は何？」と時々来てくれるのはとてもうれしい。調理室のドアが重いので子ども達が開けるのに少々苦勞しているのが残念だ。
- ・新しい試みとして、乳児対象にパネルシアターや年長クラスにさかなを丸ごとさばく様子をみせてクッキングをしてみた。今後も食育の取り組みとしてクッキングだけでなく食の大切さを様々な方向から伝えていきたい。

カ 安全管理

救急救命講座 AED の使い方講習会 2月10日（大人対象）

非常災害時の避難訓練 毎月1回

引き渡し訓練の実施（9月1日） 緊急時・災害時カードの導入 緊急メールの活用
危機管理マニュアルの整備

安全管理 評価・課題

- ・当初は1月にCAPプログラムを予定していたが、江東区補助金よりAEDを設置したので、保護者と職員、地域に向けて消防署職員に来ていただきAEDの講習会をおこなった。
- ・この年は新型インフルエンザが社会的な大流行となり、園でも対応策をマニュアル化した。また簡単メールを活用し、感染症が出るたびに情報を発信して保護者へ注意をうながした。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	15名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤医師・歯科医師）
嘱託職員	1名
非常勤職員、パート職員	17名

イ 健康管理

健康診断 年2回（5月14日、10月1日）

細菌検査 年12回（職員全員）

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年3回） 年度末会議6回

会議 評価・課題

- ・毎月1回の職員会は始まる時間が5時の設定であったが、なかなか集まることができず次年度は15分ずらして開始するようにしたい。また2時間以上かかることが多く、議題の内容を絞っていくことが課題である。年度末の3月は年間反省会や次年度の話し合いを持つため5～6回の会議があり卒園や入園の準備もあって過重な負担になった。会議の回数や内容を検討して職員の負担を減らしていきたい。

エ 研修計画

- ・園内研修 年5回
- ・法人内研修 階層別・職種別研修
- ・私保連カウンセリング研修 4名参加
- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連東京民保協などによる研修

研修 評価・課題

- ・園内研修は新園舎における保育環境を中心に行った。法人の保育ブロック環境研修の当番園でもあったので、職員の中から環境研修担当をきめてその委員を中心にすすめた。乳児は基本的な生活習慣の援助のための環境設定、幼児は子ども自身の主体的な生活のための環境をねらいにまとめた。見学者のためにレジュメやビデオなどの資料をまとめたことも職員自身のまなびとなった。
- ・法人研修は全職員が参加できたが、自主研修に申し出たのは数名だった。自らの学びを奨励していき保育の質を高めていきたい。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
- 株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成

- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・事務室が広く専用の書棚や机も配置し今までに比べて事務仕事の動線はだいぶ改善された。よりよく整理整頓をして快適な環境を整えていきたい。
- ・今年度は改築後の指導検査があったが、現金の銀行への預け入れが3日以内に行くことができず、文書指摘をうけた。一時保育の現金の取り扱いが大きいので、事務パートの雇用を検討していく。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

- ・砂場の砂を入れ替える。

イ 設備の点検・修繕

- ・食洗機の不完全燃焼

設備関係 評価・課題

- ・園舎を建築したトーヨー建設に2年間の建物保障があるので問題が起きるたびに連絡をした。作りつけの棚は本や重い物を入れると棚板が歪んだり、布団棚の扉がたびたび外れるなど、家具類の修繕が多かった。
- ・エレベータは荷物や家具を3階に運ぶときにのみ使い、常時は休止にした。子どもや利用者が使用しないので点検を入れなかったが、次年度より定期点検をいれたい。
- ・新型インフルエンザの流行に伴い感染拡大防止のためポラリズム（流水式洗浄除菌水生成装置）を4台設置した。幼児は直接手洗いに使用して、インフルエンザ感染防止に大変役立った。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・事務用机2台（看護師・栄養士用）
- ・会議用長テーブル2台

イ 保育用品購入

- ・新年度準備用品（350,000円）
- ・各クラス遊具（183,500円）

ウ 給食用品購入

- ・冷蔵庫
- ・配膳用ワゴン
- ・ホットキャビネット2台（ホットタオル保温器）

エ 固定資産物品購入

- ・緊急避難車（ノーパンク使用）

備品関係 評価・課題

- ・改築で作りの家具や備品が多かったので、新しく別の備品は極力購入しなかった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月 1 回

避難降園訓練（引き渡し訓練）9 月 1 日

イ 防災設備の点検委託

年 2 回（内、届け出 1 回）

ウ 非常食糧の備蓄

(99+21) × 3 食 × (1 日) 分 (アルファ米、水、缶入り味噌汁、乾パン)

災害対策 評価・課題

- ・新園舎に戻り 9 月の避難降園訓練は第 2 砂町中学校で行った。毎月の訓練では新園舎の避難誘導経路を発生場所により変えて、さまざまな災害を想定しての訓練をしていた。
- ・災害用の非常食は毎年 1 回給食で出し子ども達にも知らせている。今年はアルファ米をふりかけと一緒に食べた。

3 地域社会との連携

- ・ともしび伝道所、コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
- ・東陽・大島・深川北・南砂子ども家庭支援センターとの連携
- ・発達センターCOCO との連携
- ・例年の保育ボランティアの受け入れは、新型インフルエンザの流行もあり、地域に募集せず依頼があった学校のみを受け入れた。学校の授業の一環として保育施設での体験学習の依頼が多かった。(2 砂中・都立東高校など)

地域社会との連携 評価・課題

- ・ともしび伝道所は教会としては園舎を使用できないので、山口牧師は秋まで職員のための勉強会に講師として来ていただいた。その後、法人との話し合いにより、元園長の芳賀牧師にキリスト教勉強会を担当してもらう。職員アドベント礼拝も芳賀先生に説教をしていただく。
- ・非定型一時保育の定員が 10 名となり登録者も 120 名を越えた。南砂子ども家庭支援センターからの紹介で発達障害を持つお子さんの利用も増えた。利用するメンバーによっては 1 対 1 の関わりが必要な時は、こあら組以外の他のクラスとの連携がより必要であった。
- ・保育指針の改定により小学校との連携が課題となる。当園は第 5 砂町小学校との連携をとり、年長クラスの学校訪問や担任との面接をした。また、保育所保育要録も初めて入学する各学校に届けた。次年度は学校に行く機会をもっと増やしていきたい。

4 その他（特記）

- ・新園舎は敷地いっぱい園舎が建ったので、夏までは「子どもの泣き声がうるさい」という苦情がいくつかあり、そのつど対応した。また園舎前にすむ住民からは、自転車の止め方や送迎時の子どものしつけについての苦情があり、年末から1ヶ月間は職員が夕方に自転車整理当番を決めて門扉前に立って対応をした。保育園利用者からの苦情はほとんどなかったが、近隣住民とは長い付き合いとなるので丁寧に対応していきたい。
- ・DV 被害家庭や育児困難家庭の支援も地域の保健所や支援センター、子育て支援課と連絡を取り合って、引き続き子どもの安全を第一にサポートしていく。

前文

- ☆ 組織として今年度は、墨田区押上保育園の民営化に伴う異動があつての一年目。施設長が交替し新しい体制の基でスタートした。異動に伴い、本園リーダーの役替えをし、主任会（乳・幼リーダー、分園リーダー）、調理リーダーの役割、機能を明確にして組織的に動くことが充実してきている。又、新人職員への OJT を行い、各委員会の動きもスムーズに行なえるようにマニュアルの整備をして少しずつだが充実してきている。一人職の看護師や栄養士も専門職としての役割を自覚して業務を行い、議題の内容によっては主任会へ参画し協働している。又、健康な心身で働けるよう職員のメンタルケアができるよう専門機関との連携ができたらと思う。
- ☆ ひとつひとつの行事、プログラム内容の目的や大切にしていきたいことの確認をし、伝え合い、支え合いながら職員一同で事業を遂行することを大切にしてきた。
- ☆ 第三者評価（保護者アンケート）を導入して保育の質の向上に繋がるよう話し合い、共通理解をするとともに、利用者対応に関しては、全職員が丁寧に寄り添う関係を大切にしてきた。建物が古いという意見に対しては、できることから修理し安全面を強めてきた。又、保育空間として園庭側にウッドデッキを広くしたことで子ども達の生活、遊び、活動が充実してきた。又、定期的に環境チェックリストやヒヤリハットを用いて検討をし、できるだけ早期に、改善するようにした。その結果、大きな怪我を防ぐことができた。施設整備は 2010 年度も継続して行なう必要がある。
- ☆ 特別保育事業として始めた 2 時間延長保育も 5 年目になり年々人数も増えてきている。このような状況を踏まえ延長カリキュラムを充分検討し、安定した生活ができるように部屋の使い方、暮らし方を話し合い、人の配置や環境等を考え実行してきている。また、パート職員との共通認識が必須であるため、法人のパート研修（3 回）や園内研修（2 回）も行い、意見交換を通し、沢山の情報を得、現場に生かすことができた。
- ☆ 保育ブロック共通の保育課程を基にして、日々の保育を見直し積み上げができるよう研修を深めることが出来た。今年度は「環境」をテーマに園内研修やブロック内研修をすることで自分の園の環境を見直し、工夫することができた。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2 時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（2 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年 10 回実施
- ・ お年寄りとの交流 年 22 回実施
- ・ 退所児童との交流 年 7 回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年 10 日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年 15 回・75 人受入れ実施
- ・ 調理講習会 年 3 回
- ・ 外国人児童受入れ (3 名受入れ在籍)
- ・ 年末保育 12/29 実施 28 名 ・ 30 日 14 名
- ・ 在宅支援 パートナー登録者 31 名
- ・ 出前保育 年 7 回 1 回につき約 92 名・ 約 46 組

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
つぼみ組	0 歳	6 名	18 名	0 名	
もも組 さくら組	1 歳	4 名	24 名	0 名	
たんぼぼ組 すみれ組	2 歳	4 名	24 名	0 名	
ちゅうりっぷ組	3 歳	2 名	28 名	0 名	
ばら組	4 歳	2 名	28 名	0 名	
ゆり組	5 歳	2 名	28 名	0 名	
	その他	リーダー (0 才 乳児・幼児)			
合 計		22 名	150 名	0 名	

イ 月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計 293 日
25 日	23 日	26 日	26 日	26 日	23 日	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
26 日	23 日	23 日	23 日	23 日	26 日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月 1 回
- 幼児 年 2 回 (5 月、10 月)

歯科検診 年2回(5月、10月)

蟻虫卵検査 年2回(6月、11月)

エ 保 育

保育目標(保育ブロック統一)

1. ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
2. のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
3. 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
4. さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
5. 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

ゆり組(5歳児)の年間目標

- ①・さまざまな活動に取り組み、仲間認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・さまざまな遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

短い時間ながら集まりの時間を大切に、お祈りや賛美歌を取り入れていった。又、見通しをもって子ども自身が生活できるように、その日の活動をボードに貼ることにより子ども自ら準備し、遊ぶ場所の選択をしていく姿が見られた。年間を通して年長中心の行事も多く、忙しくなってしまう時期もあるが本を読んだりして導入していくことで楽しく取り組むことができた。課題として一人担任で保育していくこともあるので、担任同士の話し合いを密にしていくことが大切だと考えられる。

ばら組(4歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶ喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える

楽しさを味わう。

- ⑤・自然や身近な事がらに触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

子どもたちと一緒に考えていくことを一年間大切にしてきた。行事では子どもたちが興味を持てるように十分な期間を取り、子どもたちが「やってみたい」ことを一緒に考え、話し合いながら決めてくることができた。自分の気持ちを他者に伝えること、他者の気持ちを感じ取ることができるように、「聴く」ということを大切に積み重ねてきたことで、「もし、自分だったら…」という思いやりの気持ちも少しずつ育ってきたように感じる。このような一年間の生活を通して「やってみたい」「出来た」ことに共感したり、又、出来なかったその悔しさを共に感じ合えたように思う。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

12名ずつの2クラスから28名の大勢の集団になった。持ち物の事など自分でしなければならぬ事も多くなったが、生活リズムや身辺自立を掴むまで14名ずつの2グループでの活動をしていくことで徐々に自分で出来るようになり、自信へと繋がっていった。行事など年中組・年長組と関わることも多く、共に楽しい経験ができたのはよかった。今年度より3期にぶどうの会（地域のお年寄りの方との交流）にも参加でき、楽しい交わりができたので来年度にむけ、良い経験となった。

たんぽぽ組 すみれ組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたく・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

夏までは月齢差、個人差が大きいので個別に関わることを大切にしてきた。特に着脱について低月齢児は一人ではできないので、必要に応じて援助した。又、言語面ではうまく言葉にできない子どもには代弁し、相手に思いが伝わるようにしてきた。自己主張も強くなる時期なので、ゆとりを持って待ってあげ、受けとめながら子どもが自分の力で出来るように見守り、介助してきてくれた。友だちとはイメージを共有し一緒に遊ぶ姿が見られたので、それに添って遊びが展開するように促したり、遊びながらルールや約束や順番を伝えることができた。2 クラスあるので担任同士が共通理解をし、同じ体験を考え、子どもたちに柔軟に関わっていくことを大切にしてきた。

もも組 さくら組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち、もつ。

年間目標 評価・課題

一対一の対応を大事にして個々の子どもの思いを受け止めていくことを大切にしてきた。少人数の活動を大切に、2 グループに分かれ、時間差をつけて焦らず、急がず丁寧な援助が出来るようにしてきた。発達に応じて部屋の設定を変えたり、玩具の入れ替えを行い、子どもたちが安心してじっくり遊べるようにコーナーに分け、一人ひとりの遊びの保障をしてきた。友だちとの関わりも保育者が仲介者となり、遊ぶことの楽しさや嬉しさが実感できるように、一緒に遊ぶこと、できた事を共に喜び褒め、自信に繋がっていくようにしてきた。噛みつきやひっかきになることもあるので、お互いの思いを十分受け止め、言葉でのやりとりの表現方法を保育者が見本となり繰り返し伝えていくようにしてきた。担任同士、生活の細かい流れや対応を話し合い共通理解をしながら進めることができた。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ、幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

ゆるやかな担当制をとることで子ども一人ひとりの甘えや欲求を細やかに受け止め発達を促すことができた。低月齢、高月齢に分かれているが、18名の子どもたちを全員で見守るように心掛けてきた。できるだけ戸外に出て自然を感じたり、地域の方々との関わりが持てるようにしてきた。室内にハイハイランドを設置することにより、動的な遊びが活発になり身体活動が十分にでき、楽しむ姿があった。発達に応じて玩具、絵本等の入れ替えをし、自ら興味をもって動き出したいくなるように環境を整えてきた。食事に関しては栄養士と担任が連絡し合い、食材の形態等、個々に合わせて離乳食を進めることができた。又、アレルギー対応についても看護師にアドバイスをもらい、細やかな対応ができた。

2009 年度実施行事

4月	1日	入園式	13日	イースター礼拝
5月	22日	幼児親子遠足(3、4、5歳児)		
6月	13日	だんご虫広場(1年生の会)	14日	子どもの日、花の日
	30日	プール開き		
7月	9~10日	お泊り保育(年長)	17~18日	お泊り保育(年中)
9月	8日	創立記念日	11日	祖父母招待会
10月	3日	ファミリーデー	23日	芋ほり遠足(5歳児、4歳児)
11月	3日	バザー		
11月	19日	収穫感謝祭		お料理パーティ
12月	12日	クリスマス礼拝	卒園児クリスマス	25日 餅つき
1月	26日	音楽会		
2月	26日	お別れ食事会		
3月	13日	卒園式	19日	年長お別れ親子遠足
				月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

5月の幼児親子遠足については、3、4、5歳児クラス総勢176名(保護者を含むの雨の日の場所確定が中々難しい。池袋のサンシャイン国際水族館に決めていたが、突然の新型インフルエン

ザが流行したため話し合いの結果、晴れの場所と同じく、室内ではなく、屋外の川口グリーンセンターに決定した。当日は晴れたこともあり計画通り実行した。天候による場所の選定は、なかなかこころ悩ます課題でもある。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ アレルギー児の代替食対応が増えているなかで、度々、誤食があったのでチェック体勢の改善や個人献立表作成をし、毎週行っているカリキュラム会議でも確認し合った。
- ・ 調理と保育との連絡を密に行った結果、間違いがないようにトレーを使用する。
- ・ 食育やクッキング保育は年間カリキュラムをたて、調理と保育とが連携し、見通しを持って進めることができた。今年度も他園で好評だった一匹丸ごとのさんまや金目鯛を焼いたり煮たりして食べ、食育という視点からでも良い経験となった。

カ 安全管理

交通安全教育 随時、各クラス散歩の度に行なっている。

非常災害時の避難訓練 (9月1日)

引き渡し訓練の実施 (9月1日)

安全管理 評価・課題

環境整理マニュアルに基づいて定期的に点検をしている。

引き渡し訓練を今年度は、消防員立会いのもと、横川公園での引き渡しをおこなった。臨場感があり、いつもより保護者の協力を多く得られた。保護者の方も広域災害には危機感をもっているため、カンタンメールや園便りにも、避難場所等を詳しく記載した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	22名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	27名

イ 健康管理

- 健康診断 年 1 回
- 細菌検査 年 6 回
- 給食、0 歳児調乳担当のみ毎月 1 回

ウ 職員会議

- 定例会 毎月 1 回
- 行事前打合せ会（随時）
- 0 歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議(月 1 回)
- 期別反省会（年 3 回）

会議 評価・課題

会議の目的にあわせ、十分生かすことができた。（各マニュアルの共有化の）反省点としては、会議に出ていない職員が、議事録を読み確認をしていくことで、全員が会議内容を把握できるように徹底している。

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 年 5 回 約 5 万円
- ・法人内研修
- ・保育団
 - 全国私立保育連盟研修参加 約 20 万円
 - 墨田区保育協会主催の研修（年 5 回）約 2 万円
 - 東社協の研修

研修 評価・課題

園内研修がスキルアップにつながるように外部講師による研修や看護師による研修内容を充実し学んだ（リトミック、わらべうた、小 1 プログラム、救急法、危機管理等）。特に社会の現状認識や子どもへの関わり方や保護者との関わり方として、1 日研修を企画し、他園の方数名も加わり「気になる子」の対応について学びあうことができた。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入
- 株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・園長、主任、事務パートでの職務分担の話し合い行なっているが、まだまだ検討していくことが必要、事務作業に追われることが多い。
- ・職員の事務作業に関して、PC対応が必要なものが増えてきているのでスムーズにいくようDVDも含めてPC購入を考えている。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

園庭アスレチックの点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・4、5歳児保育室前のウッドデッキを新しく作る
- ・2階ベランダ柵カバーを危険防止のために取り付ける
- ・外部目隠しパネル塀修理
- ・調理室床壁補修
- ・配水管、雨水層工事
- ・消火水槽補修工事

設備関係 評価・課題

- ・調理室内床壁の劣化がひどくなり衛生管理上不都合なので補修工事を行なった。また4、5歳保育室前のテラスを広くウッドデッキにしたことで安全性の面でも、こどもたちの生活空間においてもよい場所となっている。園としては今後も地域活動に使用しているプレイルームやサッシ、扉等、継続して設備の点検しながら補修を行なっていく必要がある。

(3) 備品関係

ア 備品

事務室キャビネット

イ 保育用品購入

- ・各クラス用遊具
- ・餅つき用うす、きねの補修

ウ 給食用品購入

- ・食器

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

事務室が狭いので、整理整頓のためキャビネットを購入したので片づき仕事がしやすくなる。地域や関連施設に餅つきのうすやきねを貸し出しているが壊れて返されることがあり、修理代が高額のため課題が残る。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月 1 回

イ 防災設備の点検委託

年 2 回 (内、届け出 1 回)

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全園児数 + 全職員数) × 3 食 × (1 日 ~ 3 日) 分

災害対策 評価・課題

備蓄している物の賞味期限を定期的 (年 1 回の引き取り訓練に合わせて) に点検している。防犯訓練を年 2 回行なったが、建物の構造上、誰でも出入りが出来るので、すぐできる所から見直しを行い、ピロティへの鍵を時間により施錠するようにした。今後も継続して考えていく必要があり大きな課題である。

3 地域社会との連携

- ・ 東駒形教会、本所賀川記念館との連携、法人地域関係機関との連携
- ・ 「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流
- ・ 墨田福祉保健センター「みつばち園」とのネットワークを強めていく。
- ・ 子育て支援総合センターとの連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・ 館内の三法人で連携しながら館設備や事業内容等について月 1 回報告、検討をし合っている。これは行事関係や子どもや職員の礼拝等の大きな支えとなっている。
- ・ 園児、家庭のことで気になること等、子育て支援総合センターとの情報の共有、相談等連携を作り、繋がりを大切にしている。

4 その他 (特記)

保育園の斜め前に他法人が、平成 23 年度 4 月に新設園を設置することになり服部理事長、本所賀川記念館鶴沢常務理事と光の園保育学校施設長三人で開設説明会に出席する。

黎明保育園の保育方針の3つの大きな柱は、キリスト教保育・統合保育・全人保育である。各クラスとも保育方針に基づき年度の初めに大切に作る保育目標を4月の園便り、クラス懇談などで伝えた。クラス懇談は園長、主任が陪席し保護者とコミュニケーションが取れる様にした。又、職員会の度に事業目標の読み合わせをし、雲柱社の職員として福祉に携わる事を自覚する様に心掛けている。

一時保育は8年目を迎え、夏頃より毎日10名を超える利用があり在宅での子育て家庭への支援が益々必要になっている。一時保育の「子育て情報誌」を年10回発行し、児童館や保健所で一時保育のアピールをおこなった。毎月の出前保育も定着してきており、地域の中で重要な役割を担っている。

2009年度は、午前中の学童室を利用して月1回ひろば活動（子育てサークル支援）を行った。ひろばの中で離乳食講座や赤ちゃんマッサージなどが、大盛況であった。今後も引き続き行いたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（1歳以上児受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年62日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・20人受入れ実施
- ・ 出前保育 年10回実施
- ・ 子育てサークル支援（ひろば） 年6回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年10回発行
- ・ 育児困難家庭への支援（1名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（3名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30 実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
------	----	------	-----	------	----

ひよこ	0歳	3	10		
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	18		
ひつじ	3歳	2	19		
ぱんだ	4歳	1	19		
きりん	5歳	1	17		
一時保育		2	10名定員		
合計		15	98		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 296日
25	23	26	25	27	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	25年未有	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

乳児 ・ 幼児 年2回（6月、11月）

歯科検診 年2回（6・11月）

蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ・心身ともに健康な体で意欲的に過ごす ・友達同士認め合い、力を合わせて活動する
- ・自分で考え表現する ・自律して生活する ・イエス様と共に生きる

年間目標 評価・課題

グループ活動を中心に協力して活動する事を、年間を通して大切に考え、取り組んで来た。グループの中でリーダーを決め、取り組みをする時はグループで話し合う時間を作り、自分達の考えた取り組みが出来る様に進めた。1学期から乳児クラスに手伝いに行くなど異年齢での交流を大切にした。2学期からは3歳児を含めた縦割り活動を取り入れた。お別れ遠足などの活動では縦割りグループでの行動を主体にした。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・友達と一緒に充分遊ぶ。 ・自分の持っている力を出し合って行動する。
- ・物事に関心を深め、考え表現する。 ・基本的な生活習慣が身につく

年間目標 評価・課題

年間を通してグループでの活動を大切に考えとり入れて来た。子ども同士の関わりが上手くいくように保育者は適切に遊びに入るようにした。集団でルールのある遊びが随分出来る様になってきている。子ども同士のけんかなども時々あるが、出来るだけ自分達で解決出来る様に見守る様にした。大人が適切に関わる様にしている。食事の後の片付けや掃除も自分達で出来るようになり、今何をしなければならないか自分で考えられるようになって来ている。2学期より3・4・5歳の縦割り活動を週1回位入れるようにして来たことで、自分達のクラスだけでなく、低年齢のクラスにも気遣いが出来る様になって来ている。

ひつじ組（3歳児）の年間目標

- ・自分で出来ることは、自分でする。 ・体を使ってよく遊ぶ
- ・友達の中で充分遊ぶ。 ・自分の思いや感じた事を言葉で伝える。

年間目標 評価・課題

担任との関係を築きながら、子ども達もごっこ遊びを上手に展開している。特に女の子達の遊びは充実している。絵本やお話を読んでもらうのが好きで、その内容を遊びに展開することもあった。クラスの中で手がかかる子どもが居り、発達センターの臨床心理士と連携しながら関わりを続け、後半は随分落ち着いて来た。

こあら組（2歳児）の年間目標

- ・自分のことは自分でしようとする。 ・周りの人に興味を示し、要求を言葉で伝えようとする。
- ・遊びに集中し楽しむ。 ・全身を使った遊びを楽しむ

年間目標 評価・課題

子ども達同士でイメージを共有して遊べる事が多くなって来た。言葉での遊びのやり取りも随分上手になって来ていると感じる。が、まだやりとりがうまくいかなくて手が出てしまう事がたまに見られる。今後も見守る必要がある。生活習慣は自分でしようとする姿が多くなり自立に向かっている。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

- ・よく食べ、よく眠る。 ・欲求や要求を行動や覚えた言葉で表そうとする。
- ・全身を使った遊びを楽しむ。 ・自分の興味のある物で遊ぶ。

年間目標 評価・課題

月齢にとらわれず、一人ひとりの育ちを見て無理のない生活や関わりを大切にしてきた。子どものやりたい気持ちを大切に、時には見守りながら待つことも意図的にしてきた。子ども同士の関わりが深まる中で他児の存在の大切さを伝えたり、思いやりが育つ様な働きかけをしてきた。年度途中で職員が交替したが子ども達に特に混乱はなかった。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過す。

- ・発達にあった手足、身体の動きが見られるようになる。
- ・個々の要求や欲求を表し求めようとする

年間目標 評価・課題

甘えたい子どもの気持ちに寄り添う保育を大切にしていた。前半は、担当制を大切に考え、食事は担当の職員が行なえる様にした。その結果、大人との愛着関係が出来、無理なく毎日の生活をおくれている。保護者との信頼関係を築けるよう日々、会話や連絡帳を通じたコミュニケーションを大切にしていた。職員、看護師が途中で入れ替わるなどがあったが子ども達は混乱なく過ごせていた。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・意欲と主体性を持って共に生きる。
- ・一日の生活を無理なく、楽しく過ごす。

年間目標 評価・課題

開所 8 年目を迎え、夏以降は利用者が毎日 10 名を超え、キャンセル待ちが発生する日が多かった。保護者のニーズに応じた保育をしているが、その日にくる子どものペースや生活を大切に考え、無理のない保育を心がけている。2009 年度は保育者の交替があったが利用者に特に混乱はなかった。保護者とは丁寧な対応を心がけている。

2009 年度実施行事

- 4 月 1 日 入園式・12 日 春のウェルカム広場（異年齢交流）
- 16 日 イースター礼拝・20 日 害虫駆除
- 5 月 10 日 親子遠足（幼児）
- 6 月 13 日 創立 60 周年記念行事
- 6 月 7 日 親子遠足（乳児）
- 6 月 11・12 日 こどもの日・花の日礼拝訪問
- 7 月 1 日 プール開き・7 月 17・18 日 お泊り保育
- 7 月 30 日 音楽会
- 8 月 4・5・6 日 学童キャンプ
- 9 月 5 日 さんまの日
- 10 日 おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会・害虫駆除
- 26 日 芋ほり遠足
- 10 月 11 日 運動会・17 日 焼き芋大会
- 11 月 8 日 おまつり広場 13・14 日 収穫感謝祭礼拝・豚汁パーティー
- 12 月 18 日 クリスマス礼拝・祝会
- 1 月 8 日 もちつき会
- 2 月 7 日 シルエット劇場
- 2 月 27 日 幼児お別れ遠足
- 3 月 18 日 卒園式
- 3 月 31 日 進級式

月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

年間を通して滞りなく保育が行われた。幼児クラス担任の力量が年々積み重ねられてきていると感じる。昨年度の反省を基に適切にプログラムが行なわれていた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年2回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して食育に力をいれてきた。魚の姿煮、空まめ、とうもろこしの皮むき、野菜の栽培など実際に眼で見て楽しんで食べることを大切にしてきた。また、幼児はクラスでのクッキングも定期的にとり入れ、自分達のおやつなども手作りした。年長児は4月より、米を研いで炊く経験もし、ご飯が炊ける匂いに感動していた。今後も取り組みを進めていきたい。

カ 安全管理 毎月1日安全点検

交通安全教育

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（9月1日）

環境教育、ゴミ処理を通してリサイクルの大切さを学ぶ（9月）

安全管理 評価・課題

防犯訓練を定例化する事で、危機意識も高まり防犯に対する意識は年々高まっていると感じる。職員の連携やチームワークが大切であると感じる。いつも備えをしておけるように心掛ける。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	16名
調理員	4名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断 年2回（6月、11月）

歯科検診 年 2 回 (6 月、11 月)

細菌検査 年 12 回

ぎょうちゅう検査 年 1 回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回

行事前打合せ会 (随時)

乳児・幼児・食事カリキュラム月 1 回

期別反省会 (年 2 回)

会議 評価・課題

職員会は毎回議題を前もって公開し、会議が効率よく行われるように心がけた。幼児・乳児カリキュラムも同様である。行事のうち合わせと反省がうまく機能していないのが、今後の課題といえよう。

エ 研修計画

・園内研修 (2 回)

・法人内研修

・葛飾区子育て支援課・葛飾区私保連・全私保連・厚生労働省・東京都社会福祉協議会
ムジカ音楽教育研究所

研修 評価・課題

キャリア別に研修を組みスキルアップできるようにした。職員の希望も入れてきたが、あえて園の指示に従って研修に臨んでもらうこともあった。研修後は報告の時間をとり、職員みんなで共有できる様にした。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成

- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

事務員と連携し、定期的に事務仕事を効率よく行なえる様に心がけた。

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
園庭の固定遊具のメンテナンス

- イ 老朽設備の点検、老朽箇所を更新

テラスの柱が腐食し、応急手当てをしてもらう。修繕は次年度の計画に入れる予定。

(3) 備品関係

- ア 備品購入

- イ 保育用品購入

- ウ 給食用品購入

- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

4・5歳児おもちゃ棚、個人持ちロッカー棚購入

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
毎月1回

- イ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）

- ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

非常食の入れ替えを行なっている。毎年葛飾区より補助金がでている。

3 地域社会との連携

おまつり広場、地域活動、もちつき会、保育ボランティア活動、卒園児学童キャンプ
運動会、卒園式、一時保育登録児クリスマス

地域社会との連携 評価・課題

行事を通して地域の方を招いたり、逆に地域の行事にも出向くように心がけた。少しずつ地域の信頼を得られているように思う。又、一時保育・出前保育でも在宅子育て家庭への支援を益々重要なものとなってきている。2009年度は家庭訪問も行なった。

4 その他（特記）

2009年度、創立60周年の記念礼拝、祝会を行う。記念誌も作成する。在園児向けには、人形劇団を呼び、人形劇の鑑賞をしてもらう。カプラ大会や、お父さんのための子育て講座など60周年記念にふさわしい事業を行った。

記入者 土屋 恵子

地域子育て支援拠点事業をセンター型に移行し、公園や地域福祉会における子育てサロンに出前保育を実施した。また、食事体験を毎日 4 組受け入れ、子ども達や保護者の育児を支援した。利用者より家庭での食生活の向上につながることや、子ども達が集団で食べる楽しみを体験できる為、大変好評であった。今後も利用者の声を聞きながら充実をしていきたい。

一時預かり事業は、本年 4 月 1 日より開始した。定員は、1・2 歳児が 2 名、3 歳児 2 名でスタートしたが、想定以上に利用者が多く、要請に応えられない日が多くあった。職員配置や受け入れる部屋もないが、できる工夫をしていきたい。

本年度初めて第三者評価を受審した。特に高い評価は、創設者賀川豊彦の理念を現在の保育環境に反映し、伝承を重んじて自信を持って保育をしている等、概ね良好であるとの評価を受けた。また、今後改善すべき内容も把握できたので順次対応をしていきたい。学園が今後も利用者に質の高いサービスを提供するとともに、地域を歩む開かれた施設運営をしていく為の客観的指標となった。

新型インフルエンザの発生については、市内の保育園や学校では休園、休校が相次いだ。当園では、大きな発生にならず、クラス閉鎖で乗り切る事ができた。これらは、除菌機能付き空気清浄機の購入（県補助金対応）や手洗い等指導を徹底することに加え、保護者への「かんたんメール」が有効に機能し、協力体制ができたものと思われる。また、このことによりメールの加入保護者が概ね 100 パーセントとなった。

御殿場教会中島牧師を招いて、毎月聖書（テキスト使用）を学び、「神と人ともに仕える職員」を目指してキリスト精神について学んだ。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・産休明け保育実施 2 名
- ・延長保育実施（1 時間延長）年間延べ 745 名利用
- ・乳幼児保育事業（零歳児の受入れ）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・一時預かり事業

イ 地域子育て推進

- ・地域子育て支援拠点事業（センター型）
- ・育児講座 年 11 回実施 109 名参加
- ・お年寄りとの交流 年 4 回実施
- ・退所児童との交流 年 2 回実施
- ・小中高生の育児体験受入れ 年間受入れ延べ 83 名

- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年2回、6人受入れ実施
- ・子育てサークル支援 1才児クラブ14回、2才児クラブ14回
- ・子育て情報誌の発行 年12回発行
- ・外国人児童受入れ(1人)
- ・出前保育(サロンを含む)9回

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	2	4		途中入所があった為、
たんぼぼ	1歳	3	18		年齢区分による人数と
ひまわり	2歳	3	17		保育士数が異なる
もも	3歳	2	26		
すみれ	4歳	2	27		
ゆり	5歳	1	31		
	その他	5			子育て支援3、一時預かり2
合 計		18	123		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 292日
25	23	25	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 年2回(5月、10月)

幼児 年2回(5月、10月)

歯科検診 年1回(5月)

蟯虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

健康安全面についての意味を伝え、確認していく事で自ら行動ができるようになった。様々な行事、取り組みの中で、一人ひとりの意欲を大切に、個人の成長に寄り添い、励ましていく事で自信が持てる子どもが増えた。グループでの活動や遊びの中でも、自分の意見や思いを相手に伝え、相手の意見も聞き入れながら協力し合う子どもも増えていった。友達との関わりの中で、自己表現する喜びを共感していった。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする

年間目標 評価・課題

運動会、クリスマス会の行事では、一人ひとり力を出し合い、一つのものを作り上げる喜びを実感できた。友達との関わりの中で、伝える事、伝える事を楽しんで話す事ができた。健康安全面などの生活について、基本的習慣は、身に付ける事ができた。課題としては、集団で活動する中で、ルールのある遊びを苦手な子どももいるので、時間をかけて対応をしていきたい。

もも組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。

- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

天気の良い日は屋外で体を動かす遊びを多く取り入れることで、集団遊びをたくさん楽しむ事ができた。生活の基本的習慣が着実に身に付けられるように、個々の発達状況を把握しながら一つひとつに時間をかけた。表現活動は全体的に時間が少なく、もう少し時間を増やし、表現する時間を楽しみたかった。

ひまわり組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

ゆっくり子ども達の話聞きながら、ごっこ遊びや言葉のやりとりの仲立ちをした。一人ひとりの思いを受けとめて丁寧に話を聞くよう心掛け、スキンシップをはかった。戸外遊びを多く取り入れ、十分に体を動かすようにした。また、芝生で遊んだり散歩にも出かけ自然とのふれ合いを楽しんだ。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

一人ひとりの子どもの生理的欲求に応えるように、きめ細かい対応をした。また、甘えな

どの依存的要求を満たすようにスキンシップを多くし、しっかり目を見て優しく話しかけるようにした。遊びについては、低月齢が多いため室内遊びを中心としたが、もう少し外遊びを取り入れ、自然や生き物に触れる機会をもうけたかった。

ちゅうりっぷ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用品などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

一人ひとりの生活リズムを家庭の意向や様子を聞きながらつくっていくようにした。食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求を満たしていったので、落ち着いた生活ができた。また、高月齢で集団ができたので、室内外での遊びが成長に合わせてできた。課題としては、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促すような声かけをしていきたい。

2009年度実施行事

- 4月3日 入園式
- 5月21日 春の親子遠足 22日 さつまの苗さし
- 6月11日 花の日の礼拝と訪問
- 6月16日 花火教室
- 6月29日、30日 保育参観
- 7月29日 卒園生のつどい
- 9月19日 運動会
- 10月1日 秋の遠足 21日 芋掘り・焼芋大会
- 11月12日 幼児祝福式 18日 収穫感謝祭 24日 球根植え
- 12月16日 もちつき 17日 イブ礼拝
- 1月9日 クリスマス会 14日 雪あそび
- 2月15日 観劇 20日 お茶会
- 3月3日 お別れ遠足 20日 卒園式

月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

新型インフルエンザが流行した為、市側より行事の自粛要請があり、学園祭を中止した。クリスマス会は1月に延期し実施した。地域老人クラブとの交流については、行事の回数を減らしてほしいとの依頼があり、年4回開催とした。今後、老人クラブと協議を続け、もう少し交流を増やしていきたいと思う。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年1回

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

給食施設栄養指導で定員が120名になったため、健康増進法第21条2項の「栄養士又は管理栄養士を置くように努めなければならない」と指導を受けたので、今年度より栄養士を正規職員として採用した。

カ 安全管理

交通安全教育（7月27日、12月2日）交通指導員による「子どもの安全教室」

非常災害時の避難訓練（10月28日）

引き渡し訓練の実施（10月28日）

安全管理 評価・課題

災害時に備えて毎月1回御殿場市地域防災無線通信訓練を行っている。交通指導員による「子どもの安全教室」を年3回開き、交通事故の防止に努めた。また、地域の「高根防犯まちづくりの会」に加入し、のぼり旗を立てたり、登降園時に巡視し近隣の方々と声かけをし、連絡を密にした。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	18名（パート4名含む）
栄養士	2名
調理員	1名
事務員	1名
嘱託医	2名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年1回（11月と2月に分かれて）

細菌検査 年24回

調理師、保育士 毎月 2 回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回

期別反省会 (年 2 回)

会議 評価・課題

会議に先立ち牧師からの言葉をいただき、会議を開いた。この為、職員が何を大切にしていけばいいかが理解でき、積極的な意見が出やすくなってきている。

エ 研修計画

- ・園内研修
- ・法人内研修
- ・保育団体研修 (県保育所連合会、市保育の会等 その他研修)

研修 評価・課題

御殿場教会の中島善子牧師を招いて、聖書の学びを行った。「神中心という事」のテーマで学びを行った。全ての研修参加者は研修レポートを提出して、それを全職員に回し職員の伝達研修ができた。保育団体研修にも積極的に参加し、資質を高め共有化を図った。

オ 退職・福利厚生

独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入

静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成
- ・保育要録の作成

事務関係 評価・課題

特に問題はなかった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所を更新

設備関係 評価・課題

避難時に落下、とび出し等の危険を回避する為に避難用滑り台に侵入防止門扉を取り付けた。また、総合遊具の後方の土手の土が崩れ危険な為、土を入れ、植栽フェンスの修繕をした。

(3) 備品関係

ア 備品購入

プラズマイオン発生機 大3台	292,950	(除菌機能付き空気清浄機) 単価97,650円
プラズマイオン発生機 小3台	245,700	(除菌機能付き空気清浄機) 単価81,900円

イ 保育用品購入

食育指導ボード	87,500	
砂場キープネット	49,800	
いもむしメッシュトンネル2個	23,000	
高精度ベビースケール	90,000	
ジョイントチェア10脚	99,000	

ウ 給食用品購入

フードプロセッサ	98,175	
ハイテク・スパラテ2個	25,257	

エ 固定資産物品購入

プラズマイオン発生機 大3台	390,000	(除菌機能付き空気清浄機) 単価130,000円
----------------	---------	--------------------------

備品関係 評価・課題

検収の結果、すべて問題がなかった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

ツナ缶、乾パン、140名×3食×1日分 飲料水2日分

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

周辺小学校とお便りなどの情報を交換し合い、情報の共有を図った。また、子育て支援センターでは、地域福祉団体と連携し、出前保育や地域子育てサロンを実施した。

4 その他（特記）

前文

- 民営化 1 年目、子どもたちや保護者の方々が安心して過ごせるようにできるだけ従来の保育の踏襲を基本姿勢とした。そのような基本姿勢が信頼につながり大きなトラブルもなく 1 年を過ごすことができた。
- 4 月から小さな怪我は頻繁に起った。病院に行くかどうか迷うような小さな傷や怪我也も受診をし、保護者に丁寧に状況を説明し謝罪をすることを心がけた。やはり子ども達が落ち着いて生活できていると感じられるようになったのは 2 期の運動会が過ぎた頃である。
- 保育が適正に行われているかどうかの「検証」として、保護者からのアンケート、大きな行事の見学、報告会が年間通して行われた。アンケートの結果は概ね良い評価をいただいたが課題も多い。「保育士の対応にばらつきがあるか」の設問は 2 期のアンケートより 3 期のほうが「ある」との答えが多くなってしまった。職員集団としては、経験者が多く保護者からの要求にも対応が概ねできていたが共通認識を持つ為の話し合いがもてず、クラスごとに考え方の違いがでることがしばしばあるが次年度に課題としてつなげていくことにしている。
- 11 月に指導検査を受け文書指摘はなかった。検査の当日の口頭での指摘事項に関しては早急に改善をした。幼児のプライバシー保護の為、幼児のトイレに扉を付けたり乳児カリキュラムの個人評価欄や児童票を付け加えた。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2 時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（その他：4 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 退所児童との交流 年 1 回実施
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 外国人児童受入れ
- ・ 年末保育 12/29～12/30 実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
いるか組	0歳	4名	9名		
りす組	1歳	4名	14名		
うさぎ組	2歳	4名	18名		
こあら組	3歳	2名	20名		
ぱんだ組	4歳	2名	20名		
らいおん組	5歳	2名	20名		
ぺんぎん組	0～5歳まで	1名	4名定員		
合 計		19名	101+4		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25日	23日	26日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児（0歳児） 毎月 3回
- 幼児 年2回（6月、10月）
- 歯科検診 年2回（5月、2月）
- 蟻虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

各組の保育目標

らいおん組（5歳児）の年間目標

何にでも自分から意欲を持ち、最後まで頑張れるたくましい身体と心を持つ子ども
仲間の中で、協力してできたことをみんなで喜びあえる集団やお互いに尊重しあったり、時には、失敗を許しあえる関係を育てる。

- ・ 基本的な生活習慣の自立を目指し、見通しを持っていきいきと生活する。
- ・ 集団の中で自己主張をし、人の立場を考えながら行動できる。
- ・ 集団生活や遊びを通して、協力しあう大切さを知り、仲間意識を深める。

年間目標 評価・課題

保護者からの要望や期待の大きいクラスだったが、今まで年長児になったらすべき事と決まっていたことを少し取り除いて、新しいことを1つ付け加えて挑戦した。新しいこと

へ意欲的に取り組み、みんなのできたことを喜びあうことができた。年長組は園の中での役割が多く担任は特に行事に追われているような1年だった。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

基本的な生活習慣を身につける

自分の気持ちを言葉で表現し、相手の気持ちにも気づいていく

集団遊びを楽しみ仲間関係を広げていく

いろいろな経験をする中で、期待を持ち楽しく生活する

年間目標 評価・課題

年長組との部屋が離れているので自然な交流が少なかった。集団での活動を好んでしたがらない傾向がみられたが、定期的に3クラスの交流会の中で異年齢児との触れ合いが見られたり、年長児からの刺激を受け集団遊びが広がっていた。

こあら組（3歳児）の年間目標

基本的な生活の仕方が分かり、自分からしようとする。

自分の要求や思ったことを相手に言葉で伝えられるようにする。

友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知り、共感できる関係を作っていく。

手指や身体全体をたくさん使って、色々な遊びを楽しむ。

年間目標 評価・課題

担任が変わり、しかも担任数も少なくなったことも影響してか、子どもたちの行動が多様となり、2人の担任だけでは対応が難しい時には、パートや主任も入り、多い時には4～5人が保育にあたった。噛みつき、ひっかきが2期になっても続いた。生活の切り替えの時間帯にトラブルが起きやすく、喧嘩内容もはっきりしないことが多かった。年齢にあった遊具を揃え遊び環境を整えていくなかで、友だちとの遊びが持続し楽しいと思われる姿に変化してきた。3期の保護者懇談会の時に、子どもたちが家に帰ってからも保育園のことや担任のことを話し、楽しい様子が伝わってきて安心でき信頼が増した、という意見が保護者から述べられた。保護者との信頼を築く基本を確認させられた。

うさぎ組 すみれ組（2歳児）の年間目標

生活習慣が身についていく。

いろいろな経験を通して、自分の思いや要求を言葉で伝えようとする。

保育士や友だちと楽しく遊ぶ。

身体を使った遊びを十分に楽しみながら丈夫な身体作りをしていく。

年間目標 評価・課題

クラスが2階にありトイレも共有、午睡も一緒なので幼児クラスからの刺激が大きく落ち着かなかった。また、生活が一斉活動で子ども達を待たせる場面が多い為、喧嘩やトラブルにつながる事が多かった。職員の動きを見直し、できる限り小集団での

活動に切り替えたり、また午睡時間を子どもの様子に応じて行った。昨年度は幼児のクラスの行事に組み込まれていたことを、クラス単独で行う行事を多くした。結果として無理なく参加できていた。

りす組（1歳児）の年間目標

食事、排泄、睡眠、衣類の着脱などの活動を通し、自分でやろうとする。

歩行が安定し、身体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ

ひとり遊びを楽しむ

身近なものに興味を持ち、探索活動を十分に楽しむ

保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむ

色々な思いや要求を言葉や態度で表現しようとする

年間目標 評価・課題

新入児を5名加えてスタート。1人1人を十分受け止められるように人的配置も手厚くした。保育室が1階で園庭に面している、トイレも部屋続きの為、環境的には恵まれている。4名の担任が連絡相談がうまく機能して行く為に何度も話し合いを持った。

いるか組（0歳児）の年間目標

- ・よく寝て、よく食べ、よく飲み、機嫌良く過ごす
- ・快、不快や、要求を泣いたり、声を出して表現し、また心地よさを知る
- ・意欲的に生き生きと遊ぶ
- ・大人や友達との関わりを喜ぶ
- ・見る、聞く、触れるなどの外界の刺激しっかりと受け止める
- ・発達の道筋にそって体を動かすことを喜ぶ

年間目標 評価・課題

月齢の違いに配慮し産休明けコーナーを設置しているが、担当者が当初固定していたが、行動範囲が広がり出した高月齢児に対応しきれない場面が出てきたため、見直しをし、ゆるやかな担当制に移行した。

今年度は初めてのお子さんという保護者がほとんどなので1人1人にきめ細やかな対応をこころがけた。調乳室が部屋続きに設置されている為、離乳食やミルクづくり冷凍母乳解凍をするなど栄養士が1名離乳食担当者として配属しチームワークを強めた。

2009年度実施行事

- | | |
|--------|----------------|
| 4月 1日 | 進級 入園おめでとうの会 |
| 5月 | 保護者会（1日毎に各クラス） |
| 6月 18日 | 蟻虫検査 |
| 6月 25日 | プール開き |
| 8月 28日 | プールおさめ |
| 9月 10日 | おじいちゃんおばあちゃん会 |

10月10日 運動会
 10月23日 バス遠足（5歳児、4歳児）
 12月4日 お楽しみ会
 12月18日 餅つき会
 12月29日 年末保育
 12月30日 年末保育
 1月28日 ごっこ遊び
 2月 保護者会（1日ごとに各クラス）
 3月3日 3歳児さよなら遠足
 3月12日 就学お祝い会
 3月16日 4歳児さよなら遠足
 3月19日 5歳児さよなら遠足
 3月24日 忘れないでねの会
 3月31日 お別れ会
 月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

行事はすべて昨年度の踏襲をした。親参加の行事は特に3ヵ月前から委員会を組織しマニュアルに添って進めたが、すべて初めての試みという点で行き違いや、直前になって付け加えたり見直したりと混乱は多々あった。しかし、チームワークの力で懸命に取り組んだことが大きく評価を得られた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ アレルギー児の除去食対応で間違いがないように調理と保育との連絡を密に行った。
- ・ 本格的なクッキングは禁止されているので出来なかったが自分たちで植えた野菜を調理室で調理し食したり、食育活動として栄養士が定期的に子ども達にお話しをする時間を設けた。

カ 安全管理

交通安全教育（6月、9月）

非常災害時の避難訓練（9月1日）

引き渡し訓練の実施（9月1日）

安全管理 評価・課題

- ・交通課の指導を受け春と秋の2回、交通安全の指導を受けた。
- ・環境安全マニュアルに基づいて定期的に点検をしている。
- ・年1回行う引き取り訓練の日程を変更し、周知徹底したところ今年度の参加者は多かった。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	22名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	26名

イ 健康管理

健康診断	年1回
細菌検査	年1～2回
全職員	毎月1回

ウ 職員会議

定例会	毎月1回
昼礼	毎日1回
行事前打合せ会（随時）	
0歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議	（月1回）
期別反省会	（年2回）

会議 評価・課題

早期に保護者や子どもたちの名前と顔を一致させること、全職員が全員のことを知り、前日やその日に起こったことを共有するために毎日昼礼をおこなった。構成メンバーは各クラス1名、その他の専門職1名、その他出られる者とした。怪我はもちろんだが伝え忘れや、親からの苦情も出し合い早急な対応に努めた。

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 年5回
- ・法人内研修
- ・保育団
 - 全国私立保育連盟研修参加 なし
 - 墨田区保育協会主催の研修（年5回）約2万円
 - 東社協の研修

区の研修

研修 評価・課題

- ・園内研での話し合いを大事にした。
- ・外部研修としては墨田区の研修に参加したが、中には民営化の問題点など居心地の悪い研修もあった。
- ・外部の大きな研修大会には出られなかった。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務
- ・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育課程の作成
- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成
- ・保育要録の作成

事務関係 評価・課題

- ・都指導検査を受け、月案カリキュラムの中に自己評価反省の欄を加えることになった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

なし

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・床研磨（一番ひどい一部屋のみ）

設備関係 評価・課題

建物としては決して古くはないが、床がささくれていて裸足保育では危険があると判断し床研磨の工事をした。修繕費は区からでているが微々たる予算であり、水道栓の

取り換え、水漏れの工事、門扉のドアノブの取り換え、漏電個所の工事等早急な対応が必要なところは直した。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・ 1歳用遊具棚
- ・ デジカメ 2台
- ・ 食器保管庫（職員用の食入れ）
- ・ 掛け時計

イ 保育用品購入

- ・ 各クラス用遊具

ウ 給食用品購入

- ・ 食器補充

エ 固定資産物品購入

- ・ 園全クラス電話（リース）
- ・ カラーコピー（リース）
- ・ パソコン 11台

備品関係 評価・課題

区との備品取り決めとして、現在使用している備品が故障したり壊れた場合は、区の担当者が購入か修理かの判断することになっている。ただし3万円以下のものは、法人が購入することになる。洗濯機や掃除機が次々と動かなくなり、区に報告し購入していただいた。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

エ 防犯訓練 年3回

災害対策 評価・課題

非常食糧の備蓄について引き継ぎがうまくされていなかったこともあり、水しか備蓄してなかったのは反省しなければならない。

3 地域社会との連携

- ・東駒形教会との連携
- ・同法人児童館との連携

地域社会との連携 評価・課題

卒園児がほぼ全員地域の児童館、学童につながっていくので、それらの事業体と、より繋がりを深めていくことを意識した。

4 その他（特記）

社会福祉法人雲柱社 さくら橋コミュニティセンター 2009(平成 21)年度事業報告

記入者 小原木 尚子

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																							
事業の総括	<p>午前中に行っている「乳幼児とお母さんのつどい」を核に在宅の方への地域での子育ての支援を目的に、また家族での子育て・子育てを考えたイベントも計画・実施した。0歳～3歳児までの乳幼児の時間、その中には2年保育の支援活動も行っている。活動終了後も交流の場として過ごせるようプレイルームやランチタイムなどを設け、体育館(3F)・幼児室(2F)を午後1時まで開放し、コミュニケーションの場として提供してきた。また、地域の幼稚園に通っている子ども達と在宅の3歳児の交流を目指し午後からは幼児クラスを展開している。幼児活動は数年間実施したことにより活動も定着し、小学生の一般利用の活性化やイベントへの参加につながってきている。4・5歳児のクラスを合同にしたことで遊びや活動に活気が出てきた。今年度は特に幼児室の環境整備に力をいれ、安心して利用できる部屋としての配慮を心がけた。後半からの0歳低月齢児の参加が夏前より増え、今年度も0歳低月齢クラス「こパンダクラス」を予定より早い時期に行った。</p> <p>12月、区からの要請で1階トイレを「だれでもトイレ」へ改修した。おむつ交換台や子ども便座などの設備が整えられた。職員がコーディネートすることにより、乳幼児の活動に参加している母親が講師となった子育て講座が展開できた。</p>	<p>今年度は学童クラブ独自の行事を多めに持ち、仲間同士の体験や遊び(全体レクリエーション・工作・公園遊び)を行った。学童クラブとしての活動目標は子どもたちにとって保護者として安心して過ごせる生活の場となること、仲間との交流を深め遊びや生活を豊かにする場として個とのかかわり、集団とのかかわりのバランスを保ち一人ひとりを大切にすること、基本的生活習慣の確立、クラブおよび児童館内でのルール、社会性を学ぶことの4つであった。クラブとしてのまとまりと一人ひとりの生活の充実をねらいとして放課後の生活を有意義に過ごせるよう配慮した。毎日のおやつも手づくりや旬のものをとりいれ、成長の糧となるおやつ提供に努めた。</p> <p>1年から3年までの構成メンバーでグループでのおやつやレクリエーション(月1回午後)、帰りの会を行った。学年の枠を超えて、また3年生がリーダーとして意識をして子どもたちの取り組む姿勢がみられた。墨田特別支援学校より入会する児童1名が継続。介助が必要。後半から区の支援としてヘルパー制度が導入され、週2回バス降車から利用している。今年度より言問分室開設。交流事業を持つ。</p>	<p>この地域は小学生の人数も1学年1～2クラスと近年減少をしている。一般来館の児童利用が減る中、センターの自由来館や体験活動、イベントに参加しやすいようコミュニティクラブの活動—高学年(4～6年)・低学年(1～3年)—を中心に行っている。センターを利用してもらえることを第一にこころがけ、利用方法やイベントを企画した。町会や育成委員会等とのイベントも行なっている。スポーツ活動ではドッジボールが人気である。大会が秋、冬と2回あることもあり、それに向けての練習日程を組んだり日常の体育館利用の中でも子どもたちとの関わりは深い。高学年の組織活動は水曜日の活動と土曜日月1～2回の特別プログラムとして時間枠を長くとり活動を行った。</p> <p>昨年度から重視して取り組んでいる「体験プログラム」は家庭からの評価が高い。他児童館と合同で雪国キャンプを行った。交流練習試合、交流ハイキングなども実施した。</p> <p>在宅家庭への支援(一時預かり 名称「クオレ」)はひき続き1年生～6年生まで行っている。</p>	<p>地域の児童人数の減少と自由学区選択制もあり利用の範囲に限られるかと懸念されたが、中学生の人数は増え2008年度に比べて倍の利用数となる。夕方6時以降の利用に加え、土・日の利用が多い。館内の過ごし方は主に体育館での仲間・職員とのスポーツやゲーム・おしゃべりなどである。午後6時までは小学生の利用があるため夕方までは、なかなか居場所がないのが実状である。夕方6時から中学生・高校生の時間となるため来館しやすいプログラムを企画したり、環境設定をした。</p> <p>夜9時まで開館している時間にはシネマタイムやクッキングなど、皆の意見からプログラムを作るイベントを行ってきた。「体験」「学習」「ボランティア」の3本の柱をベースに様々なジャンルの企画を行った。グループ同士の目的型来館が増えている。目的を持っての利用がきっかけとなりグループ同士でクッキングのプログラムに参加・体育館利用など、交流が持てた。</p> <p>*学習会 毎週火・木曜日午後7時～9時前・後期</p> <p>*音楽室利用 バンド活動での利用 3月「ひろば」にてミニコンサートを実施</p> <p>*ボランティア活動 小学生のプログラムへのお手伝い 職場体験(地域中学校)の受け入れ</p> <p>*中・高生来館者数 のべ7133人 開館日347日・日平均21人</p>	<p>地域での活動をより一層加え、事業を展開してきた。地域性もあり合同の行事としての活動もとても活発であった。地域との連携もとれており、民生委員、中学校地区育成委員、町会長、連合町会、子ども会などの方々と情報の共有ができた。</p> <p>本館・分室ともに学童クラブの父母会の実施など子どもたちとともにたのしいイベントができた。</p> <p>中高生のバンド活動についても音楽室利用者 OBの手伝いがあり発表の場ももてた。</p> <p>運営委員会は年2回実施し運営委員の方には様々なご意見をいただき合同行事のきっかけとなった。</p> <p>センター開館以来の念願で言問地域に小学校内学童クラブが出来て24名の在籍で事業を展開した。</p> <p><ボランティア活動> エコキャップ収集・アルミ缶回収 切手収集作業・隅田公園クリーン作戦 障がい者福祉作業所への実習・協力・施設見学</p> <p><実習生・ボランティアの受け入れ> 大学生・高校生 ボランティアセンター ボランティア登録(センター利用者 中学生～)</p>																																																																							
活動・行事報告	<p>*子ども服リサイクル(6月・10月)80組 *おはなしの会 計2回 *親子映画会 2回 *夏休みプログラム(水遊び他 7・8月)198組 *うんどうかい 10月 言問小学校にて78組 *バスハイク 11月 14組 *劇団公演 11月 48組 *乳幼児クリスマス 12月 102組 *プレイルームの利用(水・土・日・長期休業日の午前中) 実施日数 144日 参加組数 親子1293組 *子育て講座の実施(ヨガ・ベビーマッサージ等) 実施回数 8回 75組 *区より子育て相談員・保健師の派遣 月1回程度 *一時預かりの利用者数:56名</p>	<p>*2009年度在籍数 本館48名(定員60名) *誕生日会(その子の誕生日に合わせて) *お便り「さくらんぼ」の発行・保護者会の実施 *環境整備 おもちゃの充実(テーマ遊び)・ロッカー「ピカピカの日」・帰りの会のプログラム *お出かけ 観劇7月・川遊び8月・キャンプ(1泊)9月・上野動物園 10月・お別れ遠足3月 *ハロウィンパーティー・クリスマスパーティー *おわかれ会 父母会と共催キャンプ *地域の方にミュージックベルを教えていただき、区主催の「ふれあいフェスティバル」に参加(12月) *墨田区パラリンピックパネル展に参加(義足・車いす体験)</p>	<p>通常の月のプログラム お昼ごはんを作って食べよう 月1回 おかしづくり 月1回 てづくりタイム 月2回 各種 スポーツ大会 体育館(3F)ドッジボール・一輪車・鬼ごっこ・タスケ・ノーボールタイムほか 図書室(2F)読書・ぬりえ等(絵本・紙芝居ほか)・おはなし会 集会室(1F)木工・ビデオシアター・マット・ゲーム</p>	<p><イベント> ・1年生歓迎会 45人 ・こどもの日フェスタ 94人 ・えんにち 271人 ・コミュニティラリー 75人 ・劇団公演 48人 ・区ドッジボール大会 31人 ・子どもクリスマス会 47人 ・もちつき 241人 ・コミュニティひろば 239人</p>	<p>・体験学習キャンプ<ワークキャンプ> 山梨県あさひ福祉作業所 8月 小学5年生より参加可 5名</p> <p>・各コミュニティクラブでは、デイキャンプ・合宿・キャンプ・リサイクル活動・ボランティア活動等は年間実施。</p> <p><その他> 新型インフルエンザの流行により一般来館学童クラブ育成の自粛あり(7月～)</p>																																																																							
登録者・来館者	<p>(言問分室学童クラブ在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>*区規定の18:00以降の預かりは本館にて育成を行っている区の「聞こえとことばの教室」に通級2名、軽度発達障がい児童1名 *父母会「どんぐりの会」設立 *夏休みキャンプを実施 環舎涸沼 *本館同様に学年交流・地域交流をもつプログラムを実施</p>		男	女	計	1年生	5	9	14	2年生	3	6	9	3年生	1	0	1	計	9	15	24	<p>(本館学童クラブ在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>計 22 26 48 *区規定の18:00以降の預かりが多く8～10名の子どもの育成を自主的に法人として行っている(改善を区に要望していく)。 *小梅小・言問小・墨田特別支援学校より帰館 *年末保育 12/29、30 1名</p>		男	女	計	1年生	8	11	13	2年生	5	7	12	3年生	8	8	16	4年生	0	0	0	5年生	1	0	1	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>3828</td> <td>3599</td> <td>7427</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>12127</td> <td>9960</td> <td>22087</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>4272</td> <td>1427</td> <td>5744</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>1099</td> <td>290</td> <td>1389</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>3176</td> <td>12158</td> <td>15334</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>24502</td> <td>27479</td> <td>51981</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1日平均 167</p>		男	女	計	乳幼児	3828	3599	7427	小学生	12127	9960	22087	中学生	4272	1427	5744	高校生	1099	290	1389	一般	3176	12158	15334	計	24502	27479	51981	<p>(その他の事業、特記事項) 子育て相談員・保健師による子育て相談会・子育て講座 地域事業(育成委員会と合同プログラム)・・・地域事業との連携 さくらパートナーシップ、コスモスの種まき・つみとり、 鮭の稚魚(イクラ)を育てて隅田川に放流をする(向島、さくら橋河川敷)、 GOGO言問「PTA主催」へのブース出展協力 ・牛島神社祭・・・9月中旬 ・お母さんのための七宝焼き教室(月1回)・・・今年度も区での一芸ひろばに出展、講師を努める。 ・思春期の子を持つ親の会「さくらの樹」 ・ケース検討会議(学童クラブ児童)・・・小学校、子育て支援総合センター、保健センター、主任児童委員、児童相談所ワーカーを交え行う。</p>
	男	女	計																																																																									
1年生	5	9	14																																																																									
2年生	3	6	9																																																																									
3年生	1	0	1																																																																									
計	9	15	24																																																																									
	男	女	計																																																																									
1年生	8	11	13																																																																									
2年生	5	7	12																																																																									
3年生	8	8	16																																																																									
4年生	0	0	0																																																																									
5年生	1	0	1																																																																									
	男	女	計																																																																									
乳幼児	3828	3599	7427																																																																									
小学生	12127	9960	22087																																																																									
中学生	4272	1427	5744																																																																									
高校生	1099	290	1389																																																																									
一般	3176	12158	15334																																																																									
計	24502	27479	51981																																																																									

指定管理 さくら橋

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・二寺分室・隅田分室）	小学生活動	中・高校生活動	全世代事業・自然体験事業																																																																																							
事業の総括	<ol style="list-style-type: none"> 年齢別活動の参加を促した。初めての方も孤立しないよう配慮に努めた。様々な子育て情報の提供に努めた。 特定グループの専有化を防ぎ、多くの方に公平に利用していただけるよう努力した。また、要望の強い相談活動は、なるべく希望に沿うように努力して実施した。 乳幼児一時預かり事業を行なった。（原則、1日最大2名、午前中、月～金） 乳幼児向けトイレの設置、オムツ交換台の設置、1階乳幼児室入り口の無段差化・スロープ工事、同室床張替え工事等を行なった。 	<ol style="list-style-type: none"> 2009年度は、隅田小学校移転の初年度にあたり、隅田分室も新しい場所・部屋で活動が始まった。全てが新しいことにとまどいながらも鋭意取り組んだ1年間だった。 1～3月にかけて、次年度学童クラブ本館の分割（第2学童クラブ室設置）のため、2階で工事を行なった。 年に数回、なるべく親も参加できるプログラムを提供した。 本館学童室の畳の交換をした。 	<ol style="list-style-type: none"> 学年別グループ活動（フレンドリークラブ）への参加をうながし、学年の成長に応じた活動を行った。 様々な理由で参加しない子（習い事、塾等）がたまにきた時でも居場所が確保できるように 	<ol style="list-style-type: none"> 来館が非常に不定期で、必ずしも学校が休みのときに来館する訳ではなかった。部活やアルバイトも関係しているようだ。 自分たちのグループだけ、という意識が強く、他との交わりを拒否する傾向が見られた。 音楽活動も同様の傾向が見られ、ライブコンサート、各種活動には、興味を示さない事が多かった。 個人的な相談（進学・友人問題など）を職員が受けてきた（随時）。 	<ol style="list-style-type: none"> 日曜休日開館の実施 母親コース（講師派遣、場所提供、交流会等の実施） 母親卓球（3グループ）会場提供 母親バドミントンへの協力、会場提供 募金活動 A:「赤い羽根共同募金」鐘ヶ淵駅前 B:一般行事での募金「WFP国連食糧計画」 C:その他 																																																																																							
活動・行事報告	<ol style="list-style-type: none"> プレイルーム（体育室開放）：乳幼児向けに体育室を開放した。原則週2回程度。 年齢別プログラム：発達に応じ内容を吟味し、活動を展開した。以下は年齢とクラス名。 新生児 赤ちゃんばんだ 金曜日 10:00～10:30 0歳児 ばんだ 金曜日 10:30～11:00 1歳児 うさぎA 火曜日 10:00～10:45 うさぎB 火曜日 11:00～11:45 2歳児 こあら 木曜日 10:00～11:00 3歳児 いるか 木曜日 3:00～4:00 4、5歳児 くじら 火曜日 3:00～4:00 育児相談（保健士、子育て相談員、職員等） 1F乳児室、3Fサンルーム（幼児室）の開放。 乳幼児「乳幼児プレイデイ（家族交えての野外活動）」の開催（11月）。 乳幼児親子遠足→インフルエンザのため中止。 保健士、子育て相談員等の専門家の協力を得て、相談活動の実現に向けて努力する。（その他）低年齢になるほど、来館が天気天候に左右される傾向が強く見られた。特に雨天時には、晴天時の半分以下という時もあった。 一時預かり利用者数：83名 	<ol style="list-style-type: none"> 3学童共通（本館・二寺分室・隅田分室）活動内容 1 手作りおやつ：週2回程度（職員が作る） 2 子ども自身で作る手作りおやつ：月2回 3 買物体験、誕生会：月1回程度 4 その他の定例活動：月1回以上 手芸タイム、工作タイム、折り紙タイム、レクタイム、学年の時間（学年別）など 5 随時実施：野外館庭遊び（天気による） 入会式 4月 公園おでかけ、昼食会、保護者会 5月 学童交流プログラム（3学童合同）6月 保護者会、昼食会（父母会共同）7月 昼食会（計3回）、夏期合同保育（3学童） 昼食会 おでかけ2回 10月 3学童親子交流会、昼食会2回 11月 合同クリスマス会、保護者会 12月 [年末特別保育 12月29日(火)～30日(水)] ・29日:9名、30日:8名 2日間合計17名 冬期合同保育(3学童) 1月 保護者会、お別れ遠足(上野動物園) 3月 ・夏季学童キャンプは、インフルエンザのため中止（児童館全体も閉館） 	<ol style="list-style-type: none"> 主な行事：〔4月〕1年生歓迎会 〔5月〕子どもの日Spl、江戸風鈴作り 〔6月〕田植え体験、わが街探検、おでかけ柏の葉公園〔7月〕夏祭り、高学年サマーキャンプ（両神山麓キャンプ場）〔8月〕低学年サマーキャンプ（両神山麓キャンプ場）、体験学習キャンプ（あさひ福祉作業所）、戦争と平和を考える映画会、合同フレンドリークラブ、夕涼み会、こわいお話し出てこい〔10月〕都民の日Spl、すみだまつり、こどもまつり、筑波山ハイキング、日和田山ハイキング、代々木公園交流フェスタ、乳幼児プレイデイ〔11月〕、稲刈体験、子ども服リサイクル、区ドッジボール大会〔12月〕持ちつき、クリスマス会 〔1月〕新春映画会〔2月〕交流ドッジフェスタ、雪国体験ウィンターキャンプ、冬祭り他 その他：自由遊び、各種スポーツ活動、各種教室（手芸、工作ほか）、ビデオシアター・映画会、絵本の部屋、お話し出てこい、各種検定（けんだま、縄跳び、一輪車）、各種スポーツ大会（主にドッジボールとサッカー）、レクタイム他 	<ol style="list-style-type: none"> 自主的な時を過ごせる場、居場所提供をした。また図書室での読書活動を推進、子どもたちに働きかけてきた。主にマンガの人気の高かった。残念ながら児童書系統は、ほとんど読まれていない。 ・中高生向けマンガ常備の要望もあったが、職員間で相談の結果、本年度は（内容、予算の点で）見送ることになった。 各種スポーツ等の場所として、利用された。一部の中高生には卓球の人気の高かった。 音楽活動の場の提供：音楽室における練習、コンサート（ライブ）開催、グループ形成の促進、音楽室ミーティング（利用者会議）月1回開催。 ライブコンサートは、7月、12月、3月の年3回、開催した。特に3月は高校3年生が、高校生最後ということで、多いに盛り上がっていた。 思春期における各種の悩みの相談を受けるように努めた。これは随時、各職員が担った。主に、学業のこと、男女関係のこと、アルバイトの事が多かった。 	<ol style="list-style-type: none"> 自然体験事業 田植え／稲刈り体験（栃木県足利市）、サマーキャンプ「両神山麓キャンプ場」（埼玉県小鹿野町）（低高学年各1計2回）〔7・8月〕、筑波山、日和田山〔10月〕、稲刈体験〔11月〕、雪国体験ウィンターキャンプ（会津）〔2月〕、スケート〔3月〕 ・「田植え～稲刈り～もちつき」の流れで、自然体験と食育をセットとしている。 全体事業 こどもの日スペシャル（5月） 児童館フェスタ（上野公園、5月） 夏祭り（7月） 考えよう「戦争と平和」（8月） 都民の日スペシャル（10月） すみだまつり「こどもまつり」（10月） 墨田区母親卓球大会（10月） もちつき（11月） クリスマス会（12月） 冬祭り（2月） 墨田区母親コース交流会（3月） 																																																																																							
登録者・来館者	（登録数） <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>70</td> <td>56</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>36</td> <td>45</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>35</td> <td>29</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>4,5歳児クラス</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>154</td> <td>159</td> <td>313</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	70	56	126	1歳児クラス	36	45	81	2歳児クラス	35	29	64	3歳児クラス	9	15	24	4,5歳児クラス	4	14	18	計	154	159	313	（在籍児童数） □退所・途中入所含む総数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>50</td> <td>47</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>127</td> <td>129</td> <td>256</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	50	47	97	2年生	50	51	101	3年生	25	30	55	4年生	2	0	2	5年生	0	1	1	計	127	129	256	（2009年度来館者数） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>6427</td> <td>5992</td> <td>12419</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>20471</td> <td>17169</td> <td>37640</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>2448</td> <td>881</td> <td>3329</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>2386</td> <td>13237</td> <td>15623</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31732</td> <td>37279</td> <td>69011</td> </tr> <tr> <td>※開館日数</td> <td>339</td> <td>日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※1日平均</td> <td>204</td> <td>人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	乳幼児	6427	5992	12419	小学生	20471	17169	37640	中・高校生	2448	881	3329	一般	2386	13237	15623	計	31732	37279	69011	※開館日数	339	日		※1日平均	204	人		（その他の事業、特記事項） <ol style="list-style-type: none"> 4月1日より、隅田小学校移転に伴ない、隅田分室は新校舎へ移転（引越し）した。 補修工事等：1階乳幼児用トイレ整備、シャワー設置、乳幼児室入口段差解消工事、乳幼児室床張替え工事、本館学童室湯沸かし器交換、本館学童室畳交換。 新設工事：本館2階に、第2学童室新設置工事。年度末に完成、次年度より使用。 補修工事 建物老朽化に伴ない、補修費用時に適時、実施した。トイレ（バルブ、水漏れ、他）、電灯不点灯、電線配線劣化、エアコンOH、ドアノブ、ドア鍵、玄関階段縁等。
クラス名	男	女	計																																																																																									
0歳児クラス	70	56	126																																																																																									
1歳児クラス	36	45	81																																																																																									
2歳児クラス	35	29	64																																																																																									
3歳児クラス	9	15	24																																																																																									
4,5歳児クラス	4	14	18																																																																																									
計	154	159	313																																																																																									
	男	女	計																																																																																									
1年生	50	47	97																																																																																									
2年生	50	51	101																																																																																									
3年生	25	30	55																																																																																									
4年生	2	0	2																																																																																									
5年生	0	1	1																																																																																									
計	127	129	256																																																																																									
	男	女	計																																																																																									
乳幼児	6427	5992	12419																																																																																									
小学生	20471	17169	37640																																																																																									
中・高校生	2448	881	3329																																																																																									
一般	2386	13237	15623																																																																																									
計	31732	37279	69011																																																																																									
※開館日数	339	日																																																																																										
※1日平均	204	人																																																																																										

2009（平成 21）年度 雲柱社 児童館ブロック 文花児童館 事業報告

記入者 山口 修

指定管理

文花

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	<p>全般的にインフルエンザによる一時閉館の影響が大きく、7月まで順調に伸びていた来館者数がそれを境に減少してしまった。</p> <p>クラス活動も7月までは増加傾向であった。</p> <p>第四吾妻小での運動会も定着してきた。</p> <p>一時預かりは、あまり利用が多くなかった。</p>	<p>本館は定員の60名を大幅に越えて受け入れた。（10年度は定員が元の80名に戻り、常勤職員も全体で11名に戻っている）</p> <p>事務や受け入れの流れが整備された。反面、昨年度までのメンバー間のつながりが薄れ、課題を残した。</p> <p>分室は、途中職員の交代があったがその後は充実した育成ができた。</p> <p>本館と分室で、関係作りのプロセスに大きな差が出た。児童数の違いもあるが、工夫により克服しなければならない。</p>	<p>7月までとそれ以後では、インフルエンザの影響で来館者数に大きな隔たりがあった。</p> <p>ショートステイ、体力増進活動や学習会をはじめとする生活支援の分野が充実し、それらを通して家庭とのつながりが深まり、結果として地域からの信頼が増したと感じている。運営委員会においてもこの点について評価をいただくことができた。</p> <p>文花児童館の地域支援が少しずつ浸透してきた。これからもこの方針を進めていきたい。</p>	<p>「居場所」を見いだせない中学生（特に受験をひかえた3年生）たちが多く来館した。しかし、つながりの薄い仲間たちとなんとなしに時間をつぶす様子がほとんどであった。学習会もやや低迷し、中高生活動の難しい局面を打開できなかった。</p> <p>しかし、小学生時代からのつながりのある中学生が今後多くなり、学習会をはじめとする生活支援の効果が今後は見込める。</p> <p>あと3～5年の積み重ねで地域に不可欠の事業となる見通しができた。</p>	<p>ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クリーン作戦（公園、周辺の清掃）各定例活動にて各3回実施 ・ 共同募金（街頭募金）各定例活動にて実施 <p>自然体験事業</p> <p>定例活動ハイキング 2回 計 28名</p> <p>キャンプ 4回 計 112名</p> <p>ディキャンプ 3回 計 54名</p> <p>オーバーナイトハイク 中止</p>																																																																															
活動・行事報告	<p>乳幼児クラス、ちびっこ 下記表参照</p> <p>子育て講座 3講座 3回実施 計 65組</p> <p>子ども服リサイクル 2回実施 計 69組</p> <p>乳幼児運動会 35組</p> <p>劇団公演 26組</p> <p>クリスマス会（乳児） 52組</p> <p>クリスマス会（幼児） 20組</p> <p>乳児ミニまつり 44組</p>	<p>分室親子ハイキング 高尾山</p> <p>分室クリスマス会</p> <p>本館クリスマス会</p> <p>本館分室合同遠足</p> <p>分室お別れ遠足 おもちゃ博物館</p> <p>本館お別れ遠足 しながわ水族館</p> <p>その他 分室遠足 2回</p> <p>分室</p> <p>1年生タイム、2年生タイム、3年生タイム</p> <p>分室・本館 工作タイム、手芸タイム</p>	<p>1年生定例活動（毎週1回）</p> <p>2年生定例活動（毎週1回）</p> <p>高学年定例活動（毎週2回）</p> <p>スポーツ大会（毎月1回）</p> <p>体力増進活動（毎週1回）</p> <p>クッキングクラブ（毎月2回）</p> <p>声を出して読もう（毎週1回）</p> <p>おはなし会（毎週1回）</p> <p>ブックトーク（毎月1回）</p> <p>手作り教室、手芸教室（毎月各1回）</p> <p>小学生学習会（毎週1回）</p> <p>他、体育室プログラム（毎週5回）</p>	<p>中高生学習会</p> <p>英語・算数・数学（毎週1回）</p> <p>中高生トーキングタイム（毎月1回）</p> <p>中高生スポーツ大会（毎月1回）</p> <p>中高生合宿 2回 計 30名</p> <p>中高生クリスマス会 18名</p>	<p>共通行事等</p> <p>こどもの日スペシャル 167名</p> <p>パークランドフェスティバル 993名</p> <p>夕涼み映画会&ポイントラリー 128名</p> <p>都民の日スペシャル 203名</p> <p>やきいも会 253名</p> <p>もちつき会 247名</p>																																																																															
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>18</td> <td>24</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>ちびっこ</td> <td>19</td> <td>15</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>135</td> <td>129</td> <td>264</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	49	46	95	1歳児クラス	41	40	81	2歳児クラス	18	24	42	3歳児クラス	8	4	12	ちびっこ	19	15	34				0	計	135	129	264	<p>（在籍児数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>60</td> <td>59</td> <td>119</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	26	24	50	2年生	23	21	44	3年生	10	13	23	4年生	1	1	2	計	60	59	119	<p>（2009年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>2176</td> <td>2392</td> <td>4568</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>16960</td> <td>16393</td> <td>33353</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>3927</td> <td>1266</td> <td>5193</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1438</td> <td>12217</td> <td>13655</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>24501</td> <td>32268</td> <td>56769</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 342日</p> <p>※1日平均 166.0人</p>		男	女	計	乳幼児	2176	2392	4568	小学生	16960	16393	33353	中・高校生	3927	1266	5193	一般	1438	12217	13655	計	24501	32268	56769	<p>（その他の事業、特記事項）</p> <p>新一年生歓迎会 70名</p> <p>小学生合宿 2回 計 155名</p> <p>墨田区児童館対抗ドッジボール大会参加</p> <p>児童館ブロック 体験学習キャンプ参加、交流フェスタ参加、ドッジフェスタ参加</p> <p>小学生クリスマス会 155名</p> <p>図書キャンペーン スタンプラリー 2回実施</p> <p>インフルエンザによって中止となった事業 2～6年生合宿、3～6年生サマーキャンプ</p> <p>オーバーナイトハイク（合同行事）</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	49	46	95																																																																																	
1歳児クラス	41	40	81																																																																																	
2歳児クラス	18	24	42																																																																																	
3歳児クラス	8	4	12																																																																																	
ちびっこ	19	15	34																																																																																	
			0																																																																																	
計	135	129	264																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	26	24	50																																																																																	
2年生	23	21	44																																																																																	
3年生	10	13	23																																																																																	
4年生	1	1	2																																																																																	
計	60	59	119																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	2176	2392	4568																																																																																	
小学生	16960	16393	33353																																																																																	
中・高校生	3927	1266	5193																																																																																	
一般	1438	12217	13655																																																																																	
計	24501	32268	56769																																																																																	

社会福祉法人雲柱社 外手児童館 2009(平成 21) 年度事業報告

記入者 森 裕樹

指定管理

外手

	子育て支援活動	学童クラブ (本館・分室・業平分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																			
事業の総括	<p>幼児に対し、調乳ポットと電子レンジを事務室に設置し、いつでもだれでも利用できるようにした(事務室)。またポスター等で近隣の公園を利用する保護者にも伝えていった。また出前保育は定着し、地域の居場所となってきた。お母さんリフレッシュもクラスを超えての交流が徐々に出来つつあった。今年度はインフルエンザのダメージが大きく、予防の為、活動を休む親子が多く見られた。この地域は0歳児の利用が多く見られる為、長いスパンで住みやすい環境作りに児童館が貢献できるようにしていきたい。</p>	<p>2009年度は、おやつや玩具等への対応を3学童共通で行う事に重点を置き、特におやつに関しては食育の観点から献立表を1週間ごとに連絡帳に掲示し、腹もちする物、安全な物、自然の物など合計が最低4種類以上とし、子どもたちにとって楽しいおやつを心がけた。また、保護者の理解も得るように努めた。また手づくりおやつ等のメニューも増やし、調理の楽しさを体験することにした。その為の調理器具も揃えた。各クラブにて学年ごとのプログラムを展開し、新たな発見や興味を増やした。</p>	<p>今年度はインフルエンザの流行で活動を中止することが多々あり、事業を展開するのが中々困難な年でもあった。しかし段々と例年通りのプログラムが展開でき、さらに今年度から始めた学習支援活動(学習会)は予想以上の登録と参加があった。自然体験事業でもある田植え・稲刈り体験も多くの児童が参加し、ここで収穫したもち米を使用してもちつきを行った。年間を通し多忙になった小学生の来館については、遊びと学びを両立したプログラムが今後來館数を伸ばすポイントとなると予想する。夏のイベントにてフィンガーペインティングを行い、体育館の壁に絵を描いたりと普段絶対に行えない事が児童の最大の魅力になって当日来館した児童は全員参加した。</p>	<p>昨年度からスポーツ大会を館外で行うようになり、利用者がだいぶ定着してきた。また職員も大会日は全員参加の形を取り、盛り上げた。また中高生ルームでの障がい児との関わり、今年度はクリスマス会に障がい児も加わった企画で参加。障がい児の保護者から感謝のことばを頂いた。また児童館活動にも積極的に参加し貢献してくれた。年々青年部に進級していく為、継続の可能性が難しくなっている。</p>	<p>夏祭りでは、小学生の組織メンバーを中心に、児童館に関わる団体や学童クラブの保護者等の協力によって運営する事が出来た。都民の日スペシャルでは、小学生に募集をかけ、駅前で赤い羽根の街頭募金を行った(9名)。昨年同様クリスマス会は小学校の体育館を借りて合同で行った。お母さんコーラスや各組織の出し物、職員もバンドで参加したりと幅広い年齢層が楽しめる会となった。</p>																																																																																			
活動・行事報告	<p>0歳児クラス合計32回延べ728組参加 1歳児クラス合計29回延べ1072組参加 2歳児クラス合計33回延べ1126組参加 3歳児クラス合計16回延べ160組参加 4歳児クラス合計16回延べ102組参加 5歳児クラス合計16回延べ209組参加 (工作・運動あそび・おでかけ・クッキング等) 出前保育合計7回延べ322組参加(映画会・西瓜割り・ミニえんにち・工作等)お母さん向け合計9回74名参加 (スポーツ大会・園芸・手芸・お菓子作り・昼食会・映画会等)プレイルーム38回536名、すくすく計測12回103組、マタニティ10回22人、一時保育のべ591人</p>	<p>本館(定員60)合計70 1年男21女10 2年男12女8 3年男8女8 4年男1 5年女1 6年女1 分室(定員40)合計58 1年男8女10 2年男11女13 3年男5女11 業平(定員40)合計39 1年男18女6 2年男5女3 3年男3女3 4年男1 誕生日会・買い物おやつ・手作りおやつ・おでかけ(プラネタリウム・防災館・アスレチック・どじょうすくい・夏祭り・クリスマス等)</p>	<p>組織活動～子どもたちを学年層でグループ化して活動～ 遊ぶ・学ぶ・ボランティアを中心に… こども会議(月1回)高学年のみ・スポーツ・工作・お菓子作り・クッキング・映画会・考えよう(低学年)・公園清掃・夏祭り、クリスマス・ミニ緑日の装飾運営(3年以上)・おでかけ等 低学年1年男13女17、2年男2女9、3年男5女10 高学年4年男2女15、5年男8女13、6年男1女2 一般参加 スポーツ大会(13回550人)、手芸(11回94人)、手作り(11回126人)、映画会(104回2456人)、読み聞かせの会(49回490人)等 学習会43回962名・七福神巡り8名</p>	<p>中学生定例会12回30名・高校生定例会12回43名・中学生学習会37回57名・軟式野球大会(台東区リバーサイド3回44名)・サッカー大会(旧曳舟中1回18名)・映画会・クッキング12回80名・館内スポーツ大会8回83名・デイキャンプ1回12名・クリスマス会35名・学童合同デイキャンプボランティア7名・小学1・2年生デイキャンプ引率1名・ミニ四駆大会9名</p>	<p>幼児おでかけ・低学年おでかけ32名・高学年キャンプ10名・こどもの日スペシャル55名・都民の日スペシャル197名・夏祭り836名・クリスマス177名・芋煮会128名・グリーンフェスティバル196名・公園、館内清掃・赤い羽根街頭募金9名・ドッジフェスタ32名・もちつき247名・幼児運動会57名・小学生合同ハイク19名・交流フェスタ25名・合同ドッジ52名・田植え体験19名・高学年合宿18名・1・2年生合宿50名 小学生キャンプ10名・体験学習キャンプ1名・稲刈り体験9名・幼児ハロウィンパーティー69名・交流フェスタ12名・お母さんコーラスとのお茶会12回84名</p>																																																																																			
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <tr><td>0歳児クラス</td><td>60</td><td>64</td><td>124</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>41</td><td>55</td><td>96</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>45</td><td>49</td><td>94</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td>21</td><td>24</td><td>45</td></tr> <tr><td>4歳児クラス</td><td>12</td><td>5</td><td>17</td></tr> <tr><td>5歳児クラス</td><td>19</td><td>18</td><td>37</td></tr> <tr><td>計</td><td>198</td><td>215</td><td>413</td></tr> </table>	0歳児クラス	60	64	124	1歳児クラス	41	55	96	2歳児クラス	45	49	94	3歳児クラス	21	24	45	4歳児クラス	12	5	17	5歳児クラス	19	18	37	計	198	215	413	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>1年生</td><td>34</td><td>29</td><td>63</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>38</td><td>22</td><td>60</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>19</td><td>19</td><td>38</td></tr> <tr><td>4年生</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>93</td><td>72</td><td>165</td></tr> </table>		男	女	計	1年生	34	29	63	2年生	38	22	60	3年生	19	19	38	4年生	0	1	1	5年生	2	0	2	6年生	0	1	1	計	93	72	165	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>乳幼児</td><td>2987</td><td>3596</td><td>6583</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>16696</td><td>12097</td><td>28793</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td>2854</td><td>684</td><td>3538</td></tr> <tr><td>一般</td><td>1841</td><td>9266</td><td>11107</td></tr> <tr><td>計</td><td>24378</td><td>25643</td><td>50021</td></tr> </table> <p>※開館日数 347日 ※1日平均 144.2人</p>		男	女	計	乳幼児	2987	3596	6583	小学生	16696	12097	28793	中・高校生	2854	684	3538	一般	1841	9266	11107	計	24378	25643	50021	<p>(その他の事業、特記事項) 館内改装工事(だれでもトイレ) フィンガーペインティング 37名 出前保育(光の園保育学校との共催)・お母さん向けリフレッシュ企画(乳幼児保護者)家庭センター耐震工事の為、分室学童クラブが10月から3月まで二葉小学校に移動。 外手小連合子供会祭りに参加 学童クラブ児童についてのケース会議</p>
0歳児クラス	60	64	124																																																																																					
1歳児クラス	41	55	96																																																																																					
2歳児クラス	45	49	94																																																																																					
3歳児クラス	21	24	45																																																																																					
4歳児クラス	12	5	17																																																																																					
5歳児クラス	19	18	37																																																																																					
計	198	215	413																																																																																					
	男	女	計																																																																																					
1年生	34	29	63																																																																																					
2年生	38	22	60																																																																																					
3年生	19	19	38																																																																																					
4年生	0	1	1																																																																																					
5年生	2	0	2																																																																																					
6年生	0	1	1																																																																																					
計	93	72	165																																																																																					
	男	女	計																																																																																					
乳幼児	2987	3596	6583																																																																																					
小学生	16696	12097	28793																																																																																					
中・高校生	2854	684	3538																																																																																					
一般	1841	9266	11107																																																																																					
計	24378	25643	50021																																																																																					

2009（平成21）年度 雲柱社 児童館ブロック 平野児童館 事業報告

記入者 松原 万紀子

指定管理

平野

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																					
事業の総括	<p>・0歳児から3歳児までの年齢別活動は、今年度も多くの親子の参加があった。ただ、今年度は新型インフルエンザが流行し、その時期は感染を警戒する保護者が多く来館人数も減少傾向であった。</p> <p>・こそだてひろばのクラス活動は地域の方に定着していると感じる一方で、内容の固定化による目新しさの減少も課題となっている。乳幼児親子が安心して子育てを楽しめる仲間作りをサポートしたり、親子が触れ合う時間をより充実したものとなるよう支援する活動として、利用者の声を聞きながら新たな活動作りに努めたい。</p> <p>・乳幼児・保護者を対象とした事業では、年齢別活動（こそだてひろば）の利用が中心であったが、乳幼児向けのイベントや昨年度までにこそだてひろばを卒業し、幼稚園や保育園に通い始めた親子の継続的な児童館の利用も多く見られた。</p> <p>・一方で幼稚園児連れ親子にとっては、乳幼児と小学生との間で遊び場所の区分けの難しさがあり、限られたスペースの中での共有が引き続きの課題となっている。今後も利用者の声を聞きながら環境整備を工夫して、利用者の理解を得られるように努めたい。</p> <p>・今年度より、公園を使用した屋外での自由参加形式のこそだてひろば「出前保育」を実施する。これまで館内で行われていたこそだてひろば事業から、公園などを利用している新たな地域利用者の交流を深めることができ、参加者数は増加傾向にある。</p> <p>・同じく今年度の新規事業として始めた0歳児クラス未満の子やマタニティママの居場所としての「ひよこルーム」は、回数を重ねるごとに参加者が増加し、母親同士のネットワークによって活動への参加が広がっているようである。</p>	<p>・2009年度から2クラス編成という形で育成がスタートし、少人数を担当を決めてみることで、普段のこどもたちの様子をより細かく見ていくことができた。</p> <p>・通常育成と延長育成を5時の段階で一度分かれて確認をとる形式にしたことで、集合時のまとまりができ、こどもたちも迅速に動けるようになった。</p> <p>・人数が多い中で、横割りの関係を大切にしていきたいという考えから、学年別での活動も取り入れ、クッキングや集団ゲーム等、普段はできない特別な行事を行う中で、あまり関わらない友達とも協力したり助け合ったりする姿が見られ、保護者からも大変良い評価をいただいた。</p> <p>・学童の行事に加え、併設である児童館の行事にも自由に参加ができ、こどももより多くのことに挑戦しようとする意識が高まった。</p>	<p>・一般来館児童数は近隣小学校の下校時刻や、児童館組織活動のある日とない日とで、来館者数に変動がある。特に高学年女子は日常の来館は少ないが、イベントがある日は来館するなど目的によって児童館を利用しているようである。組織活動、イベントが多い中、日常においてゆっくり過ごせる時間や場所の確保もしていきたい。</p> <p>・スポーツを楽しむこどもたちの目的来館が多い一方で、将棋やこまなど伝統的な遊びを楽しむ子の姿も見られる。地域のボランティアの参加を呼びかけながら、児童館が遊びを通じた地域交流の場となるきっかけ作りも提供していきたい。</p> <p>・活動組織（スマイルクラブ）は、今年度から一般来館児童の入会に限定する。スポーツ、クッキング、工作などを同じメンバーで継続して行うことで協調性や責任感を育むことができた。他にもクリスマス会や冬まつりといった行事へも自主的な働きが見られた。</p> <p>・宿泊体験は新型インフルエンザ流行の影響により一部の行事が中止となったが、サマーキャンプをはじめ、屋外での調理体験などを通して自立した生活体験を行なうことができた。</p>	<p>・昨年度に引き続き、18～19時を中学生のみが利用できる時間として設定した。</p> <p>・小学生の時から頻りに来館していた利用者が中学校で出来た新しい友達を連れて来館するため中学生の利用が増加したものの、しばらくすると来館する中学生の顔ぶれが固定化した。今後は新しい利用者を取り込むために、PR方法をもう一度検討する必要がある。</p> <p>・中学生の遊びに職員が参加することで中学生との会話を大切にし、中学生が持つストレスや不安を発散したり、相談しやすい雰囲気を作っている。</p> <p>・配慮の必要な中学生については中学校の先生方と連絡を取り合い、対応や関わり方を考えたり、児童館の行事に副校長先生を招いて様子を見ていただくなど学校と連携を取っている。</p> <p>・今後は小学校高学年が中学生になってからの活動が分かるように、中学生の居場所としての児童館をアピールし中学生の育成につなげていきたい。</p>	<p>・指定管理館運営として、4年目を迎え、日々の活動・イベントを通して、利用者・地域の方々と触れ合いながら良い関係がもて、イベントの際にもボランティアとして活動に参加していただけた。 (民生委員・児童委員・乳幼児活動参加保護者・父母会)</p> <p>・小学校・中学校の先生方と生徒を通じて、生徒の事を共通理解しながらの連携をとり、成長の手助けとして協力しあえた。 また、近隣の中学校より学校保健委員会開催時には、案内をいただき、参加することで、中学生の育ち・健康についてなどを知る。 校医の先生、PTAの方とも知り合い後に協力者となって頂けた。</p> <p>・自然体験では、五感を使い日常経験出来ないことを自然の中で体験したマスのつかみどりをして、手で焼き炭をおこして焼き食したり、仲間と協力しながら様々な体験が出来た。</p>																																																																																					
活動・行事報告	<p>【年間行事報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児運動会 203名 ・水遊び 40組（2回） ・こども服リサイクル 111名（2回） ・夏休み特別プログラム 98組（3回） ・乳幼児クリスマス会 135組 ・出前保育 370名（5回） ・ベビーオイルマッサージ70組（8回） ・0歳児未満児・マタニティマールーム <p>【子育て講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講演会 (0歳児)保育士による乳幼児期の事故・誤飲について 24名 (0歳児)保育士による離乳食の進め方・調理方法・試食 17名 ・心の東京塾（ママトーク）参加型子育て講座 34名 	<p>・4月入会式・6月おすもう大会・7月合宿、観劇会・8月水あそび、すいか割り大会・塗り絵コンテスト・9月引渡し訓練・10月遠足(科学技術館)、ハロウィンパーティ、クッキング(ホットケーキ)・11月人形劇観賞・12月クリスマス会、大掃除・1月お正月遊び・2月節分、クッキング(スパゲッティナポリタン)・3月お別れ会、お別れ遠足(木場公園)、深川北部ドッジボール大会</p> <p>定期活動：月1回 学年別活動、避難訓練、制作、おたのしみおやつ、誕生日会、クッキングコンテスト</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会：5月、7月、3月 ・入会説明会：3月 ・個人面談：6月(1年生)11月(2、3年生) 	<p>【週間プログラム】(年間参加人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイム(ドッジ、サッカー、ユニホック、キックベース、タスケ) 4932名 ・ほかほかタイム(ままごと・レゴ・フリスビー他) 560名 ・スポーツ大会(月1回 259名)・工作タイム(月1回 453名) ・手芸タイム(月5回 257名)・わなげ大会(月1回 232名) ・一輪車検定(月1～2回 156名) ・レッツダンス(月1回 152名) ・アコロンのお話会(月1回 210名)・映画会(年3回 160名) ・ビデオシアター(月1回 計132名) ・みやこどりの劇公演(年2回 139名) <p>【季節行事】(実施日、参加人数 ※全世代事業を除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生歓迎会(年1回 60名) ・合同スマイルクラブ(年3回 59名) ・こどもクリスマス会(年1回 171名) ・深川北部ドッジボール大会(年1回 15名) ・春のお茶会(年1回 35名) <p>【組織活動】(登録人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生スマイルクラブ(864名) ・2・3年生スマイルクラブ(560名) ・高学年スマイルクラブ(454名) 	<p>【年間行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダーツ大会(6/26 18名) ・プレスレットづくり週間(9/16 18名) ・クッキング(10/24 2名) ・タスケ&リラックスタイム(11/25 14名) ・中学生クリスマスクッキング(12/9 11名) ・木工工作(1/20 8名) ・フリスビー大会(2/17 2名) ・お楽しみ会(3/27 6名) 	<p>【全世代交流事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日フェスタ(5/5 101名) ・相撲大会(6/17 162名) ・ひらのまつり(7/11 686名) ・ほのぼの秋まつり(10/31 385名) ・こども冬まつり(2/13 309名) ・国際交流ひろば(6/20・11/21・2/20 91名) <p>【自然体験・宿泊体験事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年チームワーククッキング(買い物・調理体験 11/7 7名) ・2、3年生サマーキャンプ(自然人村 7/23-25 32名) ・4～6年生サマーキャンプ(自然人村 8/6-8 18名)、 ・2、3年生芋掘り遠足(大町・小川農園 10/10 25名) <p>【ボランティア活動】</p> <p>使用済み切手収集、エコキャップ収集</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連絡会(6/24 17名) ・深川春のこどもまつり(森下文化センター 3/13) 																																																																																					
登録者・来館者	<p>子育てひろば(年齢別活動)登録・実績数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> <th>年間出席</th> <th>年間回数</th> <th>1回平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児(低月齢・高月齢合計)</td> <td>91</td> <td>92</td> <td>183</td> <td>1331</td> <td>30</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>82</td> <td>90</td> <td>172</td> <td>1174</td> <td>29</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>69</td> <td>63</td> <td>132</td> <td>983</td> <td>30</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>14</td> <td>25</td> <td>39</td> <td>562</td> <td>31</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>256</td> <td>270</td> <td>526</td> <td>4050</td> <td>120</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>子育て相談件数：122件</p>	クラス名	男	女	計	年間出席	年間回数	1回平均	0歳児(低月齢・高月齢合計)	91	92	183	1331	30	44	1歳児	82	90	172	1174	29	40	2歳児	69	63	132	983	30	32	3歳児	14	25	39	562	31	18	計	256	270	526	4050	120	33	<p>(学童クラブ在籍時数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	22	22	44	2年生	13	10	23	3年生	11	16	27	計	46	48	94	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>3789</td> <td>4347</td> <td>8136</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>15308</td> <td>12384</td> <td>27692</td> </tr> <tr> <td>中・高</td> <td>2668</td> <td>529</td> <td>3197</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>1056</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21765</td> <td>17260</td> <td>39025</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 318 ※1日平均 123</p>		男	女	計	乳幼児	3789	4347	8136	小学生	15308	12384	27692	中・高	2668	529	3197	一般			1056	計	21765	17260	39025	<p>(2009年度 新規事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然と遊ぶ(講師による自然体験プログラム) (2回) ○ 1年生館内合宿
クラス名	男	女	計	年間出席	年間回数	1回平均																																																																																				
0歳児(低月齢・高月齢合計)	91	92	183	1331	30	44																																																																																				
1歳児	82	90	172	1174	29	40																																																																																				
2歳児	69	63	132	983	30	32																																																																																				
3歳児	14	25	39	562	31	18																																																																																				
計	256	270	526	4050	120	33																																																																																				
	男	女	計																																																																																							
1年生	22	22	44																																																																																							
2年生	13	10	23																																																																																							
3年生	11	16	27																																																																																							
計	46	48	94																																																																																							
	男	女	計																																																																																							
乳幼児	3789	4347	8136																																																																																							
小学生	15308	12384	27692																																																																																							
中・高	2668	529	3197																																																																																							
一般			1056																																																																																							
計	21765	17260	39025																																																																																							

	子育て支援活動	学童クラブ（本館）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	雲柱社事業理念と事業目標を活かしながら各担当が努力して活動を展開し、子育て中のお母さんと乳幼児の居場所となったり、乳幼児の活動を通して仲間づくりや交流の場となっていくことができた。こうした場がきっかけとなり、子育ての悩みや不安等も解決につながっていった。また、発達段階に応じた活動を丁寧に行っていくことで、お母さんや子どもたちとの信頼関係を作ることができた。指定管理者受託3年目は、昨年の実績を踏まえて期間や回数も多く実施できたので、安定したクラス活動ができたが、プログラムの偏りやインフルエンザ等のための休みと重なったことで繋がりを持たず、後半は参加者が減少した。近隣にある亀戸第二児童館の改築が終わり新築になった。今後、乳幼児プログラムへの期待が高まる中で、プログラムの一層の充実を図りたい。	水神小学校での「げんきっず」（放課後子ども教室）の影響により、子どもたちがげんきっずに変更したこともあり、前年度に比べて子どもの人数は減少し、今年度は74名からの受け入れになった。それに伴い落ち着いた雰囲気の中で学童クラブを運営することができた。そうした中から手芸サークル、実験教室等の学童クラブ独自のグループ活動を展開することで、交流を深めたり意欲を高めることができた。年度途中から若干人数が増加したが、最終的には78名の登録で、出席率も高く利用者が多い分学童クラブの必要性が感じられた。児童館併設学童クラブということで、児童館との協力体制の中で活動を進めるに当たっては、時に思うようにいかない面も見られたが、事前の打ち合わせや協力し合うことで改善できたので、次年度はさらに話し合い等をもって学童クラブの運営をスムーズにいくようにしたい。今年度も障がいを持った子どもを受け入れたが自立した面やコミュニケーションがとれるようになり、成長の変化に感動させられた。共に過ごすことで交流を深めることができとても大切なことのように思う。	担当スタッフが常に子どもたちと共に楽しいプログラムを作りたいという思いから、日常の設定スポーツ等工夫し、子どもたちの興味・関心を引き出す努力をした。そのため、日々の来館者増加につながり、かめっ子という学年別グループ活動にもたくさん子どもたちが参加して、交流を深めたり様々な体験をすることができた。3年目の今年は子どもたちとの信頼関係がある程度できてきたので、かめっ子5・6年生では子どもたちの意見を十分に取り入れて活動をし、子どもたちを一つにまとめる機会が持てた。1・2年生のグループ活動では子どもたちの興味を持てるプログラム内容で楽しい活動が作られ参加した子どもたちとの一体感を形成した。3・4年生の活動では1人ひとりの個性を引き出すように配慮したことで、お互いがグループの仲間とまとまって活動する力を育むことができた。プログラムに変化を持たせるため、おやつ作りやわなげ大会などを導入したが、今後も興味を引くプログラムを作っていく。学校の授業数が増加したことで下校が遅くなったが、中でも子どもたちは来館し、自分の居場所として児童館活動を楽しむことができ、改めて児童館の存在意義を確認することができた。	部活等の学校行事により平日来館するのが難しく、サッカー部や野球部、バスケットボール部の仲間などグループであそびに来ることが多い。来館した子どもたちに声をかけて、今年度は中高生イベントの実施に力を入れていく。また、担当を男性スタッフ・女性スタッフの2人体制とし、子どもたちが声をかけやすしたり、こちらからの声かけも積極的にいった。担当スタッフの熱意がとどき、合宿やバスケットボール大会ではともに楽しい時間を作ることができた。特に合宿は中・高校生たちからの要望で生まれた企画であり、今後も多くの声を形にしていきたい。日々の中生タイムでのかわりや出会いを大切に、土曜日に卓球やバスケットボールを楽しむに来館している中・高生生の気持ちを受け止め、彼らの居場所づくりをしていきたい。	今年度も多少雨に降られたが、子どもたちは自然と触れ合ったり貴重な体験をすることができたようだ。5・6年生おでかけでは雨だったが、はまぎんこども宇宙科学館へ出かけて、宇宙の不思議を発見し楽しむことができた。3・4年生おでかけでは多摩動物公園へ行き、動物とのふれあい、餌あげなど普段ではできない体験をすることができた。低学年キャンプでは御嶽山中の民宿に宿泊しハイキングやクラフトなどを思い切り楽しむことができた。高学年キャンプは新型インフルエンザの流行により中止となったが、夏休み中に江東区内の公園で水遊びをしたり、やきそば作り等のクッキングをグループごとに楽しみ夏の思い出を作った。後期は天気に恵まれ、1・2年生おでかけは、千葉市こどもの国でサイクリングや釣りをして楽しい思い出作りができた。高学年最後のおでかけはサイクリング&アイススケートを行い、江戸川べりにあるスケート場までのサイクリングやアイススケートなど、高学年ならではの活動を楽しむことができた。																																																																															
活動・行事報告	<p><年齢別グループ活動></p> <p>0歳児高月齢 ばんだクラス 毎週金曜日 10:00～10:45</p> <p>0歳児低月齢 赤ちゃんばんだ 毎週金曜日 11:00～11:45</p> <p>1歳児 うさぎクラス 毎週火曜日 10:30～11:30</p> <p>2歳児 こあらクラス 毎週木曜日 10:30～11:30</p> <p>3歳児 りすクラス 毎週月曜日 10:30～11:30</p> <p>※活動の終了後は各クラスランチタイムへ移行してゆっくり過ごせるようにした。</p> <p>各クラス「運動遊び・ふれあい遊び・コーナー遊び・リズム遊び・お楽しみ会・誕生会・手遊び・体操などを通して発達を促す取り組みをしているが好評であった。</p> <p><行事>子育て講座(育児についての本音トーク・本と触れ合おう・お母さんの子育ておしゃべりひろば)・夏まつり・夏休み特別幼児活動・夏休み特別水遊び・ハロウィンパーティー・乳幼児うんどうかい・クリスマス会・子ども服リサイクル・ふれあいまつり・親子の劇団公演</p>	<p>日常活動では、子どもたちが安心して過ごせるように配慮した。遊びが充足するように配慮すると共に、生活習慣の形成を促した。延長保育について人数も多く、個々の子どもへの対応が難しい面もあるが、異年齢交流の場にした。また、遊びを充実させながら時間を過ごせるようにした。また、一人帰りの子どもを送り出す等の配慮をした。<おやつについて>子どもたちが楽しみながら食べられるように買い物おやつやお店屋さんなど工夫して取り組み、栄養面に配慮しつつ心と体の健康面をサポートした。<グループ活動・誕生会>縦割りグループを作っておやつ担当やレクリエーションを担当する係等、みんなで担当した。3年生が中心になって亀戸レストランを担当して夏の父母会のお弁当の日も楽しく取り組めた。<行事>入会式・入学/進級おめでとう会/観劇会/遠足/親子クリスマス会/江東区ドッジボール大会/その他、季節の遊び</p>	<p>設定スポーツ（ドッジボール・タスケ・ユニホック・サッカー）を通して地域の子どもの交流を深めたり、体力の増進を促す。また、月一回のスポーツ大会やバンパー大会など、個人やチームの努力を表彰して興味や関心を高めている。子どもたちの経験や社会性を促すビデオシアター・手作りタイム・おはなしの会・低学年キャンプ・小学生合宿、エコキャップ・クリーン作戦等、ボランティア活動にも取り組む。学年別グループ活動「かめっ子」では「1・2年生、3・4年生、5・6年生」のグループ活動に取り組み、活動の中では「遊ぶ・学ぶ・ボランティア」等の活動に取り組んだ。<行事>こどもの日は児童館で遊ぶ・夏まつり・交流フェスタ・クリスマス会・交流ドッジフェスタ・ふれあいまつりを開催してたくさんの人々に楽しんでいただく。江東こどもまつり・亀戸地区なつまつり・児童館主催卓球大会・城東地区卓球大会に参加して交流を深めることもできた。</p>	<p>7月 中学生合宿（カレー作り、バスケット大会）</p> <p>3月 交流バスケットボール大会</p> <p>16人程度の参加。</p> <p>さらに、中学生合宿をしたいとの要望やその他意見が聞かれるため、ボランティア等のかかわりも深めながら中高生の活動へ繋げていきたい。</p>	<p>・年間を通してエコキャップのボランティアに取り組み、地域や学校、家庭の協力を得て532,256個、664人分のワクチンを集めた。エコキャップは身近にできるボランティアなので参加者が多い。この他に地域や館内の清掃、乳幼児室の遊具づくりなど、子どもたちの意見を取り上げてボランティア活動に取り組むようにしている。</p> <p>・行事を開催する際に募金活動への協力を呼びかけ、ペシワール会へ寄付をして医療活動等の支援に心がけている。</p>																																																																															
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>111</td> <td>96</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>63</td> <td>63</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>219</td> <td>207</td> <td>426</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	111	96	207	1歳児クラス	63	63	126	2歳児クラス	32	32	64	3歳児クラス	13	16	29	計	219	207	426	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>41</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	9	20	29	2年生	23	12	35	3年生	5	9	14	4年生			0	計	37	41	78	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>4798</td> <td>4522</td> <td>9320</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>18131</td> <td>13054</td> <td>31185</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2207</td> <td>1158</td> <td>3365</td> </tr> <tr> <td>高校生・一般</td> <td>800</td> <td>9475</td> <td>10275</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25936</td> <td>28209</td> <td>54145</td> </tr> <tr> <td>※開館日数</td> <td>321</td> <td>日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※1日平均</td> <td>186</td> <td>人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	乳幼児	4798	4522	9320	小学生	18131	13054	31185	中学生	2207	1158	3365	高校生・一般	800	9475	10275	計	25936	28209	54145	※開館日数	321	日		※1日平均	186	人		<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>地域連絡会を民生・児童委員の提案で、2回目は亀戸児童館・亀戸第二児童館・亀戸第三児童館の3館合同で実施し、交流を深めると共に、今後の民生・児童委員との協力体制について話し合い、地域の子どもたちを共に見守っていくことを話し合う。</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	111	96	207																																																																																	
1歳児クラス	63	63	126																																																																																	
2歳児クラス	32	32	64																																																																																	
3歳児クラス	13	16	29																																																																																	
計	219	207	426																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	9	20	29																																																																																	
2年生	23	12	35																																																																																	
3年生	5	9	14																																																																																	
4年生			0																																																																																	
計	37	41	78																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	4798	4522	9320																																																																																	
小学生	18131	13054	31185																																																																																	
中学生	2207	1158	3365																																																																																	
高校生・一般	800	9475	10275																																																																																	
計	25936	28209	54145																																																																																	
※開館日数	321	日																																																																																		
※1日平均	186	人																																																																																		

2009（平成21）年度 雲柱社 児童館ブロック 汐入ふれあい館 事業報告

記入者 伊藤美智子

指定管理

汐入

	子育て支援活動	学童クラブ（本館）	小学生活動	中・高生活動	成人対象事業																																																																																					
事業の総括	<p>* 15歳以下の人口比率が多く乳幼児活動への参加、自由来館も多い。要望の多い0、1、2歳児を各2クラスにして受け入れ、午後にも3歳児クラス、4、5歳児クラスを毎週行う。各クラス、定員を設けずに全て受け入れる。託児付き映画会、救急法等の講座、父親、祖父母参加の運動会等、子育て支援の活動を積極的に行う。新たにアクセサリ講座、手作りタイムも設ける。『子育てひろば』として毎日クラス活動以外に職員が親子と関わる場を設け育児不安の解消の手助けを行ってきた。プレイルームを毎日20時まで開放することで父親も利用しやすく、父親の育児参加に役立っている。玩具、遊具、絵本を充実させる。授乳コーナーも役立っている。近隣の公園に出かけ紙芝居、手遊び等を行い来館されない方の支援も始める。2009年度も活動を広げ充実させてきた。</p>	<p>* 汐入小学童クラブ、七峡小学童クラブ、汐入学童クラブで事業計画、予定表、お便り、おやつ等統一出来るものを整備し、計画、振り返り等で比較検討して互いにより良い活動を展開する様にした。合同遠足等で職員、子ども達の交流も大切に出来た。また、合宿、近隣の公園へのお出かけ等、個別の活動も大切にしたい。ふれあい館での合宿、観劇、クリスマス会、ドッジフェスタ等への参加は活動の幅も広がり良い経験となった。心地良い居場所作りとして環境整備にも力をいれた。町会の文化祭への作品出展、手話と歌の発表も喜ばれ、地域の方との良い交流の機会となった。随時、個人面談を行う等、保護者の思いに丁寧に寄り添ってきたが心残りな事もあった。問題への対応は全担当で考える等、次に繋がる様心掛けた。</p>	<p>* 参加し易いように創作室のプログラム活動を毎日行い、曜日で種目を分ける。1年生を中心に熱心に参加している。料理、手芸、読書、折り紙、木工等の生活経験の幅を広げる活動、合宿、キャンプ、お出かけ等、健全な遊びを提供し、自主性、社会性の育ちを支援してきた。低学年合宿、キャンプは参加者が一日で埋まる程、保護者の関心も高い。新しい活動の丸太切り、親子のスポーツタイムも好評で特に父親の参加が増え、親子のよい関わりが作れた。高学年は落ち着かない様子が見られた。子ども会議で意見を取り上げ、高学年タイムの内容を見直し、彼等にしっかり向き合い関わる事で安定して来た。他館と合同の合宿、交流ドッジフェスタへの意欲的な参加など良い機会も持てた。</p>	<p>* 毎水曜日の5時からを中高生タイムとし、土曜日の5時から高学年と合同で多目的室が使えるようにした。枠が増えたことで運動を目的に来館する子が増える。バスケットの利用が多く、他館に呼びかけ交流の3on3大会を開催した。良い活動になった。卓球、読書の他、仲間とカードゲームを楽しむことも多く、落ち着いて過ごしている。職員との関わりも雰囲気は良い。おやつ作り、スポーツ大会など予定を決められたものへの反応は良くないが当日の参加はあり、この年齢の特性に合わせた活動の方法を工夫している。期間を週や月単位の手芸等提供した。出来るだけ利用者の思いに沿った活動を行うようにしたことが多少でも来館者増に繋がったと思える。</p>	<p>* スポーツタイム、健康体操、折り紙、紋切、手芸、絵手紙、カラオケ、映画会、お出かけ、パソコン教室を実施する。健康に関心が高くスポーツ系は参加も多く喜ばれている。乗り物を使わずに行ったお出かけも評判が良かった。Tシャツへのプリントを行いパソコンの使用法も伝えられ喜ばれる。話題の書籍を購入し貸出しも行って活用の幅を広げている。雑誌はよく読まれている。3老人会の活動も熱心で支援には配慮して来た。保健所が関わっている「ころぼん体操」も参加は多く、この会の利用者に案内をすることが館の他の活動にも繋がっている。貸館利用も増え、ほぼ毎日活用されている。貸出物品を区指定の物以外でも要求に応えて利用者の利便を図っている。</p>																																																																																					
活動・行事報告	<p>クラス活動：0～5歳児 月～金曜日 子育て講座：救急法2回、離乳食、歯の話、食育、親業 保健所との育児相談：月2回 パパも遊ぼう：遠足、ハロウィン、焼き芋会、運動会、観劇3回、ペインティング、クリスマス お母さんの為の映画会：毎月1回 託児付 日常活動：プレイルーム20時まで開放 体育室に玩具を出し13時まで開放 子ども服リサイクル：隔月 無料 子育てひろば事業：毎日 相談等 ランチコーナー：毎日 自由に使って貰う。 区カウンセラーの育児相談 おひさま広場：週1回程度不定期</p>	<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 製作 読書 スポーツ 誕生会 お店屋さん：毎月1回 おやつ作り：毎月数回 お出かけ：汐入公園 水元公園 合宿：汐入ふれあい館 町会文化祭 南千住なかよし祭り参加 保護者会：年4回 個人面談：随時受ける。 (在籍数) 100名</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>男</td> <td>女</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>24</td> <td>18</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table>		男	女	計	1年生	24	18	42	2年生	22	17	39	3年生	6	12	18	4年生		1	1	<p>多目的室活動 設定スポーツ：ドッジボール月約260名 タスケ約160名 サッカー約50名等 レクタイム：毎水曜 ゲーム等 一輪車タイム 一年生タイム 縄跳び 創作室活動：絵手紙教室 木工 手芸 手作り 折り紙等 図書室活動：お話し会 月1回 素話 読み聞かせ 紙芝居 手話等 和室活動：映画会 月3回 合宿 サロン活動：輪投げ ゲーム 雑誌等 高学年クラブ活動：スポーツ キャンプ 年間行事：夏祭り ふれあい祭り クリスマス お出かけ ドッジフェスタ</p>	<p>中学生タイム 毎月約200名 多目的室 月～土曜 18～18:45 水曜日 17～18:45 バスケット 卓球 野球等 サロン 月～日曜 18～19:00 ダーツ 人生ゲーム 雑誌等 図書室 水曜 17～18:00 リトルキッチン：16名 行事 クリスマス会 14名 他館合同3on3大会：21名 バスケット大会：11名 その他スポーツ大会：毎月数名</p>	<p>スポーツタイム：火 金 毎回10数名 ころぼん体操：金 毎回約40名 健康体操：火 毎回約18名 カラオケ：金 毎回約11名 絵手紙教室：木 毎回約8名 他の活動：毎回数名 各老人会：輪投げ カラオケ 踊りを毎日プログラムを組んで行う。その他 役員会 総会（親睦会）等を行い、職員が手伝いに入ったりしている。 貸館：貸出事務 還付事務 貸出物品</p>																																																																	
	男	女	計																																																																																							
1年生	24	18	42																																																																																							
2年生	22	17	39																																																																																							
3年生	6	12	18																																																																																							
4年生		1	1																																																																																							
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <tr> <td>クラス名</td> <td>男</td> <td>女</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>166</td> <td>171</td> <td>337</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>91</td> <td>86</td> <td>177</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>79</td> <td>87</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>4,5歳児クラス</td> <td>41</td> <td>43</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>399</td> <td>415</td> <td>814</td> </tr> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	166	171	337	1歳児クラス	91	86	177	2歳児クラス	79	87	166	3歳児クラス	22	28	50	4,5歳児クラス	41	43	84	計	399	415	814	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>男</td> <td>女</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>54</td> <td>43</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>51</td> <td>29</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>30</td> <td>38</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>135</td> <td>111</td> <td>246</td> </tr> </table> <p>汐入：100 汐入小：94 七峡小：52</p>		男	女	計	1年生	54	43	97	2年生	51	29	80	3年生	30	38	68	4年生	0	1	1	計	135	111	246	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>男</td> <td>女</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>16175</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td></td> <td></td> <td>34020</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>5011</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>28359</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>83565</td> </tr> </table> <p>※開館日数 359日 ※1日平均 233人</p>		男	女	計	乳幼児			16175	小学生			34020	中・高校生			5011	一般			28359	計	0	0	83565	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>夏まつり 910名 ふれあい祭り 581名</p> <p>2009年度来館者数</p> <table border="1"> <tr> <td>乳幼児</td> <td>16175</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>34020</td> </tr> <tr> <td>中高生</td> <td>5011</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>28359</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>83565</td> </tr> </table>	乳幼児	16175	小学生	34020	中高生	5011	一般	28359	合計	83565
クラス名	男	女	計																																																																																							
0歳児クラス	166	171	337																																																																																							
1歳児クラス	91	86	177																																																																																							
2歳児クラス	79	87	166																																																																																							
3歳児クラス	22	28	50																																																																																							
4,5歳児クラス	41	43	84																																																																																							
計	399	415	814																																																																																							
	男	女	計																																																																																							
1年生	54	43	97																																																																																							
2年生	51	29	80																																																																																							
3年生	30	38	68																																																																																							
4年生	0	1	1																																																																																							
計	135	111	246																																																																																							
	男	女	計																																																																																							
乳幼児			16175																																																																																							
小学生			34020																																																																																							
中・高校生			5011																																																																																							
一般			28359																																																																																							
計	0	0	83565																																																																																							
乳幼児	16175																																																																																									
小学生	34020																																																																																									
中高生	5011																																																																																									
一般	28359																																																																																									
合計	83565																																																																																									

2009（平成21）年度 雲柱社 児童館ブロック 岩戸児童センター 事業報告

記入者 日下 美恵子

指定管理

岩戸

	子育て支援活動	小学生クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																			
事業の総括	<p>今年度から新たに始まったはいはいクラブには、年間を通して多くの0歳児親子が参加し、定着してきた。その中には、ねんね赤ちゃんプレイルームから繋がってきた親子も多い。自宅に引きこもりがちな0歳児親子の居場所として今後も定着させていくと同時に、次年度は乳児健診等に出張し、センターまでなかなか足を運べない親子へアピールしていきたいと考えている。</p> <p>また、カナダの子育て支援プログラム「ノーバディーズ・パーフェクト」を子育て支援課と共催で実施した。2時間完全保育の中、親同士がお互いの価値観を認め合いながら自分なりの子育ての仕方を学ぶプログラムで、反響も高いので、次年度も3クール実施を予定している。</p> <p>ひろばでの相談はやはり「健康・発達」についてが主であるが、併設している子ども家庭支援センターの要支援ケースの親子が関わることもあるので、必要に応じてスタッフミーティングで共有、検討している。</p>	<p>今年度より在籍数が増えるに伴い、昨年度より行っていた改築工事が完了し、4月を迎えた。</p> <p>2部屋という環境をうまく活かし、奥の部屋は学習ルームや、延長利用児の補食スペースとして使うなど、住み分けを行った。</p> <p>障がい児は5名受け入れた。障がい児のためのスペースを確保する必要性もあるが、同じ空間にいることで相互に良い刺激があった。</p> <p>年間を通して、多くの小学生クラブ単独の行事を行った。それぞれのプログラムでいくつかの反省を活かし、ニーズに合わせ、企画や廃止をし、年度内での見直しを行った。2回実施した夕食会ではそれぞれ過半数の親子が参加し、楽しい時間を過ごせたようであった。</p> <p>また、今年度より延長保育、スポット利用事業を開始し、最長で20時までの受け入れ態勢を整えた。毎日3～5名程度の子どもたちが利用していた。</p>	<p>小学生クラブ室同様、センターも玄関や体育館扉の改修工事が済み、4月のスタートをきる。年間を通して多くの行事を行い、毎回定員を超える程の参加者が集まった。夏のえんにちは、新たな試みで模擬店やゲームコーナーを設け、利用者には大変好評であった。また、昨年度の反省を活かし、低学年の合宿は2回に分けることによって、子ども達の安全性も配慮する。</p> <p>昨年度に引き続き一般来館が多く、体育館・図書室・ワイワイルームなどは終日子ども達で大いにぎわっていた。各プログラムの見直しや、環境整備により、より使いやすい環境を整えていった。体育館の使い方はプログラム化することにより、使いやすさ、安全面を配慮した。</p> <p>1年生、2・3年生、高学年の組織活動はそれぞれ毎回多くの子どもが参加し、スポーツ、創作活動などテーマに沿ったプログラムを展開していった。</p>	<p>中高生組織活動『音魂』も3年目となり、メンバーが若干減少したが、継続的に残った子と、新規に加入したメンバーで年間を通して2回のライブを行った。地域の大人のボランティアとの関係も良く、参加した子は充実していたようであった。</p> <p>夜間はバスケットボールを目的とした中高生が多く来館していた。年度途中より、バスケ以外のスポーツの推進を図り、ノーバスケデーを設ける。また、図書室には中高生向けの雑誌や、玩具を購入し、スポーツ以外の居場所を推進したが、大きな結果は残せなかった。</p> <p>児童館主催の行事のボランティアを積極的に行う子もいて、世代間交流にも繋がっていた。</p> <p>2中の職場体験を年2回受け入れ、地域中学校との連携も取れていた。</p>	<p>今年中高生活動の音魂を地域ボランティア中心に活動を展開してきた。結果として、大人と次世代の子どもが繋がりあうきっかけの場を育むこととなった。</p> <p>また、保護者や地域の方々ボランティアを呼びかけ地域に根ざした児童館作りを目指していきたい。</p> <p>活動への参加者も増加しているので、学生ボランティアなど定期的にお手伝いしてもらえる方たちを発掘し、より充実した活動展開を目指していきたい。</p>																																																																			
活動・行事報告	<p>たんぼぼひろば（AM9:00～PM6:00まで開放） 相談件数・・・年間208件</p> <p>ねんね赤ちゃんプレイルーム・・・年間477組（延べ人数） はいはいクラブ・・・年間23回 88組登録 よちよちクラブ・・・年間15回 79組登録 とっこクラブ・・・年間15回 69組登録 ノーバディーズ・パーフェクト・・・2クール 各10名</p> <p>すくすく測定・・・年間613組（延べ人数） 幼児食教室・・・3回実施 計30組 年齢別親子講座・・・I期：53組 II期：49組 ふれあいの音楽会・・・2回 94組 水あそび・・・12回 239組 おいもほり・・・42組 ハロウィン・・・54組 たんぼぼクリスマス・・・94組</p>	<p>新入生入会式 4/1 38名 お花見 4/7 46名 親子交流会 6/6 子22名 親16名 夕食会・保護者会 7/10 子36名 親29名 昼食会 7/31 37名 小クラカフェ 8/1 3名 昼食会 8/18 32名 遠足 8/28 41名 センター合宿 9/5、6 20名 親子昼食会・保護者会 10/17 子16名 親8名 クリスマス会 12/12 33名 夕食会 1/22 子33名 親26名</p> <p>不定期：おやつ作り 毎月：誕生会</p>	<p>各部屋に職員を配置し児童の自由な遊びを促す。 内容は、・スポーツ、工作、スポーツ大会、ビデオシアター、お話し会、折り紙タイム、ちっちゃなアトリエ等 1年生歓迎会 75名 多摩川デイキャンプ 103名 低学年センター合宿 100名 ロッキーミニえんにち 202名 1・2年生キャンプ 30名 ふるさと自然体験塾 30名 高学年オータムキャンプ 11名 オーバーナイトハイク 8名 交流フェスタ 23名 市民祭りエイサー 9名 高学年合同合宿 11名 ファミリースポーツデー 51名 ロッキークリスマス会 118名 雪国体験家族キャンプ 30名 交流ドッチフェスタ 54名 ロッキーマーケット 147名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習キャンプ あさひ福祉作業所 3名 <山梨県北巨摩郡> 泉龍寺ライブ 4名 オーバーナイトハイク 8名 雨天中止 ロッキーマーケットライブ 4名 	<ul style="list-style-type: none"> ファミリースポーツデー 親子で参加できるスポーツ大会を実施。普段の子どもたちの遊びを知ってもらうきっかけ作りの一環として行った。 51名 姉妹提携都市である新潟県川口町との交流を図る。地元の人などと触れ合うきっかけを作った。 8月 ふるさと体験塾 30名 2月 雪国体験家族キャンプ 30名 																																																																			
登録者・来館者	<p>（延べ来館者数）※利用カード登録者のみ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>4959</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>3128</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>1964</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>656</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>447</td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>334</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11488</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	計	0歳児	4959	1歳児	3128	2歳児	1964	3歳児	656	4歳児	447	5歳児	334	計	11488	<p>（在籍時数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34</td> <td>16</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	11	4	15	2年生	7	5	12	3年生	12	4	16	4年生	3	2	5	5年生	1	1	2	計	34	16	50	<p>（2009年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>12235</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>10991</td> <td>7979</td> <td>18970</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>2656</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>11336</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10991</td> <td>7979</td> <td>45197</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 293 ※1日平均 154</p>		男	女	合計	乳幼児			12235	小学生	10991	7979	18970	中・高校生			2656	一般			11336	計	10991	7979	45197	<p>（その他の事業、特記事項）</p> <p><体験学習・実習生> 中学生職場体験学習 4名</p>
年齢	計																																																																							
0歳児	4959																																																																							
1歳児	3128																																																																							
2歳児	1964																																																																							
3歳児	656																																																																							
4歳児	447																																																																							
5歳児	334																																																																							
計	11488																																																																							
	男	女	計																																																																					
1年生	11	4	15																																																																					
2年生	7	5	12																																																																					
3年生	12	4	16																																																																					
4年生	3	2	5																																																																					
5年生	1	1	2																																																																					
計	34	16	50																																																																					
	男	女	合計																																																																					
乳幼児			12235																																																																					
小学生	10991	7979	18970																																																																					
中・高校生			2656																																																																					
一般			11336																																																																					
計	10991	7979	45197																																																																					

2009(平成21)年度 社会福祉法人雲柱社 狛江市子ども家庭支援センター 事業報告

記入者: 日下 美恵子

事業の総括	<p>1. ひろば事業</p> <p>ねんね赤ちゃんプレイルームや、今年度から始まったはいはいクラブの活動が定着してきたためか、0～1歳児の利用者数は増えてきたが、2・3歳児の来館が昨年に比べて大きく減少した。たんぼひろばは乳児がのびのびと歩き回ることのできる半面、幼児の保護者からは「小さい子が多いので来館しづらい」「乳児と幼児のスペースをもっとはっきり区分けして欲しい」という声もあがっている。以前から引き続きの課題なのだが、限られたスペースの中で共存していくための工夫や空間作りを利用者と共に考えていきたい。</p> <p>2. 相談事業</p> <p>ひろば相談は「発達・健康」についての相談が主だが、ゆっくりと話を聞いていくと、母親一人で子育てを担っているストレスや身近に子どもを預ける人がいない不安を抱える母親たちの姿が浮かび上がってくる。そのような母親に気軽に勧められる一時保育などのサービスが市内には少なく、歯がゆい思いもあるが、そのような母たちの声を行政にあげていくのもセンターの役割だと感じている。</p> <p>3. サービス提供事業</p> <p>(一時保育) 申請理由としては、短期的勤務や就業活動、看護や出産などが主である。しかしながら一日一名の枠の中で、そのような様々なニーズにこたえることが難しくなっている。特に0・1歳児の受け皿については今後の課題である。 (ショートステイ) 今年度も、市が中心となって対応している養育困難ケースの受け入れとしての働きがほとんどであった。 (育児支援ヘルパー) 今年度は新型インフルエンザ対策で、ヘルパー、利用者共に配慮が必要な事項があったが、特に大きなトラブルはなかった。多胎児など配慮が必要な家庭は、保健士と連携をしながらすすめている。要支援家庭は2件。</p> <p>4. 先駆型・虐待対策</p> <p>先駆型も3年目となり、要保護児童対策地域協議会「狛江市子ども家庭支援ネットワーク」において、市役所子育て支援課とともに、市内における児童虐待通告・児童相談の第一の窓口として、「日常的に顔の見える連携」を目指し、ケース対応時のみならず、「防止」にもより一層努めた一年であった。 「在宅サービス基盤整備事業」における、養育家庭体験発表会は土曜午後の1回開催とし、新たに関係者向けの学習会を開催。初の試みであり、関係者になかなか事業の趣旨を理解してもらうことは容易ではなかったが、積み重ねが大切だと実感する。</p> <p>◎件数</p> <table border="1"> <tr> <td>・児童虐待通告・児童相談</td> <td>新規 157件</td> <td>継続 83件</td> </tr> <tr> <td>・関係者会議開催延べ件数</td> <td>46件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・家庭訪問延べ件数</td> <td>16件</td> <td></td> </tr> </table>	・児童虐待通告・児童相談	新規 157件	継続 83件	・関係者会議開催延べ件数	46件		・家庭訪問延べ件数	16件		<p>事業目標・方針の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば事業では、異年齢の子どもたち同士の関わりを目標とし、またどの利用者にとっても居心地の良い場を目指して事業を展開してきた。しかし、せまい場所で多くのお子さんが集まるとそれぞれのニーズが異なり、乳児、幼児どちらを優先するのかという状況にもなってしまうことがあった。事業目標にある、「一人ひとりを大切にすること」がどういふことなのかあらためて考える機会となり、限りある環境の中で困難ではあるが、ひろばに集うすべての利用者が大切にされていると感じてもらえるような支援を今後も模索していきたい。 ・全体の傾向としては、自由な来館よりもプログラムへの参加者が増えている。設定された場の方が来やすいという母親の傾向をふまえ、今後の事業展開を検討していく必要がある。 ・狛江市ならではの「日常的に顔の見える連携」を念頭に、ケース対応時のみならず、「防止」にもより一層努めた。要保護児童対策地域協議会「狛江市子ども家庭支援ネットワーク」における、実務関係者会議は4回開催(講演会形式2回、座談会形式2回)。各機関からの参加者も毎回変わるなど、より多くの関係者の参加があり、ネットワークや会議に関する意見を聞くこともでき、有意義な実務関係者会議となった。 ・「防止」については、子育て支援課とともに通年でオレンジリボンキャンペーンを行い、500リボンの作成・配布を行う。リボン作成は、近隣中学の職場体験・併設の岩戸児童センターの高学年組織活動時に、支援センターの役割・オレンジリボンについての説明もし、子どもたちと一緒にリボン作成等行う。作成後は、ネットワーク会議・養育家庭体験発表会・子どもたちと関係のある小中の教職員配布。他にも、11月の虐待防止月間には、世田谷児童相談所・子育て支援課・支援センター職員で、街頭でのチラシやリボン配布を行う。次年度以降も、より多くの関係者や市民に対し、虐待防止活動への理解と周知に努めていく。
	・児童虐待通告・児童相談	新規 157件	継続 83件								
	・関係者会議開催延べ件数	46件									
・家庭訪問延べ件数	16件										
	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数～423組 ・総登録者数～2539組 ・子ども延べ利用者数～11,488人 (内訳 0歳児:4,959人、1歳児:3,128人、2歳児:1,964人、3歳児:656人、4歳児:447人、5歳児:334人) ・親延べ利用者数～10,351人 ・相談件数～208件 ・サービス事業利用状況(一時保育:88日、ショートステイ:79日、育児支援ヘルパー:289時間) 										
<p>主な行事報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常プログラム～ふれあいタイム(異年齢親子の交流とティータイム)、わくわくwork(お母さんの製作)すくすく測定(身長・体重測定)、誕生日会 ・ファミリーDAYとして毎月1回季節の行事や児童センターとの合同プログラムを実施。 (ミニえんにち、おいもほり、ハロウィン、クリスマス会など) ・市内2ヵ所にある「あそびの広場(学童保育所の午前開放)」へ毎月センタースタッフが出張する。 ・子ども服リサイクル～年3回 ・ボランティア感謝会 1回 ・講座～中川さんと話そう 年2回、幼児食教室 年3回、年齢別親子講座 1歳児・2歳児各2期実施。 ・Nobody's Perfect(完璧な親なんていない)～連続6回 定員10名 (年間2クール) ・児童センターとの連携事業～ねんね赤ちゃんプレイルーム、はいはいクラブ、よちよちクラブ、とっとこクラブ 	<p>環境・修繕の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんコーナーの壁紙張り替え、棚の取り外し、マットの取り替え ・授乳コーナーにソファを設置する ・意見箱の設置・回答を常時掲示 ・環境整備チェックシートの作成・設置 <p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> センター長 1名 支援ワーカー 2名 虐待対策ワーカー 1名 非常勤支援ワーカー 4名 スーパーバイザー 										

指定管理

狛江支援

2009年度 雲柱柱 狛江市立和泉児童館 事業報告

記入者 植松 牧人

事業の総括

子育て支援活動	小学生を対象とした活動	小学生クラブ	中・高校生を対象とした活動	次世代事業・自然体験事業・ボランティア活動など	ファミリー・サポート・センター
<p>2008年度と比較して来館者は1割減である。インフルエンザ流行などが減少の原因と考えられる。新しい企画としておかあさんのグループ活動であるハンドベル隊や、ファミサポとの共催のコンサートを開催した。ボランティアの小中学生も参加して体育館で運動会を行った。また、中高生を積極的に受け入れ、手伝いや職場体験を企画した。また、施設内の活動にとらわれず地域に出るプログラムを展開してきた。外あそびのプログラムにも力をいれ、開かれた児童館をアピールしてきた。また小学生入学前の幼児を対象に3月に学校の体育館を利用して児童館の紹介をした。</p>	<p>今年もバザー・焼き芋・クリスマス会・餅つきを幼児とあわせてマンスリーでイベントを開催し、相乗効果をねらった。水曜日の授業が午後まで延長され、ハッピーマンデーが減り、ゆとり教育のゆり戻しが児童館の出番を減らしていく傾向がつづいている。市民の講師を依頼してクリスマス発表にむけてそれぞれグループ活動を展開した。今回はさらに渋谷での児童館交流フェアにダンスチームが参加した。新一年生の呼び込みを2月から準備し、4校の学校説明会でPR活動を行った。3月に前倒しの歓迎会を行い、47名参加した。グループ活動を全5種類とし地域スタッフの活躍の場を設けた。</p>	<p>【特徴】障がい児が2割を超え育成時間の増加や8時までの受け入れが始まった。【保護者とのつながり】月のおしらせ、面接、アンケート、説明会ならびに懇談会、その他クリスマス会・レクリエーションを通じて親と子どもとスタッフとの交流を深めた。バザーや餅つきなどのイベント参加もお願いした。また「晩御飯」企画では親と子どもとスタッフが夕げを囲み話に花が咲いた。また、共生の具体化として、障がい児・健常児混合の「ポップキッズ」ダンスチームも2年目となり、渋谷での発表会でも親子とともに、男子や障がい児も混じった和泉の特有の演出がなされた。保護者会がない学童クラブとして4年間続いてきているが、これらのことによりその繋がりにおいて安定感に深まりをました。【障がい児プログラム】-和音-音楽療法の勉強中の地域スタッフ講師による週1回のプログラムを通年で行った。保護者への発表もおこなった 【全体をとおして】20時利用によりファミサポの活動と拮抗するかと心配をしたが、施設内の運営を越えた活動がより活発になり、その関係性はましてきてきた。夏に乳幼児親子をクラブに招いてシャボン玉アワーやファミリーディのボランティア参加など別事業の相互乗り入れに力をそそいだ。</p>	<p>高校生の利用人数が過去3年で減少傾向がとまらない。スポーツをする集団の利用がまったくとだえたことによる。第三中学の3年生の男子が占有している状態でバランスが悪かった。中学校・高校の体験学習の場として乳幼児活動へのボランティアの機会を設けることができた。イベントでのボランティアの活躍を期待したいところだが実現はできなかった。中学校と和泉児童館の運営委員会に相互に参加しており、学校の放課後の方向性を見定めて活動をすすめていきたい。</p>	<p>館内での宿泊や渋谷のダンス発表など諸活動に、障がい児も同様に参加を促し受け入れてきている。従来の児童館の行事を実施しつつ、新たに地域を巻き込んだ活動をしてきた。おおきな規模のイベントより小刻みに継続的に効率よく利用者のニーズに耳をかたむけ、1年間を4期にわけて事業を行ってきた。館内合宿を軸としてそれに準じたプログラムを6回うちだした。一時あずかり、トワイライト的な子育て支援の形態が定型化し地域ニーズを掘り起こし、リーズナブルな費用負担を心がけた。</p>	<p>【小学生クラブとの連携】福祉の事業として定型化できないところを補う事例が多くなってきた。【児童館企画の相互乗り入れ】幼児のお母さんのリフレッシュを目的とした企画を実施し、託児付添相談員がサポート会員にレクチャーを実施した。保護者向けの講習など館内プログラムの一端になってきている。【障がい児加配】障がい児の送迎と館内での対応を一人のスタッフがとおして担当するケースが頻繁になった。【事務作業の省力化】障がい児の対応と事務仕事を兼任し、時期による仕事量の調整を図った。【広報】小学校・中学校の保護者を対象にビラの配布を児童館のPRと一体化させていった。人材不足の中で、サポート会員の協力を得ていることは大きな力である。【実績】利用会員とサポート会員の需要と供給が双方とも増加した。しかし状況は、インフルエンザや景気の低迷により18%減少した。多くのサポート会員が少ない件数の活動をしたことになり、利用者が吟味して依頼する傾向が見られた。</p>

活動・行事報告

活動・行事	回数	回数	利用会員	サポート会員	両方会員	託児
夏のプログラム						
わんぱくタイム						
リトミック						
ベビーオイルマッサージ						
離乳食教室						
ランチ会						
すくすく測定						
水遊び						
こども服リサイクル						
ミニミニ縁日						
ハンドベルコンサート						
運動会(ファミリーデー)						
映画会						
小クラクリスマス会						
ポップキッズ(ダンスでの障がい児と健常児の活動)						
毎日の中高校生タイム						
八ヶ岳キャンプ2回						
代々木フェスタ						
ドッチボールフェスタ						
クリスマス会						
館内合宿4回						
黒川キャンプ						
渋谷交歓フェア						
交流ドッチフェスタ						
あさひ体験学習キャンプ						
雪国体験						
ドッチサーキット						

登録者・来館数

【登録数】	【来館数】	【在籍時数】	【その他事業・特記事項】	【ファミサポ実績】															
0歳 510	乳幼児 9,571	学年 男 女	<p>・おたよりを配布する小学校を4校に増やしイベント参加の増加と、固有地域からの集中的な参加を緩和した。またインフルエンザによる影響を回避しながら利用者の減少を最低限に抑える運営ができた。小学生クラブ障がい児の利用が多い。入館者が前年より4.2%増 そのうち内小学生部門が36.7%増で3年連続の減少傾向に歯止めがかかった。・専門委員会(給食委員会・図書委員会・音楽療法委員会・障がい児ミーティング)を設けて、地域スタッフを核としたシステムを構築した</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>累計</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用会員</td> <td>753</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>サポート会員</td> <td>172</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>両方会員</td> <td>42</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>967</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		累計	増減	利用会員	753	83	サポート会員	172	12	両方会員	42	2	計	967	—
	累計	増減																	
利用会員	753	83																	
サポート会員	172	12																	
両方会員	42	2																	
計	967	—																	
1歳 420	小学生 10,965	1 7 12																	
2・3歳 315	中高生 941	2 5 3																	
	一般 9,522	3 12 7																	
	計 30,999	4 0 2																	
		6 1 2																	
	開館日数 297	合計 51																	
	1日平均 104	(障碍児) 10名																	
			活動状況 3,930 - 891																

指定管理

和泉

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																											
事業の総括	<p>今年度の目標でもあった「地域との協働」において大きな前進の年となりその目標を概ね達成できたと振り返る。乳幼児活動における地元お話しサークルや人形劇サークルの協力。活動における民生委員、支援センターワーカーの参加、評議委員からの講座講師の紹介など地域に根差した事業を展開することができた。</p> <p>父親の来館が増えてきていることから父親向けプログラム（クッキング）を実施。母親からの声によりママスポーツ大会などを実施したことで児童館が家族揃って楽しめる居場所として機能し始めた。</p> <p>基幹型児童館主催の活動への職員出向により同エリアの子育て支援に携わることができたことは構想の目的達成に向け大きな一歩となった。</p>		<p>児童館の持つ「遊び」に関するノウハウを館内に留めずに広く地域に還元できた1年であった。放課後子どもプランにおける小学校での事業展開を始め、地域各機関主催のイベントに児童館が子どもと共に参加協力する事が出来た。</p> <p>市が力を入れている「食育」では、クッキングクラブや労作活動の他に、商工会青年部との協働企画「歳三うどん町おこし」など子ども達も地域に住む多くの大人と交流を持つ機会が与えられた。クッキングクラブでも農協直売所を訪問し、直接農家の方から野菜の選び方などの話を聞く事も出来た。また、ワールドクッキングでは、韓国料理を留学生から教えて頂いた。</p>	<p>館内合宿における「考えよう」のコーナーでは“相手の心と身体を思いやる”をテーマに評議委員さん、男女平等課職員をファシリテーターに迎え、中・高生と語り合う時を持つ事が出来た。難しいテーマではあるが、児童館が避けては通れない課題と位置付け、入念な打ち合わせを経て実施する事が出来た。この分野に踏み込み実施に至った事は、今後の児童館活動において大きな一歩となった。</p> <p>ボランティアとしても館内、地域を問わず多くの中、高生が様々な事業に協力してくれた。</p> <p>連日多くの子どもが居場所として児童館を利用してくれた。昨年度比2,000人増。</p>	<p>5月に実施した「子どもの日スペシャル」では、地域住民や地域団体の力が集結したイベントとなった。育成会、児童民生委員、基幹型児童館、おはなしサークルなどの協力を得て、乳幼児からお年寄りまでが一堂に集い楽しむ事ができた。</p> <p>五小50周年まつりでは、地域の諸団体と一緒にになり、児童館らしさを前面に出したブースを出店し、まつりを盛り上げる事が出来た。</p> <p>育成会主催「三世代の集い」においても児童館から職員が出向した。準備段階から協力することで、より地域に根差した働きができたと振り返る。</p> <p>クッキングクラブは小学生低学年館内合宿において、参加者の食事を作るという大役を果たしてくれた。</p>																																																																											
	<p>※ 登録制年齢別活動：各年齢月1回</p> <p>※ 自由参加型年齢別活動：各年齢月1回</p> <p>0歳児対象活動には民生委員、支援センターワーカーも参加</p> <p>※「夕涼み会」、「お楽しみ会」、「人形劇観賞」「保育付母親講座」「図書館職員による絵本紹介」</p> <p>※「初めて来ても安心して遊べる児童館」を目指し、職員の対応はもちろんの事、館内のインフォメーションボードや利用案内、ポスターなど利用者目線にたった案内を徹底した。</p> <p>※親子でお出かけ：市内「なかだの森」へ遠足。</p>		<p>※ 低・高学年キャンプ：7・8月</p> <p>※ 低学年おでかけ（磯あそび）：5月</p> <p>※ 低学年親子クッキング：年2回</p> <p>※ 高学年クッキングクラブ：年10回</p> <p>※ クリスマス活動（キャンドル作り・施設訪問）</p> <p>※ 労作活動（お米作り）5月から11月</p> <p>※ 映画会：毎月1回</p> <p>※ 低・高学年タイム：週1回/月2回</p> <p>※ 子ども実行委員会：9・10月</p> <p>※ 証言会（被爆体験）：11月</p> <p>※ 館内合宿：2・3月</p>	<p>※スポーツ大会：毎月1回</p> <p>※ 映画会：毎月1回</p> <p>※ ライブコンサート：年1回</p> <p>※ ボランティア活動（餅つき・低学年合宿）</p> <p>※ 館内合宿：年1回</p> <p>※ 調理活動：年3回</p>	<p>※労作活動（お米作り）：5月～11月</p> <p>※子どもの日スペシャル 5月</p> <p>※クリスマス活動：11、12月</p> <p>※餅つき</p> <p>※日野市こどもまつり</p> <p>※二中育成会「三世代の集い」</p> <p>※五小50周年まつり</p> <p>※「歳三うどん町おこし」</p>																																																																											
活動・行事報告																																																																																
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <tr><td>0歳児クラス</td><td></td><td></td><td>40</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td></td><td></td><td>40</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td></td><td></td><td>40</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td></td><td>120</td></tr> </table>	0歳児クラス			40	1歳児クラス			40	2歳児クラス			40	3歳児クラス												計			120	<p>(在籍時数)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>1年生</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2年生</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3年生</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4年生</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>		男	女	計	1年生				2年生				3年生				4年生				計	0	0	0	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>乳幼児</td><td></td><td></td><td>9516</td></tr> <tr><td>小学生</td><td></td><td></td><td>12449</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td></td><td></td><td>7085</td></tr> <tr><td>一般</td><td></td><td></td><td>10239</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td></td><td>39289</td></tr> </table> <p>※会館日数 287日</p> <p>※1日平均 137人</p>		男	女	計	乳幼児			9516	小学生			12449	中・高校生			7085	一般			10239	計			39289	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>【地域内機関とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまだいら児童館ふれっしゅ評議委員会：年2回 ・指定管理業者連絡会：月1回・日野市係長会：月1回 ・日野市子ども家庭支援ネットワーク連絡協議会：年2回 ・日野市立第五小学校PTA連絡会「はぐくみの会」：年2回 ・日野市立二中地区青少年育成会運営委員会：年4回 <p>・「次期（2010年度）指定管理者選定会」8月</p>
0歳児クラス			40																																																																													
1歳児クラス			40																																																																													
2歳児クラス			40																																																																													
3歳児クラス																																																																																
計			120																																																																													
	男	女	計																																																																													
1年生																																																																																
2年生																																																																																
3年生																																																																																
4年生																																																																																
計	0	0	0																																																																													
	男	女	計																																																																													
乳幼児			9516																																																																													
小学生			12449																																																																													
中・高校生			7085																																																																													
一般			10239																																																																													
計			39289																																																																													

<p>事業の総括</p>	<p>東陽みずべ10年を祝う 開設から10年を記念して、長くみずべを支えてくださった方々や毎日元気に遊びに来ている親子さん達と一緒に祝いする一年として、記念文集の作成と親子コンサートを開催した。 文集には、開設当初から関わってくださっているボランティアさんや先生方など多くの方に、その想いを寄せていただき、共に歩んできたことへの感謝と喜びを改めて実感する機会を与えられた。また、現在みずべに通って来ている親御さん達からは、「10年後の我が子へ」というテーマで原稿を募集。完成した文集は、これまでの10年の歩みと、これからの10年の希望が詰まったものとなった。 親子コンサートは、関わってくれた方々との出会いや繋がりに、日頃の感謝の気持ちをこめて、多くの人に参加をしてもらい、共に楽しいひとときを過ごせる会となった。現在のみずべの利用者であり、母の輪タイムでも力を貸してくれているお母さん達が企画・演奏してくれた。ピアノ・バリトンサクソ・マリンバ・フルートが並び、素晴らしい音楽を楽しむことができた。 10年の月日を振り返りつつ、久しぶりに顔を合わせる人との再会も嬉しく、今まで沢山の方に、子ども達の成長とみずべの歩みを支えてもらったことを改めて感じることができ、これからも更に地域の中で、子ども達の成長を見守り続け、多くの人々の集うみずべとして、新しい一歩を踏み出したい。</p> <p>リフレッシュひととき保育 1階に保育室が完成し、3月よりひととき保育は、専用の保育室で行うようになった。普段お母さんと一緒に遊んでいるみずべの雰囲気はそのままに、手作りの温もりあふれる保育室となった。保育室だけでなく気候の良い時には積極的に散歩に出かけ、砂遊びやジャブジャブ池、どんぐり拾いなど楽しい経験ができた。定員が1日12名に増えたので、予約も取りやすくなった。曜日を決めて定期的に利用する方や、友達同士と一緒に予約を取り、リフレッシュに出かける姿も多くみられるようになった。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p>1. ひろば活動 ひろばは、今年度も子ども達の元気な笑い声や泣き声で溢れ、連日大賑わいであった。小さな赤ちゃんは、お母さんに抱かれて周りの子ども達をじっと見て刺激を受け、少し大きな子は赤ちゃんに興味を示す。異年齢の中で子ども達は、様々なことを経験し親御さん同士も顔見知りになるなど、ひろばは親子にとって憩いの場になってきているが、それぞれ自分の想いを素直に出せるように、いつも安心できる場であるよう努めたい。第2子の誕生も多く、ひろばは忙しくも嬉しい日々であったが、母親は休む間もなく上の子への対応に悩み、心身ともにおおきな負担を背負いきれなくなっている場合も多くあった。</p> <p>2. 相談活動 ・グループ相談（年間10回） 話したいことを安心して自由に話すことで、お互いの経験やアイデアを交換することになるので、自分だけの考えを越えて「目からうろこ」のようなヒントをもらうこともある。会が終了しても、繋がる関係を持ち続ける方が多いのは嬉しいことである。 ・家族問題相談（年間24回） 心理的サポートよりむしろ生活環境を整えるサポートが必要な場合もある。保健師・福祉・医師等、さまざまな職種の方々と連携を取れることで迅速で適切なサポートが可能になる。 ・発達相談（年間12回） 実際にセンターに来ているだけでなく、友人から聞いたという申し込みも多かった。学齢期の子どもの相談は、年々増えている。担任から勧められてという方がいて、教師たちも抱える問題が大きいと思った。 ・すこやかマンデー（月2回） 参加人数が増え、母親同士の繋がりも出てきた。今年度は体に何らかの障がいを持つ子どもの参加が多く、病院やリハビリの情報交換をしたり、幼稚園・保育園・療育施設選びの話を先輩から聞く姿が多くみられた。悩みを語り合う姿は、同じ想いを体験してきた者ならではの優しさに満ちている。</p>																				
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>1. 子どもが小さいと家の中も思うように整理できないことが多いので、センターは、できるだけ家庭的で清潔な環境づくりを心がけた。やわらかい色合いで花や緑を置き、おもちゃも木や布のものを用意し、色・光・音などの刺激を抑えて穏やかな気持ちで過ごせるよう配慮した。</p> <p>2. エアコンの内部清掃を行い、安心して気持ちよく過ごせるよう配慮した。</p>	<p>年間利用者数</p>	<table border="0"> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>940人</td> <td>・総登録者数</td> <td>12,454人</td> </tr> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>15,416人</td> <td>・親延べ利用者数</td> <td>12,916人</td> </tr> <tr> <td>・親子合計</td> <td>28,332人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・相談件数</td> <td>640件</td> <td>・体験学習事業参加者数</td> <td>2,914人</td> </tr> <tr> <td>・ボランティア登録者数</td> <td>47人</td> <td colspan="2">（参加延べ時間数 1,140時間）</td> </tr> </table>	・新規登録者数	940人	・総登録者数	12,454人	・子ども延べ利用者数	15,416人	・親延べ利用者数	12,916人	・親子合計	28,332人			・相談件数	640件	・体験学習事業参加者数	2,914人	・ボランティア登録者数	47人	（参加延べ時間数 1,140時間）	
・新規登録者数	940人	・総登録者数	12,454人																				
・子ども延べ利用者数	15,416人	・親延べ利用者数	12,916人																				
・親子合計	28,332人																						
・相談件数	640件	・体験学習事業参加者数	2,914人																				
・ボランティア登録者数	47人	（参加延べ時間数 1,140時間）																					
<p>主な行事報告</p>	<p>1. 人材育成「子育てボランティア養成講座 スキルアップⅠ」 センターの利用者や相談者の中でもニーズの高い「一時預かり」の担い手の育成、また地域の子育て力を向上させることを目的として行った。連続8回の講座に加えて、支援センターでの体験実習を入れ、全過程修了者には、10月か「リフレッシュひととき保育」の協力ボランティア（支援士）として登録し、活動に参加してもらう。 4期生の養成講座… 参加者28名 登録21名（登録延べ人数87名）</p> <p>「子育てボランティア養成講座 スキルアップⅡ」 スタッフと一緒に、出張ひろば・訪問活動を担う人材の育成を目的として、全5回の講座を開催した。 参加者9名</p> <p>2. 子ども家庭相談研修 子育てに伴う不安や悩み、また児童虐待等が大きな社会問題となっているなか、子どもに関する施設が子どもと家庭に対して、育児相談のよきパートナーとなることが強く求められている。区内の保育関係者を対象に、子育て家庭の現状と実践を学ぶための研修を行った。 テーマ：養育困難な家族への理解と対応 江東区の虐待対策ワーカーと区内の精神科医を講師にお願いして、講義だけではなく、今後の連携につなげていくことも大きな目的である。</p>	<p>人事その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センター長 ・子ども家庭支援ワーカー ・専門相談員 ・協力研究者（スーパーバイザー） 																				

2009（平成 21）年度 事業報告書

施設名：江東区大島子ども家庭支援センター
 記入者：篠原 喜美

指定管理

大島

<p>事業の総括</p>	<p>区内 2ヶ所目のセンターとして開所して 7年目を終えるが、その間、こどもが健やかに育ち成長していくことを願い、温かく見守りあえる関係の構築をめざして活動してきた。専門相談の先生、保健士、助産師、栄養士、そして地域の民生・主任児童委員の方たちの変わらぬご協力をいただきながら、事業を行なうことができた。</p> <p>ひろば活動 保健相談所や助産師さんによる新生児訪問がきっかけとなり、今年度も 0歳児（特に 3～4ヶ月）の来所が多くみられ、地域のなかのつながりを改めて感じさせられた。その後ひろばに遊びに来たり『ハローみずべ』『ベビーマッサージ』『助産師さんとの懇談会』等の講座やプログラムに参加しながら、みずべに慣れお友達ができていく姿がみられた。また、2～3歳のこどもたちは、自分のお気に入りの遊びを見つけ、お友達と関りながら遊ぶ中で、自分の思いが通らずぶつかることがあるが、母親が対処に困ったり辛くなってしまうことがないよう、みずべが『みんなで子育て』できる場になれるようスタッフの配慮を大事にしてきた。母親の自主活動も活発に行われ、特に「幼稚園について先輩ママと話そう」への関心は高く、当日の進行はお父さんがしてくださり、母親の気持ちを聞きながら、父親の立場での話しもあり、良い集いとなった。また、父親の来所も土曜日を中心に多く、初めは母親と一緒に来て、慣れてくると父親とこどもだけで遊びにくるようになる。平日も育休をとっている方や、母親の育児負担軽減の為仕事の合間に来所する父親もいた。そして今年度初めて行った父親講座がきっかけになった方も多くみられた。</p> <p>リフレッシュひととき保育 2008年7月より江東区の4センターで開始。今年度より大島での登録・予約ができるようになった。また、定員が3名に増えたこともあり利用者から好評を得て、多くの利用があった。ひろばの中での保育の良さと難しさを感じつつ支援士さんのご協力のもと、行なわれている。利用の理由はリフレッシュ・通院・兄弟の行事参加等々だが、職場復帰をめざして資格取得のため集中して利用する方もいる。また、育児不安や虐待予防の観点からお子さんをお預かりすることも増えてきている。</p>	<p>事業目標はスタッフ会などで読み合わせ、それぞれが日頃の振る舞い・話し方・考え方などを振り返り、大切にしなければいけないことについて、共通理解する時間を設けた。</p> <p>1. ひろば活動の充実 スタッフが受けやひろばで親子との丁寧なかかわりの中、信頼関係を築いていくよう配慮した。母親・父親の持っている知識、特技、趣味などをひろばで発揮できる機会を作り、親たちの自己発揮をサポートした。</p> <p>2. 相談活動の充実 ひろばでの子育て相談が気軽にできるよう配慮しながら、お話しの内容やご希望により専門相談（心理・発達・家族問題）につなげる。また、保育園・幼稚園、保健相談所や子育て支援担当・ホットライン等と連携しながら相談活動を行なうケースが増えてきている。また、リフレッシュひととき保育を利用して、母子共に少し離れる時間を作る必要性を感じている。</p> <p>3. 各種講座内容の充実 利用者の声やアンケートから今年度新たに『父親講座』『みんなで遊ぼう』を行う。『父親講座』は『お父さんと遊ぼう』と題し、年2回はセンターの中で父子での遊びを中心にし、1回は講師を招き、公園で秋の自然に触れ合いながら、遊びを楽しむ。大変好評で、回数を増やして欲しいという意見も聞かれた。</p> <p>4. 地域住民に対して子育て支援活動への参加を積極的に働きかける 地域のボランティアが果たす役割はとて大きく、講座時の保育・ひろばでこどもと遊んだり、母親の話し相手になる・ハローみずべやフレンズクラブのような集いをスタッフと共に行なう・手作り工作を企画、準備、当日の進行をするなど、とても幅広くスタッフだけではできにくい部分を一緒に担ってくださっている。また、亀戸出張ひろば・大八ひろばは遠方の方々に喜ばれている。</p> <p>5. 児童館・学童クラブとの協力と連携</p>
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>1. 今まで不定期に行っていた遊具点検・設備点検を、担当者を決め定期的に行うようにする。また、環境設定についてもスタッフで話し合う。 2. ベランダのドアの開閉がスムーズにいかない所が何ヵ所もあり、緊急の避難に支障をきたす恐れがあるため、修理を依頼する。 3. 1階玄関（学童クラブと共用）のドアの固定金具の取替えを行う。 4. 冬季、加湿器を設置したり、ひろばに自由に使えるひざかけを用意し寒さ対策を行う。</p>	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 1028人 ・子ども延べ利用者数 15592人 ・親子延べ合計数 29252人 ・相談件数 831件 ・リフレッシュひととき保育登録者数 326人 ・リフレッシュひととき保育利用延べ人数 711人 ・ボランティア登録者数 54人（参加延べ時間数 1614時間） ・総登録者数 7381人 ・親延べ利用者数 13660人 ・体験学習事業参加者数 4358人
<p>主な行事・活動報告</p>	<p>母親講座 お母さんの元気講座（3回） 離乳食講座（3回） グループ懇談会（連続講座3クール） 助産師さんを囲んでのグループ相談（8回） 助産師個別相談（6回） ベビーマッサージ（11回） おはなし会（月3回）・大きい子のおはなし会（4回）・クリスマス会・避難訓練 夏季の水遊び・手型足型・ハローみずべ・青空ひろば・父親講座・みんなで遊ぼう 誕生会・すこやか成長記録・ふたごちゃんの集い（3回）・フレンズクラブ 入園おめでとうの集い・手作りおもちゃ・幼稚園について先輩ママと話そう みずべ会議・手作りサークル・リサイクルひろば 亀戸出張ひろば・大島8丁目ひろば ボランティア会議（3回） ボランティア感謝会 中学生ボランティア・小学生ボランティア</p>	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 1名 ・子ども家庭支援ワーカー（リーダー） 1名 ・地域支援ワーカー 1名 ・子ども家庭支援ワーカー・一時保育担当 1名 ・非常勤ワーカー 1名 ・専門相談員（月1回） ・スーパーバイザー

2009（平成21）年度 事業報告

施設名：江東区深川北子ども家庭支援センター

記入者：佐藤貴子

指定管理

深川北

事業の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・深川北子ども家庭支援センターの歩みも立ち上げから6年が終わり、指定管理も5年のうち4年が終わる。 ・「地域にひろめよう、深めよう、つなげよう」ということを大切に、利用者・ボランティアと共にこの1年歩んできた。 ・地域の人々がみずべで出会い、子育て・家族・自分自身のことなどを話し合ったり、励ましあったりしながら子育ての輪が広がり、仲間がつくられてきている。また、利用者のいきいきとした自己発揮の場になっている。 ・ひろばは、親子だけにとどまらず、子育て中の家庭をあたたく見守りたいと思うボランティア、子育て支援を勉強したい学生、学童クラブのこどもたちや地域の小学生など、たくさんの人がさまざまなかたちで参加され、交流の場、ふれあいの場となってきている。 ・リフレッシュも含め理由の如何にかかわらず利用できる、「リフレッシュひととき保育事業」を開始し2年目に入る。利用者からも、区からも喜ばれ、よい評価をうけている。 ・リフレッシュひととき保育の支援士講座修了者実習を「みずべ」にて受け入れ、ひろばでのあずかり保育の協働を行うことにより安心、安全が実行される。 ・今年度3月で年間、延べ423人の親子に出産と誕生をお祝いするカードを渡し、こどもの誕生を地域みんなで喜ぶことができた。 ・区内の関係機関である幼稚園、保育園、児童館、小学校、保健所、児童相談所、福祉課、民生委員等との情報交流、連携をし、関わりすすめている。10月地域情報交換会を開いた。 ・小学校、中学校との関係者会に参加しこどもとその家族の支援のネットワークを強める。 ・江東区内に5つのセンターがオープンし、それぞれのセンターと連携、協力し地域の親子が安全で安心、大切にされていると感じることのできる場を目指し、地域の方々や主任児童委員、民生委員とともに、こども達が心身ともに健やかに育つ街、社会をつくっていく 	<p>*ひろば活動事業*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲柱社基本理念、子ども家庭支援センター事業目標を基にし、来所した親子や、ひろばでの触れ合い相談を丁寧を受けとめ一緒に考える姿勢を心がけてきた。また、みずべ基本理念である共育、共創、共有、共生を考えあい、話し合ってみずべに集う仲間と助け合い、支えあって一年歩んでくることができた。 ・乳児期の子育てを家庭の中に閉じこもることなく、開かれた多様な人との関わりの中で、こどもの育ちを見守り支えあい喜びを分かち合えるひろばづくりを目指してきた。スタッフはひろばでこどもたちや親と場を共有し、こどもや親の思いを感じ取りその事を伝え合い受けとめていくことを大切にしてきた。 ・センター活動を、利用者、ボランティアと共に考える「みずべ会議」を実施し、みんなで創るひろばを目指して活動を続けてきた。 <p>*相談活動*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろばでのふれあい相談で気軽に相談ができるような関係を築いてきた。 ・深刻な状況にある相談者はあらゆる問題が重なっていることもあるので、総合的に広い視野を持ってサポートしていくようにした。 ・相談者が必要としていることは何かを見極め、センターだけで全てを抱えるのではなく、自分たちができることを考え、必要に応じ各専門相談につなげたり、保健所と連絡を取ったり、それぞれの親子に合った対応を考え、すすめていくことを大切にしてきた。 																											
	環境・修繕の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のお誕生日会のお祝いのお花をお母さんが活け、喜ばれている。 ・冬季室内が乾燥する為加湿器を設置。 ・廊下掲示板の増設。掲示物の整理、明確化。 ・2階学童クラブ室を借りて毎月のグループ懇談会やベビーマッサージ等が充実してきている。 ・利用者アンケートを実施（2月）。利用者のさまざまな声を聞く事ができた。 ・多くの人が参加できるようなプログラムを企画、実施してきた。 ・プログラムを目当てに参加者が増えてきている。利用者の要望でおもちゃ拭きタオルを設置した。 ・ひろばで、こども自ら遊びたくなるように、遊具の充実、コーナー設定を工夫し、環境を整える工夫をした。 ・館全体が古いので、備品の故障や水漏れ等があり、安全管理面での点検に注意して、整備を行った。 ・センター周囲の木々については、安全、清潔面を考え、スタッフが毎日清掃を行い、状況により剪定も行った。 ・防犯カメラを設置した事で不審者対策、また利用者の外での動きが把握でき、安全管理をしていく事ができるようになった。 ・また、玄関入口に人が出入りすると音がするものを取りつけた。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>今年度</th> <th>前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>545名</td> <td>546名</td> </tr> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>11,253名</td> <td>11,274名</td> </tr> <tr> <td>・親延べ利用者数</td> <td>10,153名</td> <td>10,134名</td> </tr> <tr> <td>・親子計</td> <td>21,406名</td> <td>21,408名</td> </tr> <tr> <td>・相談件数</td> <td>352名</td> <td>480名</td> </tr> <tr> <td>・体験学習事業参加</td> <td>2,988名</td> <td>3,054名</td> </tr> <tr> <td>・ボランティア登録数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>参加延べ時間 大人 257時間 子ども 284時間</td> </tr> </tbody> </table>		今年度	前年度	・新規登録者数	545名	546名	・子ども延べ利用者数	11,253名	11,274名	・親延べ利用者数	10,153名	10,134名	・親子計	21,406名	21,408名	・相談件数	352名	480名	・体験学習事業参加	2,988名	3,054名	・ボランティア登録数				
		今年度	前年度																										
・新規登録者数	545名	546名																											
・子ども延べ利用者数	11,253名	11,274名																											
・親延べ利用者数	10,153名	10,134名																											
・親子計	21,406名	21,408名																											
・相談件数	352名	480名																											
・体験学習事業参加	2,988名	3,054名																											
・ボランティア登録数																													
		参加延べ時間 大人 257時間 子ども 284時間																											
主な行事報告	<ul style="list-style-type: none"> ・父親・母親講座はこどもの育ちと大人の関わり方、戸外活動・親子ふれあい遊び等を学びあう事ができた。 ・自主活動のケーキサークル、英語で遊ぼう、お話し会・歌って遊ぼうなどのお母さん方のプログラムが定期的に行われ、子育てしながら自分の持てる力を発揮できる場となっている。中でも、「うたってあそぼう」はスペシャルを1回開催し地域のホールで多くの地域の方が訪れ楽しいひとときを過ごした。みずべのアピールの良い機会となった。 ・あそびワーク（年5回）⇒季節の遊びを取り入れての室内での遊び、制作したものの展示などが喜ばれている ・誕生日会（毎月第3土曜）⇒誕生日にお祝い。誕生カードに家族からのメッセージを頂く。 ・パパと遊ぼう（隔月）⇒普段来所の少ない父親の参加を呼びかけ、カプラや昔遊びなどを楽しむ会。 ・すこやか成長記録（毎月）⇒月末の4日間、身長体重測定および成長を親子、スタッフ共に喜びあう ・グループ懇談（連続4～5回、年2回開催）⇒母子分離の中で、0～3歳のこどもに関して育児の中でのいろいろなことを分かちあう。 ・助産師さんとの懇談（毎月）⇒主に0、1歳児の生活、健康について出産前後のお母さんの健康について話す。 ・あおぞらひろば（毎月）⇒森下公園に出かけて、体を動かして思いきり遊ぶ。年3回は、法人内の神愛保育園と一緒に企画、実行 ・季節の行事⇒利用者と協働しながら、ファミリーデー、七夕、クリスマスのつどい、入園おめでとうのつどいを実施。 ・みずべ会議（年5回）⇒利用者、ボランティア、スタッフとの運営会議 ・学童クラブとの交流⇒秋まつり、おみせやさんごっこ、クリスマス等だけでなく、毎月1回のここにこひろばや普段の日常的な交流は、学童児、みずべのこどもたち双方にとって良い刺激となっている。 ・講師によるベビーマッサージ（月1回）⇒親子の触れ合いや親同士のリラクゼーションの時をもっている。 ・ハンドマッサージ（月1回）⇒お母さんの手のケア、また話を聞いてもらう事で心のケアとなっている。 	<p>*職員*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 ・子ども家庭支援ワーカー兼、地域活動ワーカー ・子ども家庭支援ワーカー ・保育ワーカー ・子ども家庭支援ワーカー <p>*専門相談員*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達相談 ・心理相談 ・家族問題相談 ・助産師さんとの懇談 <p>*スーパーバイザー*</p>																											

<p>事業の総括</p>	<p>ひろば活動 今年度新型インフルエンザの流行時には乳幼児期の子どもが多いひろばの来所に少なからず影響があった。予防接種が受けられるようになった年明けからは冬の時期にもかかわらず 100 組近い来所の日が続く。従来の子育てに関する話のほかにリストラで夫が転職したり、家計の大変さが話題になることも多く、若い世代の家庭にも社会状況が大きく影響していることを実感する。「みんなでつくろうみんなのひろば」のキャッチフレーズは浸透しており、みずべ会議や自主サークルの活発さに現れる。リフレッシュひと時保育事業も軌道にのり家庭支援士の増加により日に 10 名ほどを預かる体制が出来てきた。育児支援サポート後の支援として、また要保護家庭の支援としての利用ケースも多くあった。預かり保育の手段があることで相談活動にも具体的な支援をもてることの意義は大きいと実感する。</p> <p>相談活動 専門相談—発達相談は保育園、幼稚園在籍児の相談が多く両親で相談に来られる方が多い。また相談後、医療機関だけでなく、療育機関に紹介するケースもあった。また家族相談では継続して受けられるケースが増え、婦人相談や DV 相談に繋げるケースも多くあった。</p> <p>虐待相談事業 指定管理であるセンターが、虐待通報の窓口と対応をすることでの区との役割分担が年々明確になってきており、重篤なケースについては区の担当課との連携が一層密になっていることを実感する。東京ルールの実施に伴い、区、児童相談所、センターでの話し合いがなされる。子どもショートステイ実施に向け、4 月から区、母子自立支援施設センターの 3 者で準備作業をする。9 月実施以降も毎月 3 者での打合わせ会議を行う。要保護家庭の利用が多く判定会議を要するケースが多く合った。育児支援サポート事業については今年度から 5 回の利用を試行として行なう。</p>	<p>センターが開所して 4 年。毎年職員が増員され、今年度は新たな事業「子どもショートステイ」の受け付け業務で 1 名の配置。ひろば職員の非常勤職員の増員 1 名があった。集いのひろば活動のほか事業内容も年毎に広がっている。そのことは同時に来所者数の増加、相談受理数の増加に繋がり、多くの親子、様々な家庭事情の人たちとの出会い、関係機関との繋がり増加をもたらしている。ひろば活動に関しては、継続して来所されている親達自分たちにできることを模索し、積極的にひろば作りの一員として力を発揮してくれた 1 年だった。親同士のつながりが創られていくことは、子ども達にとっても多くの人たちに守られている感をもつ事ができ、力を発揮する安心の広場となっていることを感じる。</p> <p>子どもショートステイ 今年度 9 月から区からの委託事業として子どもショートステイの受付業務を行なう。(子どもの宿泊実施施設は母子自立支援施設) 出産、入院時の利用要件以上に、虐待、ネグレクトケースでの利用が多い。一時保護が困難なケースが子どもの安全確保や親のレスパイトとして繰り返しの利用も多くある。今後も要保護家庭の利用が増えていくと予想されている。</p> <p>児童虐待ホットライン 昨年度に続き年度途中で虐待対策ワーカーが産休、育児休職に入ったため、他センターの職員が年度途中の対策ワーカーとして異動。1 ヶ月間の引継ぎ業務期間を設けるが、2 年続く途中引継ぎは継続ケースが多くあることから課題が残る。近隣からの通報の増加、ネグレクトの疑いの通報が多くなり、家庭訪問の機会が多くなる。複雑な家族状況や複数の関係機関が関わる必要なケースも増えてきている。児童相談所への援助要請も積極的に行い、区への相談、月 2 回のスーパーバイザーの参加によるケース検討会支援のあり方を考えるには非常に貴重な機会となっている。</p> <p>・ホットライン受理数 154 件 ケース会議開催回数 52 回・育児支援サポート事業利用 57 件</p>
<p>環境・修繕の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夏の日陰対策—砂場テント・ゴーヤグリーンカーテン 夏季の暑さ対策—ひろば扇風機設置 火災非常時排煙窓の常時利用を止め、窓に柵を設置 冬季対策—ホットカーペット、加湿器 トイレつまり修繕 	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規登録者数 1,299 名 (総登録者数 6,832 名)・子ども延べ利用者数 21,011 名 相談件数(虐待ホットライン含む) 新規 670 件 延べ相談件数 7,574 件 子どもショートステイ 利用子ども数 29 名 リフレッシュひと時保育 新登録者数 416 名(累計 1,327 名) 利用延べ人数 1,625 名 ボランティア登録者数 58 名(参加延べ人数 333 名) 他小中高生ボランティア延べ 96 名参加
<p>主な行事報告</p>	<p>(母親講座) ベビーマッサージ(隔月—6 回)、おもちゃ病院(1 回) 助産師の個別相談(6 回) (助産師講座) 女性の身体健康講座(2 回) (父親講座) 離乳食講座(2 回)・お父さんのベビーマッサージ(1 回) (グループ懇談会) 13 回(2 クール) (助産師によるグループ相談)(毎月 1 回)(すこやか MANDAY) 一障がいを持つ子どもとお母さんの集い(毎月 1 回)(保育園幼稚園入園を控えての懇談会—各 1 回)(双子ちゃんの会—2 回) (お誕生日会)(すくすく成長記録)(夏季水遊び)(おはなし会—毎週 1 回)(クリスマス会) (めだかクラブ) 折り紙教室・ハンド、フィットマッサージ・お父さんのベビーマッサージ・親子でおやつ作り・お茶会(母の輪タイム—2 回) (自主活動) —みずべ会議(6 回) 分かち合いリサイクルバザー・入園おめでとうの会・3 歳児あそび隊・図書委員会・母親コーラス「うたい隊」 ボランティア感謝会(5 支援センター合同)</p>	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> センター長 子ども家庭支援ワーカー リフレッシュひと時保育 児童虐待対策ワーカー 専門相談員 スーパーバイザー

<p>新たな指定管理の中で 2009 年度の事業を展開してきた。初年度から最終年度にかけて徐々に小平市子ども家庭支援センターの業務内容に求められるものが変化してきた。2009 年度には、それが顕著になってきている。要件を満たすためスタッフの資格や配置は充当させてはきているが、この要求をどこまで受けていくのか、公設民営の立場での先駆型対応についての検討を早急にしたいと願う。</p>	<p>1. 広場事業 ○安心安全の居場所としての広場運営を行ってきた。 親子が共にゆったりと過ごせる場が、いかに必要かを実感させられている。親しみ信頼されているのには、開所からのスタッフが残っていることが大きい安心になっていると考える。 こうした配置ができるのは民間ならではと思っている。広場の相談員にベテランの子育て支援者が置けるのも雲柱社ならではの工夫の出来ている事なので、これからも人材を確保していきたい。 広場での親子の遊び、子ども同士の遊び、親たちの出会い、学びあいの効果の大きさは見てきたことではあるが、これも、さりげなく介入するスタッフの役割は大きい。広場を継続利用しながら数年経ってやっと相談のできる方もいる事を思うと同じ体制の取れてきたことは評価されて良いと思う。 （公設公営の中には広場が人の交代で混乱していると云う事を見聞きする。サービスを提供する立場からも全員交代のようなことは避けたほうがよいと考えるが、やむを得ない事情があるのだろうか、その点考慮できるのが雲柱社の運営としては有難い） ○また、各センターの運営経験が長いので、それらの経験者の情報共有化、各センターの交換研修等により、各センターの良さを体験することで、雲柱社の広場の良さがより生かされることを考えたい。 ○スポットタイムのあそび、季節のお楽しみは今年度で終わる。 広場の親子と季節感等を共有してきたが、全体の業務の見直しの中で残せないと判断した。 相談機能がスタッフの人数を必要とするのであるなら、広場事業の見直しをして、より先駆型としての機能を充実させてほしいとの市の担当者からの伝達があった。親たちに伝えたいもの親子と共有したいものは、これからは工夫していきたい。次年度は他のプログラムの中に組み込む等をして、単に縮小の印象は免れたい。 ○これからの広場の展開は、親たちもプログラムに参加するという方向性を持ちたい。</p> <p>2. 体験学習 ○ふれあい体験：日頃は乳幼児が中心のセンターであるが、中高生まで参加の体験学習ができていた事は、とても有意義な事であった。普段の日も立ち寄ってくれる大きい子ども達との交流をこれからも考えたい。 市の判断としては、この事業は次年度には児童館に移管するとの申し渡しであるが、子家センとしては児童館も巻き込んだの異年齢交流があってもよいのではと考えている。その点でこれからは児童館情報もキャッチしていかななくてはならない。0 歳～18 歳までの対応が、問題児ばかりの関わりでなく、緩やかな関係性の中で互いを認識していける事は大切であろうと考える。親世代になって相談に来るのではなく、それ以前に共に育ちあっていくことが大切と思わせられている。 ○各年齢講座、講習会等は子家センの相談員の協力で今年度も予算が付かない中でもやり抜くことができた。 ○NP（ノーバディーズパーフェクト）は、今年度は対応できなかった。虐待防止センターの協力により CSP（コモンセンスペアレンティング）講座（6 回）をすることができた。</p> <p>3. 相談事業 いままでは乳幼児が多かった相談が、今年度は中高生の相談が非常に多くなった。その分センターを頼ってくる子どもが増えて時間外の対応になることも多くなり、相談スタッフの超過勤務になってきている。 精神的疾病、家族問題、貧困、虐待傾向家族（世代間連鎖）、親子ともに発達課題を抱えている不全家庭、問題が山積みになっていく中で、市の関係機関との連携、どのようにサービスを提供できるのか、スタッフの相談員としての力が試されることばかりである。（市の機関からも一目置かれもしているスタッフであるが）今年度は週 1 回（木曜日の午前中）の、支援方針会、受理会を行いケースの共有化、支援方針の検討を行っている。ケースの整理の仕方、パソコンでのケースの進行確認等を整備しつつある。 月 1 回は虐待ケースのスーパーバイザーに入ってもらったケースの検討もしてきたが、今年度は精神科医に入ってもらえず、スタッフの負担を軽減できなかった。次年度の早急の課題である。 虐待対応としては、児童相談所が後方支援に引いたことで、子家センがやらなくてはいけないケースが増えたが、江戸川問題等で東京ルールが流動的な時期で年度が変わろうとしている。小平子家センとしては、機能をフル回転して対応してきているが、人手不足は事実である。民間としての努力だけではやり抜けないものを、どうクリアしていくかに迫られている。専門性に立つ対応の重要性を認識してもらい処遇の改善、人員増を訴えていきたい。</p>	<p>＜目標＞ ○地域の中で子ども達を見守り育てていく視点（関わり）の重要さを、ひしひしと感じさせられている。 神に愛される故に、神を畏れ、神に依って一人ひとりが生かされている事を真摯に受け止める事なしには支援は、し難いものと思わせられる日々である。 ○一つの機関の限られた人数が八方手を尽くしても、やり抜けない現状を打破していく為にも、地域の協力者を増していくことが必要と考えさせられている。（守秘義務遵守の中での動きとなるのは当然であるが） ○複雑化、問題化していく子育て支援の現状がある。いつの時代にも弱い立場の子ども達を守っていくことは、雲柱社としてのやるべき仕事と考える。先駆型への対応がどこまでやれるのか、どこまでやってよいのか、迷いながらの関わりでもあったが、誰かが支えなくてはならない、虐待問題も誰かが支援していかななくてはならないとするならば、それは雲柱社のなすべき事ではないかと思ひ至る年度でもあった。問題の背景には貧困あり、成育歴に親世代からの問題あり、発達障害児を育てる親にすでに発達上の問題があり、これらを支える専門性をどこが持ちうるのかと問いたい。これらを支えうる専門的分野、SW、ST、医療的ケアの必要性とより多くの支援策の持てる法人で有る事を願う。</p> <p>＜方針＞ ○広場での利用者同士の関わり、体験はほぼ援助の目的を達成しつつあると思うが、こうした健全育成が現代の問題を予防する大切な支援のベースになると考える。広場の重要性は雲柱社の子家センの中心である。 ○父親の参加は横ばい状態であった。伸びない原因は父親の就労や生活サイクルに原因があるのか、相談機能に戦力を割いてしまい分析に至っていない。次年度は 2 回の父親講座を開催することでアピールしていきたい。 ○相談は充実してきている。広場と専門相談もケースを補完しあっている。経過をたどりつつ改善を見守る。 ○虐待防止機能の強化、要保護児童対策協議会、実務者会の充実が図られ、関係機関との連携も強化されつつある。 特に学校からは頼りにされる子家センになっているが、要望の多い分人手不足が大きく問題となってきた。次年度の 1 名増は決まっているが、ケースの増加に追いつかないことが予想されている。その分を市の他機関とどう連携し、補充しあっていけるか、子家センターとして工夫していかななくてはならない。 ○多くの問題ケースを抱えるワーカーの負担感をどう支えていけるか、管理職の課題となっている。 今年度は個人の訴訟保険についての対応を検討しつつあるが次年度持ち越しとなる。</p> <p>○相談室の音量漏れの心配があり、年度末になって子家センとして防音カーテンを設置した。これで防げるものではないので、さらに工夫をしていきたい。 ○人数 1 名増員を事務所に工夫して入れるよう机を設置して次年度スタートの準備をした。 ○広場としては大きな見直しはなかったが、玩具等は清潔に管理し、マンネリ化しないように工夫してきた。 手作り玩具、手作り名札等のキットを子育て相談室の協力もあって整える事ができた。</p> <p>年間利用者数</p> <table border="0"> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>605 組</td> <td>・総登録者数</td> <td>4,577 組</td> </tr> <tr> <td>・年間子ども利用者数</td> <td>5,496 人</td> <td>・年間利用者数</td> <td>4,548 人</td> </tr> <tr> <td>・新規相談件数</td> <td>991 件</td> <td>・年間相談数</td> <td>3,386 件</td> </tr> <tr> <td>・講座体験学習参加人数</td> <td>講座 856 組 ふれあい体験 213 人</td> <td>・のびのび成長記録利用数</td> <td>393 人</td> </tr> </table> <p>人事報告</p> <table border="0"> <tr> <td>センター長兼ワーカー</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>虐待対策ワーカー</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>地域活動ワーカー</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>ワーカー</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>広場ワーカー</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>専門相談員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スーパーバイザー</td> <td></td> </tr> </table>	・新規登録者数	605 組	・総登録者数	4,577 組	・年間子ども利用者数	5,496 人	・年間利用者数	4,548 人	・新規相談件数	991 件	・年間相談数	3,386 件	・講座体験学習参加人数	講座 856 組 ふれあい体験 213 人	・のびのび成長記録利用数	393 人	センター長兼ワーカー	1 名	虐待対策ワーカー	1 名	地域活動ワーカー	1 名	ワーカー	2 名	広場ワーカー	1 名	専門相談員		スーパーバイザー	
・新規登録者数	605 組	・総登録者数	4,577 組																													
・年間子ども利用者数	5,496 人	・年間利用者数	4,548 人																													
・新規相談件数	991 件	・年間相談数	3,386 件																													
・講座体験学習参加人数	講座 856 組 ふれあい体験 213 人	・のびのび成長記録利用数	393 人																													
センター長兼ワーカー	1 名																															
虐待対策ワーカー	1 名																															
地域活動ワーカー	1 名																															
ワーカー	2 名																															
広場ワーカー	1 名																															
専門相談員																																
スーパーバイザー																																

2009（平成 21）年度社会福祉法人雲柱社 上池台児童館 事業報告

記入者 秋山 幸美

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	その他																																																	
事業の総括	<p>昨年度は、活動時期を短く設定したが活動への関心やニーズも多いため、今年度は活動回数を元に戻した。さくらんぼクラス、りんごクラスの参加者の減少は、昨年度の後半の人数の減少から引き続いており、その人数の回復ができないままになってしまったことが大きな反省点である。こいちご、いちごクラスの参加人数は多かった。プログラムの充実、丁寧な対応を来年度は心がけていきたい。</p> <p>母親向けのプログラムを計画していたが、年度後半は、職員の交代もあり実施することが出来なかった。</p> <p>夏休みの特別プログラムは、参加も多く、夏休みの居場所を求めている親子が多いことが分かった。</p>	<p>今年度は、当初待機児が多く、2学期の途中まで学童を待っている方がいた。</p> <p>各学年授業時間数が増えたため、お楽しみ会などを計画していたが、学童としての一斉のプログラムが組めなくなってしまった。帰り時間も遅く、遊びで発散することも出来ずにいる子どもも多く、メンタル面でのケアを大切にしてきた。</p>	<p>授業時間数が増えることで来館者数が減る予想を立てていたが、わずかな放課後を利用して児童館に足を運ぶ子どもが多かった。低学年は、「だいだらぼっち」の参加者を中心に（特に1年生）児童館を拠点に、放課後の遊びを展開していた。学童を卒業した4年生が、ほぼ毎日来館し、家庭に代わる場、友達との遊びの場として児童館を利用していた。地域の家庭にとって、子どもたちの居場所としても機能が認知されてきた表れかもしれない。</p> <p>高学年活動（KEC）をスタートさせた。プログラムの展開には課題が残ったが、今後の高学年活動への足掛かりとはなった。</p> <p>夏以降の新型インフルエンザの影響で、野外活動の多くを中止にした。</p>	<p>年度当初は、中学生になっても児童館を利用する中1を中心に利用者が多かったが部活が本格的に始まると徐々に来館者が減っていった。一方で、部活の行き帰りに立ち寄ったり児童館に定着した中学生もおり、彼らの居場所となっているようだった。</p>	<p><ボランティア活動> GGNのギフトバック活動にクリスマスに全館で取り組めた。</p> <p><自然体験活動> 高学年サマーキャンプを含め多くのプログラムを、新型インフルエンザの流行のため中止とした。</p> <p><全館行事> こどもの日スペシャル 119名 夏まつり 732名 クリスマス会 79名 冬まつり</p> <p><野外活動行事> 低学年デイキャンプ 年3回 92名 高学年デイキャンプ 年4回 84名 高学年キャンプ 年1回 10名</p> <p><合同行事> 交流フェスタ in 代々木公園 交流ドッジフェスタ</p> <p><その他> STEP活動として、世界の子ども達に目を向けることを目的とした活動を行う。 （参加者6名）こどもたちとギフトバックを届けることを最終目標としていたが参加者がなかったため、法人の補助を受け職員2名で届けた。</p>																																																	
活動・行事報告	<p><グループ活動> 別表参照 <行事> こども服リサイクル 年2回 計109名 夏プログラム 3回 計293組 夏幼稚園プログラム 3回 73名 各クラスクリスマス 155組 ※講座は各クラスで実施</p>	<p>入室式 水遊び 洗足池公園遠足 ハロウィン お楽しみ会、お店屋さんごっこ、ロッカー清掃（各月1回） 駄菓子屋さん（月2回） 保護者会（年4回） 個人面談（年2回）</p>	<p><低学年活動> だいだらぼっち（各学年年間25回） <高学年活動> 高学年のグループ活動として「KEC」活動を展開した。 <スポーツ活動> 区民センター利用日（毎月1回） <文化部門> 手作り、料理教室、手芸教室（DVDシアター） <その他> 夏休みプログラム</p>	<p><中・高生タイム> 月～金曜日 18時～19時</p>																																																		
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>119</td> <td>116</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>2、3歳児</td> <td>41</td> <td>50</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>220</td> <td>236</td> <td>456</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児	119	116	235	1歳児	60	70	130	2、3歳児	41	50	91	計	220	236	456	<p>(在籍数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>42</td> <td>39</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2010年3月)</p>	学年	男	女	計	1年生	13	25	38	2年生	16	9	25	3年生	13	5	18	計	42	39	81	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>7606</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>19058</td> </tr> <tr> <td>中高生</td> <td>2100</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>7618</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36382</td> </tr> </tbody> </table> <p>(学童出席者含まず)</p>	乳幼児	7606	小学生	19058	中高生	2100	一般	7618	計	36382	
クラス名	男	女	計																																																			
0歳児	119	116	235																																																			
1歳児	60	70	130																																																			
2、3歳児	41	50	91																																																			
計	220	236	456																																																			
学年	男	女	計																																																			
1年生	13	25	38																																																			
2年生	16	9	25																																																			
3年生	13	5	18																																																			
計	42	39	81																																																			
乳幼児	7606																																																					
小学生	19058																																																					
中高生	2100																																																					
一般	7618																																																					
計	36382																																																					

2009年度雲柱社事業報告書

施設名:小金井市子ども家庭支援センター
 小金井市ファミリーサポートセンター
 記入者:宮澤陽子

事業の総括	<p><子ども家庭支援センター></p> <p>① ひろばの利用人数は、新型インフルエンザの影響があり、前半は例年比で少なめであったが、却って冬が多めであった。小さい子どもの集まる施設なので感染症の流行に影響を大きく受ける事を例年にも増して実感させられた。それと同時に、適宜市と連絡を取り合い対応をとること、スタッフや利用者へ周知を図ることが感染症対策には必要であると再確認した。</p> <p>② 相談については、面接相談が増えている。逆に事業数の増加により、ひろばで拾える相談が減ってきてしまっているように思う。それぞれの事業の中では、気になる親子を拾えているがその後のフォローが遠い地域の人は難しい。健康課の健康診査や児童館との連携はきちんとした枠組みの中で進んでおり、次年度の更なる連携へ期待が持てる。また、ひろばのあり方を初心に戻るつもりで確認しつつ、ミーティング等で支援方針を話し合ったり、研修でスタッフの相談の力量を上げていくことが求められる。</p> <p>③ 講座・育児教室・グループ等は、今の親子の様子を見ながらニーズと親子関係の課題を意識して組み立ててきた。それについては行政、市民に一定の評価をもらっている。だが、子ども家庭支援センターという役割上センターの中だけでは充分とはいえず、地域全体を視野にいれ、外に出ていくことを求められている。そういう期待は運営協議会や次世代育成プランの策定の際に語られる。市全体のネットワーク事業について、今後は子ども家庭支援センターを中心に体系づけられていくのではないと思われる。要保護児童対策地域協議会とは別の幅広い子どもに関係する機関・団体が子育て支援・虐待の予防という目的のもとにネットワークを組む。その際の中心機関が子ども家庭支援センターとなる。発達支援の遅れている小金井市としては、発達支援のネットワーク作りの中核も子ども家庭支援センターに期待がかかり、市職員にもどこまでの役割を果たすべきなのか戸惑いが見られる。市と民間の委託部分がどう役割を取り合って、ネットワーク事業を構築していくのか、市の方針を見つつ話し合い、課題を整理していかなければならない。</p> <p>④ 要保護児童対策地域協議会の実務者会議に今年度までは委託部分の責任者は出席していなかったが話し合いにより出席が必要ということで次年度は出席することになった。要保護児童対策についての認識もスタッフ一同深めなければならない。</p> <p>⑤ 子どもの発達支援に関しての施策やサービスが遅れている小金井市では、子ども家庭支援センターが相談やひろばで一定の役割を担わなければならない現実がある。また、親の側の発達障害又はグレーゾーンの問題も多くあり、子どもはもとより大人の発達障害に関する知識や見立ても要求される。</p>	<p><子ども家庭支援センター></p> <p>環境・修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターの建物が老朽化しており、ドア付近の雨漏りははじめすぐに修理することが無理な不具合が生じている。委託の方で工夫しながらカバーをしていく必要は今後も続きそうである。利用者に迷惑がかからないように保健センターや子育て支援課とも話し合いや調整をしていかなければならない。 ・記録や事務書類の保管場所についてはまだ未解決なので子育て支援課と話し合いが必要。 ・ひろばで設置している柵などが破損してきている。一度にすべてを買い替える事は予算上できないため次年度から一か所ずつ買い替えていく。 																																											
	<p>事業の目標・方針の総括</p>	<p>・課題としては、支援センターブロックとしても施設としてもスタッフの育成が急務と感じている。ひろばや講座、育児教室等で気になる親子は増えており、親の発達障害を含むメンタルの問題や子どもの側の育てにくさによる子育ての困難さ、全体に広がる孤立感・不安感等難しい問題が山積みしている。年々親や子そしてその関係性を見る確かな目が必要とされてきている。外から見た「専門性」を持てるようブロック・施設・個人の研修に本気で取り組む時期にきている。そんな中で小金井子ども家庭支援センターでは、予定していた研修を行えなかった点が反省点である。次年度には、繰り越してしまった研修を実施したい。利用者の声に耳を傾け、時には問いかけ、向き合う。真摯な相談関係をつくること。親の傾向、子の発達、親子の関係性を見た上でのケースワーク、個と集団を組み合わせた支援、そんなことができるよう日々努力するスタッフの育成には、時間も予算もかかる。でもやっていかなければ社会福祉法人が子ども家庭支援センターやひろばを担っていく存在意義を問われてしまうのではないかという危機感を持っている。</p> <p>・異世代、違った立場の人との出会い、交流する場を子ども家庭支援センターもファミリー・サポート・センターも作りだすことができる。それは、中だけでなく、外でもできる。そんな可能性を持っている仕事ではあるが、視野を広く持たなければ計画も工夫も生まれない。まず、地域を知り、地域の人を知る意識を強く持つことが大事なのだと思う。</p>																																											
	<p><ファミリー・サポート・センター></p> <p>① ファミリー・サポート・センターのセンター長を次年度から子ども家庭支援センターと兼務できないことになり、アドバイザーの中から代表を出すことになった。これを生かして現場の方できめ細かい迅速な対応がより進めばよいと思う。</p> <p>② 活動の中に発達障がいの子どものケースが増えてきており、協力会員の講習に障がいのある子どもたちの支援を次年度から入れることにした。講師を小金井市特別支援学校や賀川学園から派遣してもらえることになり、そのことでまた連携先が広がることも嬉しい。</p> <p>③ フォローアップ講習を毎年、子ども家庭支援センターと共催で実施している。今年度は、インターネットの問題についてと北海道家庭学校の話テーマとした。インターネットの問題では、学校の先生や薬害防止の活動をしている方たちなど地域の幅広い方たちへ出席してもらえ、家庭学校の話は粕江の和泉児童館の館長にお願いし、法人の中での連携を深めることができた。この講習を共催で実施することでどちらかだけではできないような子どもを巡る広いテーマで、地域全体を対象とした講演会ができるいい機会となっている。今後も子どもと家族を取り巻く地域を対象とする地域福祉という視点で続けていきたい。</p> <p>④ 協力会員の交流会を初めて開いた。普段聞けない様々な意見を聞かせてもらいうい機会になり、活動の中での苦労もわかり、今後の活動の参考にもなった。ただ、今回は初回なのでよかったが続けて実施する場合、不満を言う場、依頼会員の批判をする場になってしまう懸念もあるのでそこに留意し、地域で親子を包んでいける雰囲気になる会にしていきたいと思う。ファミリー・サポート・センターの活動は広く、浅く、温かくということが大切なのではないかと思う。</p>	<p>年間利用者数</p> <p>○子ども家庭支援センター</p> <table border="0"> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>11,503人</td> <td>・相談件数</td> <td>新規</td> <td>648件</td> </tr> <tr> <td>・大人延べ利用者数</td> <td>10,334人</td> <td></td> <td>活動延べ件数</td> <td>1921件</td> </tr> <tr> <td>・延べ利用者総数</td> <td>21,837人</td> <td></td> <td>発達相談</td> <td>102件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>こころの相談</td> <td>75件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>助産師相談</td> <td>21件</td> </tr> </table> <p>・ボランティア</p> <table border="0"> <tr> <td>登録者数</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>活動実施回数</td> <td>204回</td> </tr> <tr> <td>参加者延べ人数</td> <td>443人</td> </tr> </table> <p>○ファミリー・サポート・センター</p> <table border="0"> <tr> <td>・協力会員</td> <td>110人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・依頼会員</td> <td>742人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・両方会員</td> <td>31人</td> <td>計883人</td> </tr> <tr> <td>・活動件数</td> <td>2647件</td> <td></td> </tr> </table>	・子ども延べ利用者数	11,503人	・相談件数	新規	648件	・大人延べ利用者数	10,334人		活動延べ件数	1921件	・延べ利用者総数	21,837人		発達相談	102件				こころの相談	75件				助産師相談	21件	登録者数	54人	活動実施回数	204回	参加者延べ人数	443人	・協力会員	110人		・依頼会員	742人		・両方会員	31人	計883人	・活動件数	2647件	
	・子ども延べ利用者数	11,503人	・相談件数	新規	648件																																								
・大人延べ利用者数	10,334人		活動延べ件数	1921件																																									
・延べ利用者総数	21,837人		発達相談	102件																																									
			こころの相談	75件																																									
			助産師相談	21件																																									
登録者数	54人																																												
活動実施回数	204回																																												
参加者延べ人数	443人																																												
・協力会員	110人																																												
・依頼会員	742人																																												
・両方会員	31人	計883人																																											
・活動件数	2647件																																												
<p>人事その他</p>	<p>○子ども家庭支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任者 ・子ども家庭支援ワーカー ・専門相談員 <p>○ファミリー・サポート・センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 ・アドバイザー 																																												

委託 小金井支援セ

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括		<ul style="list-style-type: none"> ・行事の準備や練習など、前年度以上に様々な場面で子ども同士のグループ活動を展開したことにより、行事以外の日常的な場面でも主体性を持って生活ができるようになった。 ・今年度、初めての行事として合宿を行なった。子ども達にとっては親元を離れ人間関係を深める場となり、保護者にとっては休息の時間になるなど、双方から好評をいただいた。 ・自然や科学と触れ合いながら友達同士楽しく過ごせるよう、遠足の回数を前年度より多く設けた。 ・保護者とは細かく連絡を取り合い、意見や要望は早急に学童運営の反映に努めた。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き保護者とはよい関係が保てるように、努力していく必要がある。 ・子どもたちの授業時間の増加に伴い、保育スケジュールの組み立てには今後さらに配慮していきたい。 																																																																																		
活動・行事報告		<p>・4月入会式・5月自然とあそぼう・6月遠足（雨天のため東京都児童会館）・7月夏祭り、観劇会・8月合宿、遠足・10月遠足、ハロウィンパーティ・11月自然と遊ぼう、ガムランの鑑賞会・12月クリスマス会、合同ゲーム会・3月お別れ会・お別れ遠足、江東北部ドッジボール大会</p> <p>定期活動：月1回 ゲーム会、にこにこひろば（深川北子育て支援センターとの交流事業）、さんぽ、避難訓練月2回 制作</p> <p>その他：ぬりえコンクール、こま週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会：5、7、12、3月 ・入会説明会3月・個人面談：10～11月中 																																																																																		
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス			0	1歳児クラス			0	2歳児クラス			0				0				0				0	計	0	0	0	<p>(在籍時数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	11	7	18	2年生	10	11	21	3年生	11	10	21	4年生	0	0	0	計	32	28	60	<p>(2009年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 _____ 日 ※1日平均 _____ 人</p>		男	女	計	乳幼児			0	小学生			0	中・高校生			0	一般			0	計	0	0	0	<p>(その他の事業、特記事項)</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス			0																																																																																	
1歳児クラス			0																																																																																	
2歳児クラス			0																																																																																	
			0																																																																																	
			0																																																																																	
			0																																																																																	
計	0	0	0																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	11	7	18																																																																																	
2年生	10	11	21																																																																																	
3年生	11	10	21																																																																																	
4年生	0	0	0																																																																																	
計	32	28	60																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児			0																																																																																	
小学生			0																																																																																	
中・高校生			0																																																																																	
一般			0																																																																																	
計	0	0	0																																																																																	

2009（平成 21）年度 雲柱社 児童館ブロック 大島四丁目学童クラブ 事業報告

記入者 永澤 和男

子育て支援活動	学童クラブ																							
活動・行事報告	<p>日常活動 一日の流れ<通常>：登室→宿題・自由遊び→オヤツ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→延長保育 <学校休業日>：登室→勉強→自由遊び・集団遊び→昼食→外遊び(室内遊び)→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→延長保育 「ビデオシアター」(雨の日) 「アイロンビーズ」(月1回) 「みずべボランティア」(月2回) 「食育の時間」(月1回) 「誕生会」(月1回) 「手芸」(冬季)</p> <p>延長保育 17～18時。どうしてもお迎えが間に合わない場合は個別に対応。1人帰りの児童は、新学期当初職員が途中まで付き添っていた。 延長保育では、静かに遊ぶことを心がけている。将棋やトランプなどのゲームをしたり、ぬり絵をやったり、オルガンを弾いたりする子が多い。「宝探し」と称して、小さい人形を一人が隠して、それをみんなで探すというゲームが大人気で、よくやっていた。</p> <p>おやつ バイキング方式(自分で、お菓子をお盆からお皿に取る)と、大皿方式(グループのみんなで、皿のおやつを取り分ける)を行う。ほぼ毎日、全員そろって決まったグループのテーブルで一斉に食べていた。昨年度に引き続き、月1回保護者の管理栄養士さんに来ていただき子どもたちに食育の話をしていただいた。 内容としては、袋菓子に偏らないよう、くだものや惣菜なども積極的に取り入れるようにした。季節の行事に合ったおやつを出すことにも心がけた。準備時に手に触れるものがある場合は、手袋をすることを徹底。衛生面の管理には十分に気を配った。</p> <p>グループ活動・誕生会等 日常的には、グループでおやつを一緒に食べ、テーブルの準備や片付けもしていた。また、折に触れグループ対抗のゲーム会を行い、その中で協力をするといい関わりをもてるようにした。 誕生会では、子どもひとりひとりに誕生日に手作りの王冠と、つりさげガムにチョコをつけたペンダントを渡す。みんなの前でインタビューも行った。また、誕生日の子の希望するおやつを出す「リクエストおやつ」を行なった。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション(4月) ぬり絵コンテスト(6月) 観劇会(7月) 遠足<科学技術館>・大八との交流<水遊び>(8月) ハロウィンパーティ(10月) クリスマス会・大掃除(12月) ぬり絵コンテスト 手芸タイム(2月) 卒室、進級を祝う会・城東地区ドッジボール大会・お別れ遠足<羽根木公園>(3月) ※毎月1回、食育の時間・ひよこ(買い物体験)・誕生会 ※毎月2回、みずべボランティア</p> <p>その他の活動 第1回保護者会(5月) 第2回保護者会(7月) 全家庭対象の個人面談(11月) 次年度入会説明会(3月)</p>	小学生活動 中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																					
登録者・来館者	学童クラブ (在籍児数) 20010.3 現在 <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>男</td> <td>女</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> </table>		男	女	計	1年生	8	6	14	2年生	5	4	9	3年生	0	5	5	計	13	15	28	(その他の事業、特記事項) 学童児の母親(管理栄養士)による食育の時間を、引き続き月に1回行った。「食」に関わる話を通して、家庭での生活が垣間見られる事もあった。ここでの学びを家庭に持ち帰り、さらに効果が上がることが期待できる。 また、みずべボランティアも継続しており、当日になると、子どもたちは喜んで参加していた。後半は新型インフルエンザの影響で中止とし、そのまま年度末を迎えてしまった。平成22年度は、みずべボランティアに関しては新しい形も模索し、関わり方を考えたい。このような環境を活かした活動をしていきたい。また、登録児童数が増えるため、その人数・状況に合わせた時間配分や活動内容を考えて展開していきたいと思う。		
	男	女	計																					
1年生	8	6	14																					
2年生	5	4	9																					
3年生	0	5	5																					
計	13	15	28																					

委託 大島四

事業の総括	<p>子育て支援活動</p> <p>◇初年度から、「誰でも自由に安心して来ることができる ひろば」というコンセプトの下に活動を行ってきた。来室した保護者には必ず声をかけ、日常の話から気になる子どもの様子まで、話したいことを自由に話すことが出来る雰囲気作りを心掛けた。友達が欲しいと希望する親子も多く、月齢や住所によって親子をつなげ友達づくりのサポートも行った。前年度から引き続き利用している親子が多数おり、新規の親子に積極的に話しかけ友達の輪を広げた。このことから、「ひろば」が地域に密着し、育っていることを実感できた。</p> <p>◇大島東地区・東砂地区には現在もマンションが増えていることから、「この地域に多くの乳幼児を持つ家庭があり、今後数年は確実に増加傾向にある」ということがわかる。また、地区を隔てていた川に橋が出来たことで広い地域からの利用があった。孤立しがちな集合住宅に住む核家族の母親同士のつながりを作るという意味からも、「地域のひろば」の役割が重要となってくる。</p> <p>◇年齢・月齢に縛られない自由な雰囲気を大事にしつつも安全面を考慮し、室内を「歩けない乳児」と、「歩き回って遊ぶ幼児」の二つのスペースに分ける。今年度は、1歳児の割合が多く、遊ぶスペースの設定が非常に難しかった。自分のこどもと年齢の違うこどもと一緒に遊んだり、母親同士でアドバイスをし合ったりと、異年齢親子の交流に繋がった部分もあった。また、地域の子育て情報の情報交換が活発に行われていた。</p> <p>◇多くの時間をコミュニケーションに割き、プログラムを強要するのではなく、和んだり、話したり、相談したり、ただ「居る」ということを受容するカタチが、今まで行き場のなかった親子に安心していただける居場所を提供することができたと感じる。固定されたプログラムを極力作らず、その分を職員が輪の中に入り、積極的にコミュニケーションをとっていった良さが出ていた。</p> <p>最後の手遊び・紙芝居に加え体操を行ったところ好評。家でのこどもとふれあうきっかけ作りとなっていたので、ふれあい遊びの提供を考えていきたい。</p>	<p>学童クラブ (分室)</p> <p>日常活動 一日の流れ<通常>：来室→宿題・自由遊び→オヤツ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅 <学校休業日>：来室→勉強→自由遊び・集団遊び→昼食→自由遊び・散歩(夏休みのみ昼寝)→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅 誕生会(月1回)・学年別グループ活動・ゲーム会・工作・手芸・季節の製作等</p> <p>延長保育 17～18時。残りの児童は、班で帰宅。方向的に一人帰りになってしまう児童は、可能な限り、職員が自宅付近まで送っていった。延長保育限定のプログラム有り(集団ゲーム、雑巾がけ、大八ひろば準備等)</p> <p>おやつ 個別包装で、準備時に手で触れない物を多用、触る場合は手袋をすることを徹底。衛生面の管理には十分に気を配った。内容的には、地域の商店街を利用し、出来る限りバラエティに富み、季節の行事に合ったおやつを出すようにした。</p> <p>グループ活動・誕生会等 月のゲーム会は生活班対抗。縦割り集団で協力し、達成する喜び・楽しさを感じられるよう設定した。誕生会は、ひとりひとりにカードと手作りのワッペンを準備。司会は3年生が順番で行った。 学年別グループ活動では、学年ごとに目標を設定し、その目標に向けてレクリエーションや製作・話し合いを行った。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション・お祝い会(4月)、ゲームおやつ・カブトムシ博士・けん玉週間(6月)、昼食会・観劇会・縁日へ参加(7月)、遠足・大四と交流(水遊び)・大八なつまつり(8月)、引取り訓練(9月)、ミニ遠足・大八ひろば招待・ハロウィンパーティー(10月)、スポーツタイム・勤労感謝の日製作(11月)、クリスマス会・大掃除(12月)カルタ大会、1年の目標(1月)、節分ゲーム会・将棋大会(2月)、江東区ドッジボール大会・お別れ会・小松川公園遠足(3月)</p> <p>その他の活動 保護者会(4月・7月)、個人面談(11月)、新年度説明会(3月)、個別相談(随時)</p>	小学生活動	中・高生活動																																					
	行事報告	<p>○日常活動 10:00 自由来室 ・ ひろば活動→11:25 片付け→手遊び・紙芝居・体操 →連絡事項・予定報告→11:30 ひろば終了→11:40 片付け→12:00 振り返り</p>	<p>(その他の事業、特記事項) グループ活動を多く取り入れた。縦割り班での生活・遊び・ゲーム会等を通じ、協調性・社会性を育むことができた。また、新たな取り組みとして学年別グループ活動を行う。各学年で目標を立て、目標に向けてレクリエーション等を行う。活動内にリーダー等の役割を作り、ひとりひとりの責任感や協調性を養うと共に、同学年同士の繋がりを強めた。学童クラブは、児童の放課後の居場所として、安全と安らぎを提供する場ではあるが、集団生活をする中での他者との関わり方や振舞い方、物事を達成する喜びを得られる、また心身ともに成長することのできる場所を目指していきたい。 保護者との関係は概ね良好。保護者会・個人面談・送り迎え時の日々の会話を通して、安定した信頼関係を築きつつある。2010年度は保護者からの意見・要望等を今まで以上に聞き、寄り添いながら今以上に、地域に密着したクラブを目指していきたい。</p>																																						
登録者・来館者	<p>子育て支援活動 (登録数) 2009.3 現在</p> <table border="1"> <tr><th>クラス名</th><th>計</th></tr> <tr><td>0歳児クラス</td><td>66</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>38</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>8</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td>4</td></tr> <tr><td>計</td><td>116</td></tr> </table>	クラス名	計	0歳児クラス	66	1歳児クラス	38	2歳児クラス	8	3歳児クラス	4	計	116	<p>学童クラブ (在籍児数) 2009.3 現在</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>男</th><th>女</th><th>計</th></tr> <tr><td>1年生</td><td>9</td><td>2</td><td>11</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>8</td><td>8</td><td>16</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>10</td><td>9</td><td>19</td></tr> <tr><td>4年生</td><td></td><td></td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>27</td><td>19</td><td>46</td></tr> </table>		男	女	計	1年生	9	2	11	2年生	8	8	16	3年生	10	9	19	4年生			0	計	27	19	46			
クラス名	計																																								
0歳児クラス	66																																								
1歳児クラス	38																																								
2歳児クラス	8																																								
3歳児クラス	4																																								
計	116																																								
	男	女	計																																						
1年生	9	2	11																																						
2年生	8	8	16																																						
3年生	10	9	19																																						
4年生			0																																						
計	27	19	46																																						

全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など

委託 大島八

2009（平成 21）年度 雲柱社 児童館ブロック 汐入小学童クラブ 事業報告

記入者 伊藤美智子

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	成人対象事業																
事業の総括		<p>* 汐入小学童クラブ、七峽小学童クラブ、汐入学童クラブで事業計画、予定表、お便り、おやつ等統一出来るものを整備し、計画、振り返り等で比較検討して互いにより良い活動を展開する様にした。合同遠足等で職員、子ども達の交流も大切に出来た。合宿、お出かけ等、個別の活動も大切に出来た。心地良い居場所作りとして環境整備にも力をいれた。町会の文化祭への作品出展、手話と歌の発表も喜ばれ、地域の方との良い交流の機会となった。汐入ふれあい館のスポーツタイム、観劇、クリスマス会等への参加で活動の幅を広げる。随時、個人面談を行い、日々の保護者との対話を心がける。</p>																			
活動・行事報告		<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 製作 読書 スポーツ 誕生会 お店屋さん：毎月 1 回 おやつ作り：毎月数回 お出かけ：汐入公園 水元公園 合宿：汐入ふれあい館 町会文化祭 南千住なかよし祭り参加 保護者会：年 4 回 個人面談：随時受ける。 (在籍数) 94 名</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 年生</td> <td>23</td> <td>17</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>2 年生</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>3 年生</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1 年生	23	17	40	2 年生	18	6	24	3 年生	13	17	30			
	男	女	計																		
1 年生	23	17	40																		
2 年生	18	6	24																		
3 年生	13	17	30																		

2009（平成21）年度 雲柱社 児童館ブロック 七峡小学童クラブ 事業報告

記入者 伊藤美智子

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	成人対象事業																
事業の総括		<p>* 汐入小学童クラブ、七峡小学童クラブ、汐入学童クラブで事業計画、予定表、お便り、おやつ等統一出来るものを整備し、計画、振り返り等で比較検討して互いにより良い活動を展開する様にした。合同遠足等で職員、子ども達の交流も大切に出来た。単独では汐入ふれあい館で七峡学童クラブの合宿を初めて行う。また観劇にも参加し、汐入ふれあい館を活用する事で経験の幅を広げる事が出来た。心地良い居場所作りとして環境整備にも力をいれた。地区の文化祭への作品出展、近隣学童クラブ・町会等合同の「子ども祭り」への参加、出店協力も喜ばれ、地域の方との良い交流の機会となった。2期から担当を入れ替える。随時、個人面談を行う等、保護者の思いを丁寧に汲むことを心がけたが更に力を入れていく。</p>																			
活動・行事報告		<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 製作 読書 スポーツ 誕生会 お店屋さん：毎月1回 おやつ作り：毎月数回 お出かけ：水元公園 汐入ふれあい館 合宿：汐入ふれあい館 父母会合同クリスマス会 荒木田文化祭 町屋こども祭り参加 保護者会：年4回 個人面談：随時受ける。 (在籍児数) 52名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年	7	8	15	2年	11	6	17	3年	11	9	20			
	男	女	計																		
1年	7	8	15																		
2年	11	6	17																		
3年	11	9	20																		

2009年(平成21年)度 事業報告書

施設名：練馬区立光が丘子ども家庭支援センター
 記入者：高橋真理子

<p>事業の総括</p>	<p>・事業開始の2年目として 2008年度4月より、新たにスタートした練馬区立光が丘子ども家庭支援センター、光が丘ぴよぴよ、光が丘ファミリー・サポート・センターですが、2年目に入る時点で主任が異動となり、一時預かりの担当も異動になるというスタートになった。そうした事情もあり、2年目ではあったが、再度、ひとつひとつ事業を安定化させ、積み上げていくこととした。</p> <p>・ファミリー・サポート事業のコーディネートをスタート 練馬区のファミリー・サポート事業は、利用者と援助者のコーディネートを地区のリーダーさんがおこなうというスタイルであったが、練馬区内で初めて、ファミリー・サポート・センターがコーディネートを行うという取り組みを光が丘でスタートした。当初受付時間等の短縮もあり混乱も予想されたが、担当者が丁寧な対応を重ねることで、利用者の方々からのご理解をいただき、反対に「すぐに連絡がとれるようになった」「対応が早くなった」という声もいただいた。</p> <p>・話し合いの課題 事業が展開するにつれ、トワイライトステイなども利用者が増加、反面、職員が顔をあわせられる時間も減り、全体が集まっての話し合いなどが不足してしまった。</p>	<p>事業目標の方針の総括</p>	<p>・より一層の受け手として 雲柱社の中では実施の無かったトワイライトステイを受託し、2年目となった。2年間行っている中では、要保護にかかる児童含め、多くの子どもの利用があった。子どもたちにとって夜の時間を安心して過ごす。そのことについてはよいラインを達成してきたと感じるが、反対に職員の体制等でみると、なかなか大変なシフト制となっており、今後ますます利用者が増加することが予想され、課題のひとつとなっている。</p> <p>・地域と共に 1年目から引き続き、主任児童委員さんとの定期連絡会出席をはじめ、公立保育園主催の子育ての輪にも参加、保育園の方々ともつながりがもてるよい機会である。また引き続き布の絵本の会から寄贈も受ける。反対にそれ以外の方々との交流が広げられなかったことが、ひとつの課題となっている。</p> <p>・利用者の参加性について 光が丘の子育てひろばでは、従前江東区でおこなってきたような、利用者が自ら参加し、作り上げていくというスタイルが弱く、いち「利用者」といった雰囲気になっている部分もある。今年度はノーバディズ・パーフェクト参加が事後の集まりとして、自主的なグループを形成、そのグループの活動にセンターとしてもかかわり、新たな一歩となった。</p>
<p>年間利用者数</p>	<p>ひろば 登録者数(子) 2,185名 利用数(延べ)子 14,613名 育児相談 215件 親 13,935名 一時預かり 登録者数(子) 400名 利用数(コマ延べ) 1,890回 トワイライトステイ 登録者数(子) 51名 利用数(延べ) 552名 ファミリーサポート 援助会員数 112名 利用会員数 1,412名 援助回数 6,578回 相談件数 80件(ひろばでの相談除く)</p>	<p>環境修繕の総括</p>	<p>・冷暖房が地域の排熱を利用した全館のシステムの為、時期が来るとストップしてしまう。冬場でも陽当たりがよく、暑い日もある。また風通しが悪く、空調の課題があったが、区と協議し、扇風機の設置をしてもらう。</p> <p>・環境の話題ではないが、ひろば内で3件盗難事件(置き引き)が発生し、利用者からひろば内に防犯カメラを設置したらどうかといった意見まで出された。利用者には貴重品は携行するようにと促し、スタッフも荷物置き場には注意をばらうようにする。</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>・スポットタイム第2・4火曜日 ・たんじょうカード(常時受付) ・すくすく測定(身体計測) 第2・4 木曜日 ・小児救急ミニ講座 日時：9/10(木) 10:30~12:00 講師：飯島医院 飯島 健志 先生 日時：12/17(気) 14:00~16:00 講師：日大医学部付属練馬光が丘病院 淵上 達夫先生 ・看護師さんに聞く 日時：7/16 12/15 年2回 講師：光が丘第9保育園 矢野 先生 光が丘第5保育園 山中 先生 ・栄養士さんに聞く 日時：9/18 2/2 年2回 講師：光が丘第7保育園 菊池先生 光が丘第9保育園 遠藤先生 ・ノーバディズ・パーフェクト 11/5~12/10 全6回 ファシリテーター 林田道子さん</p>	<p>人事その他</p>	<p>所長 リーダー 子ども家庭支援ワーカー 常勤職員 7名 非常勤職員 16名 スーパーバイザー(グループミーティングのファシリテーターとケースのアドバイス)</p>

1. 総括

- ・今年度は、かがわの家との兼務の中で職員の泊まりの業務が減ったため、日中に職員が抜けることが前年より少なくなり、作業面・生活面ともに利用者への対応が安定的に行えた。
- ・新しい利用者が 2 名加わり、利用者は、19 名（定員）となるが、2 月に 1 名退所（亡くなる）のため 18 名となる。
- ・不況の影響を心配したが、前年度並みに作業は受注することができた。新たにパッキン袋の製作・箸しゃもじセット入れ作業も受注し、利用者に安定的に工賃を支払うことができた。
- ・清掃班に新しい利用者 2 名が入った。内 1 名は、風呂清掃にも毎日参加している。清掃班利用者で体力的にきつくなってきた方もいるため清掃班が増えたことは、とてもよかった。
- ・調理実習に関しては、通常作業との兼ね合いがうまくできず、月 1 回のペースで行えなかった。
- ・一泊旅行では、利用者の安全のため観光バスを使用した。
- ・利用者の高齢化が進み、排泄介助の回数も増えている。食事を喉に詰まらせることも何度かあり、その後はおかずを刻む、小さいスプーンに変えるなどの対応を行っている。
- ・利用者の加齢にともない成人病などの疾病を持つ方も多くなってきている。日々の健康への配慮や医療機関、小金井市との連携がますます求められている。

2. 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

受託作業：福祉会館内清掃・福祉会館風呂清掃・小金井市凧制作・割り箸袋入れ・説明書折アロマオイル充填・ケース組み立て・付録袋詰め・ダイレクトメール封入・造花作り・パッキン袋の製作作業・箸しゃもじセット入れ

(2) 利用者の支援

利用者現員 18 名

支援方針

- ・明るく、楽しい作業所の雰囲気大切に、毎日の職員会で作業面・生活面ともに個別の援助内容を考え継続的に支援した。
- ・意欲的・安定的に作業へ取り組めるよう作業配置、作業内容を提案し環境及び作業備品を整えた。
- ・利用者の自主性を重んじ、行事の企画から話し合い、支援した。

健康管理

12 月 7 日 健康診断 小金井市障がい者検診

2 月 25 日 内科検診 嘱託医

主な行事

4 月 7 日 花見会 (0.5 万円)

6 月 12 日 日帰り旅行 (11.1 万円)

10 月 16 日・17 日 一泊旅行 (33.4 万円)

12 月 25 日 クリスマス会 (6.2 万円)

3 月 12 日 慰労会 (4.4 万円)

(3) 職員の処遇

職員構成

所長	1名
主任支援員	1名
支援員	2名（正規職員）
支援員	2名（週3日パート職員）
支援員	1名（障がい者雇用職員）
嘱託医	1名
相談員	1名

健康管理

健康診断 年1回

会議

法人全体集会	3月27日
GK全体職員会	7月18日・12月5日・3月27日
成人部門全体会議	6月27日・2月6日
運営会・成人部門会議（所長、主任）	月1回
職員会議	月1回（ケース会議含む）
ショートミーティング	毎日

研修

法人内研修 法人外研修

3. 施設管理

(1) 設備関係

- ・地下水道設備工事を行う。（小金井市）

(2) 備品関係

- ・作業室中央の空調機が新しくなる。（小金井市）

(3) 災害対策

- ・避難訓練…福祉会館全体避難訓練 3月25日
小金井市福祉共同作業所内避難訓練 年6回
- ・非常食糧の備蓄

4. 地域社会との連携

- ・福祉会館まつりに参加し、陶芸品の販売を行う。
- ・福祉会館利用者が主催する会に参加し、合唱・踊り・お茶会などで交流した。
- ・今回、凧制作作業では、市民ボランティアの助けを借りて制作した。
- ・障がい者週間では、例年通り利用者がポスターを描き、COCOバス、市内の公共施設へ展示された。
- ・小金井市社会福祉協議会より高校生1名の実習生を受け入れた。

- 増加する週 1 日通園のニーズに応えるため、さくらの木との協力体制を強化し、平日の受け入れ枠を拡大した。
- 各職員が療育のあり方や今後の方向性を考えていくため、他の療育専門機関の見学を積極的に進めた（3 か所、のべ 16 名）。
- 療育の技術を高め、園児への指導を充実させるため、臨床心理士および作業療法士を招いたケース会議を定期的実施した（年 5 回）。
- 前年度に実施した第三者評価で保護者から要望のあった保育園との交流については、愛の園保育園と 7 月から連絡・調整し、園庭での自由遊びや賀川学園での課題遊びなどを実施した（新型インフルエンザの影響により回数は少なかった）。
- 2008（平成 20）年 12 月に厚生労働省から「今後の障害児支援のあり方について」の検討会報告がなされ、地域に発達支援に関わるセンターを設置していく方向性が示されているが、知的障害児通園施設の移行先は明確には示されていない。また、所在地である小金井市及び東京都からも今後の方針は示されていないことから、情報収集を行いながら、今後賀川学園が地域でどのような役割を担っていくか模索している。
- 駐車場のアスファルトが老朽化のため崩れ、ラインも不明瞭であったため愛の園保育園およびかがわ工房と合同で工事を行った。
- 寄付金により、園児用靴箱とロッカーの買い替えを行うことが出来た。

1 施設運営

(1) 事業実績

- ・ 集団保育と個別学習 年間療育日 275 日、延べ利用者数 7,767 人
- ・ 外来相談（入園待機児） 年間実施日 36 日、延べ利用者数 138 人
- ・ きょうだいの会 月 1 回実施
- ・ 卒園生のアフターケア 必要に応じて引き継ぎ、学校見学を実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（定員 35 名）

- ・ 週 5 日通園クラス 3 クラス（27 名）
- ・ 週 4 日通園クラス 1 クラス（6 名）
- ・ 週 1 日通園クラス 7 クラス（33 名）

イ 健康管理

- ・ 内科検診 年 2 回（4 月、10 月）
- ・ 身体測定（身長・体重） 毎月
- ・ 身体測定（頭囲・胸囲） 年 2 回（4 月、10 月）
- ・ 歯科検診 年 1 回（11 月）
- ・ 蟻虫卵検査 年 1 回（5 月）

ウ 主な行事

4 月 入園式	5 月 春合宿	6 月 お楽しみ会	9 月 運動会
10 月 遠足	12 月 クリスマス会	2 月 スケート体験	3 月 卒園式

エ 栄養管理

- ・ 給食会議を職員会議内で毎月実施し、園児の様子や指導員の意見を献立や配膳に反映させるよう努めた。
- ・ 新型インフルエンザの感染拡大を防止するため、各入口に手指の消毒用アルコールを設置するとともに、保護者へ健康観察の徹底と家族が感染した場合の対応等協力を仰いだ。

オ 安全管理

- ・ 看護師による定期的な遊戯の安全チェックを継続して行った。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

園長(常勤)	1名	※他事業所との兼務
主任指導員(常勤)	1名	※運転手と兼務
児童指導員・保育士(常勤)	10名	
調理員(常勤)	1名	※他事業所との兼務
事務員(常勤)	3名	※他事業所との兼務
看護師(パート)	1名	
児童指導員・保育士(パート)	9名	
調理員(パート)	5名	※他事業所との兼務
事務員(パート)	1名	※他事業所との兼務

※この他、スーパーバイザー3名及び嘱託医1名を業務委託。

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回(6~11月)
- ・細菌検査 調理員のみ毎月1回

ウ 職員会議

- ・グループかがわ全体職員会(年3回)
- ・児童部門会議(年5回)
- ・児童部門職員会議(年2回)
- ・定例職員会議、リーダー会議(各月1回)
- ・ケース会議(年15回、うち5回はスーパーバイザー参加)
- ・クラス会議(週2回)
- ・報告会(平日療育日に毎日)

エ 職員研修

- ・法人本部研修(経験年数別) …延べ8名参加
- ・かがわブロック研修 …年2回、延べ25名参加
- ・スーパーバイザーによるカンファレンス…8回、各回9名参加
- ・外部機関の主催する講習会の参加 …10講座、延べ11名参加
- ・学校・施設見学 …22ヶ所、延べ40名参加

2 施設管理

(1) 設備関係

ア ボイラー(暖房設備)の耐用年数を大きく超えていることから、今後の熱源のあり方を検討したが、継続使用することとなった。

イ 寄付金により、園児用ロッカー(4台)の買い替えを行った。

(2) 災害対策

災害時に備え、避難訓練を毎月1回実施するとともに、保護者への引渡し訓練を8月~9月に実施した。また隣接する愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練を10月に実施した。防災設備の点検を委託により年2回実施(内、消防署への届け出1回)、非常時食糧の確認を園の防火管理者が実施した。

3 地域社会との連携

(1) 実習生やボランティアを積極的に受け入れ、障がい児やその家族の理解者を増やし、福祉に関心を持つ人材を育成するよう努力した。

(2) グループかがわ後援会主催のバザー(11月)に職員・保護者が協力し、近隣住民や地域の事業者との交流を図った。

(3) 都立小金井特別支援学校の運営連絡協議会委員と小金井地域ケア連絡会世話役を受諾し、地域の関係機関との協力や情報交換を行なった。

総 括

利用者は現在 70 名が契約している。2009 年度からかがわの家と兼務で 1 名の男性職員を配置し、行動援護や中高生等の女性では支援困難なケースへの対応がこれまでより多く受け入れられるようになった。常勤スタッフが増えたことにより、冠婚葬祭等の緊急時へもこれまでより柔軟に対応できるようになった。登録ヘルパーも少しずつではあるが順調に増えてきている。2009 年度いっぱい主要学生ヘルパーが数名卒業と同時に退職となるので、新規ヘルパー獲得に向けて近隣の大学等に宣伝、勧誘活動に行く必要がある。（ガイドヘルパー養成研修は 2010 年度二回開催予定）。利用料収入については昨年度目標とした月額平均 90 万円に達し（月平均 93 万円）、昨年度よりも平均して毎月 10～29 万円増収となった。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ①知的障害児・者 居宅介護事業
- ②知的障害児・者 移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）
- ③その他有料の預かり事業
- ※ウイングス利用の 80%以上は②の移動支援事業

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数 70 名

【利用者分布一覧】

市町村名	小金井市	国立市	府中市	小平市	杉並区	日野市	国分寺市	東村山市	調布市	多摩市	墨田区	計
人数	24	8	10	13	1	2	8	1	1	1	1	70

イ 利用者支援について

利用者個々の意向の尊重に基づいた余暇充実を目指した。
 保護者との連絡は電話やメール等でこまめにとるようにした。かがわ工房、かがわの家、さくらの木所属の利用者が多いため、職員間で細かく連絡をとるよう努力した。
 新型インフルエンザが秋から流行りはじめ、支援のキャンセルが相次いだ。ヘルパーも感染しないようマスク着用、手洗いの徹底などを周知した。
 安全管理については職員が事業所名義の携帯電話を常に携帯し、事務所に職員が不在のときでも転送されてきた電話やメールにて緊急時に必要な対応が出来るようにした。
 活動としては平日の放課後支援や、土曜日、祝日のお出かけや夏休みの預かり企画等を個々の希望に合わせて行なった。

(3) 職員の処遇。

かがわの家との兼務で1名職員を配置した。宿直業務とウイングスの支援との勤務時間の調整が難しかった。また、課題だった男性ヘルパーも少しずつ増え始め、中高生や成人の支援も以前より増やすことができた。課題としてはヘルパー毎の支援の質にばらつきがあるので、ヘルパー支援マニュアルの整備や研修をすすめ、人材確保と育成に力をいれて今後もさらなる支援体制の拡充、強化をする必要がある。

【ヘルパー数】 ※2010年3月時点 斜体太字は常勤ヘルパー

	週5回以上支援	週3回以上支援	週1回程度支援	月1～2回程度支援	それ以下の頻度
男性	<i>1</i>	<i>1</i>	4	<i>1</i>	0
女性	0	3	4	3	0

2 施設管理

KAGAWA 館 301 号室を事務所として利用。日常的な利用者の出入りは少ないが、雨天時や屋外での支援困難者などの支援の際に奥の保育室を利用するため、カーペットを敷き、遊具や絵本を購入し、暖房設備やDVD・音楽鑑賞設備を整えた。

財団法人中央競馬馬主社会福祉財団（東京馬主協会）の助成事業の一環として1000ccの普通乗用車（TOYOTA パッソ）が寄贈され、緊急時対応やヘルパーの移動用として日々の業務に役立てている。（1,110,000円の総事業費の内、財団助成金が810,000円、自己負担額が300,000円。）

3 地域社会との連携

「居宅ネット」（東京の居宅介護・移動支援事業所の連合組合）に参加し、情報交換を積極的に行うようにした。

1. 総括

今年度は、利用者の緊急な利用や、2～3ヶ月といった長期の利用があり、また保護者の体調不良で自宅帰省できない方がいて、昨年同様一年通して開所した。保護者の高齢化に伴い、こういったケースはますます増えてくると予想される。今後も365日受け入れられる体制を整えていく必要がある。

消防署より消防設備が指摘された事項については、東京都から補助金を受け、3月までに改修工事を終えた。地震など大きな自然災害も各地で起こっている。避難経路や避難場所の確認、各ホーム内の設備の点検等、改めて見直・検討が必要である。

2. 施設運営

(1) 施設体系（2010年3月）

施設体系	定員	利用者数
ケアホーム（共同生活介護）	26名	26名
グループホーム（共同生活援助）	1名	1名

(2) 利用者の支援

・ 利用者数（2010年3月）

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
計	27名	27名

- ・ 安定して生活できること、身の回りのことが一人で出来ることを目標に、個別支援計画を作成し、保護者個人面談時に保護者からの同意を得た。
- ・ 一般企業に再就職した利用者については、職場に定期的に様子を見に行き、相手先のスタッフと話をもちながらフォローを行ってきた。現在継続して働くことができています。
- ・ 保護者の方から要望のある宿泊行事については今年度も行い、9月に山梨でキャンプを行った。今回は全ホーム合同で実施したが、職員同士の勤務調整が難しくなってきたこともあり、運営の仕方を検討する必要がある。
- ・ 利用者の余暇支援や休日利用の対応で、サポートセンター・ウイングスとの連携を図ってきた。個々の余暇に対応する体制が取りづらいため、ウイングスの協力はとても助かっており、余暇活動の充実につながっている。
- ・ 新型インフルエンザが流行し、帰寮時の手洗い、うがいを行って予防に努めた。また、

朝検温を行い、体調管理の把握をした。その他食事、睡眠などについては、家庭や日中事業所とも連携して様子を把握し、健康管理に留意した。保護者の定期的な通院付き添いが困難な利用者については、職員が付き添って医師と相談、確認を行った。

- ・ 夜間専門員がいるホームでは、伝達事項がきちんと伝わり、また、利用者支援の統一がなされるよう記述の工夫をした。
- ・ 余暇活動は各寮で誕生日会やクリスマス会、外食など季節に合わせた行事を実施した。

(3) 職員の処遇

- ・ 職員体制は宿直の日数が偏らないように夜間支援専門員を各寮に配置した。今回長期利用の方がいたが、対応の難しい方だったため一定の職員配置となり、宿直に偏りがでざるを得なかった。
- ・ 職員の健康診断は年1回実施した。
- ・ 会議は、GK全体職員会（年3回）、成人部門全体職員会（年3回）、グループかがわ運営会議（月1回）、成人部門運営会議（月1回）、かがわの家全体会議（年3回）を実施した。また、ケース会・行事前打ち合わせは随時実施した。
- ・ 研修は、勤務体制上全員が参加することがなかなか困難であった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ KAGAWA 館の門扉、屋上フェンスの修繕を行った。
- ・ 2011年のテレビ地上デジタル化に向けて、シリウスにはケーブルテレビを引く工事を行った。

(2) 設備関係

- ・ ミラの食器乾燥機、電子レンジに不具合があり、部品の交換を行った。
- ・ シリウスのインターホンが故障し、交換した。また、食器乾燥機、衣類乾燥機に不具合があり、部品の交換を行った。

(3) 災害対策

- ・ 避難経路や消火器の設置場所を確認し、非常時に対応できるようにした。
- ・ 消防設備の点検を実施した。
- ・ シリウスに自動火災警報装置、ジュピターにスプリンクラーの設置を完了した。

4. 地域社会との連携

- ・ お祭りや消防訓練、資源回収など町内会の行事には積極的に参加した。また、町内の会議には定期的に出席し、地域の方に理解を得られるように努めた。
- ・ 職場への通勤など、近隣とのトラブルにならないように、利用者によっては職員が付き添うなど配慮した。
- ・ 小金井グループホーム連絡会に参加し、市内の関係機関との連携を深め、情報を取り入れた。

1. 総括

平成 21 年度は、安定的な運営を図るために、生活介護事業に 3 名、就労継続支援事業に 2 名の利用者を増やしてスタートした。

保護者の方々から、ケアホーム設立の要望が多く届けられるようになり、希望する保護者（約 20 名）で「ケアホーム設立を考える会」を定期的で開催し、ケアホーム設立に向けた情報収集と勉強会を行っている。

地域の企業と合同で進めているバイオディーゼル精製事業については、市内の中学校、病院、高齢者施設から廃食油の回収を利用者とともにやっている。地域との繋がり、環境への貢献、利用者の工賃増を図るため、今後も積極的に取り組んでいきたい。

4 月に理学療法士や作業療法士の方々を講師に招き、「肢体不自由のある方への基本的な支援」「食事（摂食・嚥下）と作業における支援」をテーマに、支援職員とパート職員を対象（25 名参加）にした勉強会を実施した。また、12 月には職員で車椅子体験会を実施した。

短期入所は、利用を希望される方の受入れに努めた。

2. 施設運営

（1）施設体系（2010 年 3 月）

施設体系	定員	利用者数
生活介護事業	32 名	32 名
就労継続支援事業 B 型	10 名	12 名
短期入所事業	2 床	

（2）利用者の支援

- ・ 利用者本人やご家族の方からの要望を聞き、個別支援計画を作成した。また、中間と年度末には個別支援計画の見直しを行い、報告書を作成した。作成した個別支援計画書と報告書は、年 2 回の保護者個別面談で、保護者の方から同意を得た。
- ・ 個別支援に役立てるため、各個人の利用者にアセスメントシートを作成した。
- ・ 生活介護事業で作業に取り組んでいる利用者の方々にも、授産収入から毎月一時金として利用者の方にお渡しすることができた。利用者本人や保護者の方からは大変喜ばれている。
- ・ 年 1 回行っていた PT 相談（理学療法士）を年 2 回に増やし、加齢に伴う麻痺の進行や身体機能の維持について専門家からアドバイスをもらっている。
- ・ 保護者の方を対象にした学習会を 1 月に開催した。学習会の内容は、保護者会で保護者の方から意見を募り、入所施設で勤務している医者に来ていただき、「加齢によって現れる諸症状とその予防」をテーマにして行った。また、学習会終了後、保護者の方にはアンケートを配布し、内容や今後のテーマについて意見を伺った。
- ・ バイオディーゼル精製事業の廃油回収作業中に、自動車の衝突事故（対物）を起してしまった。同乗していた利用者の方に怪我はなかったが、安全管理をさらに徹底するように努めた。
- ・ 第三者評価を受診し結果を活かせるよう職員会やリーダー会で検討を行った。

（3）健康管理

- ・ 利用者の健康に配慮した支援を行うように、看護師とも連携を取りながら毎日の支援にあた

った。食事や水分の摂り方、排泄の状況には十分な注意をはらい、必要な人にはチェック表を作成し経過観察を行った。

- ・ リハビリや通院を行っている利用者の通院同行を行い、医療的機関と連携をとり日中の支援に活かせるよう努めた。
- ・ 薬の保持、服用は看護師が管理を行った。
- ・ 毎月の内科検診・体重測定、年1回のレントゲン健診・耳鼻科健診、年2回の整形健診を行った。また、12月と3月には理学療法士による、保護者も含めたPT相談を行った。

(4) 職員の処遇

- ・ 職員健康診断を年1回実施した。
- ・ 会議は、ミーティング（朝）と報告会（夕）を毎日実施。その他の会議は、グループ別ミーティング（それぞれのグループで隔週1回）、リーダー会（毎月1回）、職員会議（毎月1回）、GK全体職員会（年3回）、成人部門全体職員会（年2回）、運営会（毎月1回）、成人部会（毎月1回）を実施した。日中は利用者の方がいるため、会議開催の時間が夕方からになってしまうのが今後の検討課題である。
- ・ 外部研修は、「職場におけるメンタルヘルス」（東社協）、「地域支援セミナー」（日本知的障害福祉協会）、「東京都福祉保健医療学会」（東社協）、「通所施設での健康支援と医療的援助の取り組み」（都通研）、「てんかん講座」（てんかん協会）、「施設体験研修」（東社協）、「セミナー講座」（発達協会）、「かくたつグループ講演会」（かくたつグループ）、「てんかんの基礎知識講座」（東社協）、他法人施設見学（2ヶ所）に職員がそれぞれ参加した。参加した職員は、職員会議で報告を行ってもらった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ 東京都による改修工事で、調理室の床と身障者用トイレシャワー室の改修工事を行った。
- ・ 園庭の水はけが悪く、雨天の翌日など足場が悪くなってしまい、今後の改善が必要。

(2) 設備関係

- ・ 事務室窓ガラスに、セキュリティ強化のため鍵取付け工事を行った。
- ・ 業者による清掃を年2回行った。
- ・ 東京都の移譲から3年が経過した。備品や設備類は継続して使用してきているが、老朽化が目立つものや修繕の必要な物が出てきており、今後の見直しが必要となっている。

(3) 災害対策

- ・ 毎月1回の避難訓練を行った。避難訓練終了後の報告会では避難経路や災害時の対応について職員間で確認を行なった。
- ・ 消防設備の点検を実施した。

4. 地域社会との連携

- ・ ホールや備品（和太鼓等）の貸し出しを地域の団体へ向けて行った。
- ・ 陶芸活動は、地域の陶芸サークルの方々にボランティアで来ていただいて、一緒に活動を行っている。製作した作品はボランティアと一緒にバザーやみのりフェスタで販売した。
- ・ 地域の方々との交流の場として実習所祭「みのりフェスタ」を3月に開催した。地域の和太鼓サークル、ハンドベルサークル、お囃子の方々にも参加してもらい、来客に演奏していただいた。当日は、多くの方々が来て下さり盛況に終えることができた。

1. 総括

- ・授産事業については、下請作業は、不況の影響で受注内容（価格・量）が減じたが、作業は、つながりのある業者さんやかがわブロック成人部門事業所や小金井市内の他法人の作業所との連携により、継続受注ができた。新規にポスティングの仕事を始めた。パン販売や焼き菓子製造・販売は、昨年度に引き続き、順調に売り上げている。法人内の他施設の宅配販売や、町内会の祝い品、地域住民のイベント用品の受注など関連機関や地域への広がりがあり、好評を得た。
- ・授産収入全体としては減じているが、工賃の維持はできた。毎月の工賃は全員一律支給としているが、ボーナスでは通所状況の実績に応じて増額した利用者もいる。
- ・作業の他の日中プログラムとしては、昨年度に引き続き体操教室の開催、音楽放送、障がい者週刊ポスターへの参加、訪問歯科、お給料授与式など、利用者の中に定着し、心身の気分転換となった。
- ・移動支援事業所等の利用者が増えてきて、ケアホームの職員とともに、移動支援事業所の職員との連携の機会が増え、引き継ぎ・連絡事項の確認を密に行った。
- ・第三者評価の結果を受け、利用者支援向上に向けて、アセスメント書式を改訂し、個別支援計画の策定実施に反映させた。

2. 施設運営

(1) 実施事業

- ア、受託作業**…付録の袋詰め、プラスチック試験管の袋詰め、ダイレクトメールの封入、封筒制作、会報紙の封入、アロマオイル取扱い説明書の折り、チラシ広告組み合わせ、アルミ缶回収事業、ポスティング、寿司セット袋詰め、公園清掃等を行った。かがわブロック間で作業の連携と分業を行なってきた。不況の影響もあるが、新規に新しい作業を受けることができた。
- イ、自主製品**パンの販売・焼き菓子製造・販売…法人内の宅配販売や地域での注文がゆるやかながらも広がりを見せてきた。
- ウ、リサイクル事業**…アルミ缶回収。経済不況の影響が続き、アルミ缶回収額が低額のまま、減収が続いている。
- エ、ボランティア活動**…市からの要望により、公園清掃作業を復活し、月1回実施した。

(2) 利用者支援

ア、利用者数 定員…25名 在籍…24名

イ、支援方針

- ・利用者の個別支援計画の策定・実施に向けて、アセスメント書式を改訂した。
- ・行事において、利用者の要望を取り入れ、利用者が主体となって参加できる内容を企画、実施した。
- ・利用者の高齢化や心身の状態の変化に対応するため、日中プログラムの幅をもたせる取り組みを行った。体操教室、昼の音楽放送、給料授与式など心身の気分転換として定着してきた。
- ・記録の書式を見直し、支援経過がわかる内容や、記録の省力化に努めた。

ウ、健康管理

5月21日 内科健診 嘱託医

1月27日 2月24日 健康診断 武蔵野三鷹地域センター (11万5千円)

エ、主な行事

5月22日 春の日帰り旅行 桧原村 払沢の滝 (4万8千円)

10月23日～24日 秋の一泊旅行 千葉県元名(28万円)

12月24日 クリスマス会(1万9千円)

3月5日 慰労会 宮ヶ瀬園地バーベキュー(9万8千円)

オ、給食

- ・利用者の状態に応じて分量の調整や食器の工夫をした。
- ・季節感や行事を盛り込んだメニューを提供した。

カ、安全管理

- ・防災訓練 毎月実施(以下の訓練を含む) ・賀川学園との合同訓練(6月25日)
- ・三施設(愛の園保育園・賀川学園・かがわ工房)合同総合避難訓練(10月22日)
引渡し訓練(8月28日)
- ・ヒヤリハット報告書・事故報告書を整備し、再発防止対策を協議、周知を図った。

(3) 職員の処遇

ア、職員の処遇

施設長	…	1名	リーダー(生活支援員)	…	1名(常勤兼務)
作業指導員	…	1名	生活支援員	…3名(常勤兼務)	11名(パート職員)
事務員	…	1名	(兼務・パート職員)		
調理員	…	1名(常勤兼務)	5名(兼務・パート職員)		
嘱託医	…	1名	相談員	…	1名

イ、健康診断 年1回実施 若年健康診断 生活習慣病予防健診(多摩健康管センター)

ウ、会議 法人全体会 かがわブロック施設長会(月1回)

グループかがわ全体職員会 7月18日 12月5日 3月27日

成人部門合同会議 6月27日 2月6日

運営会 月1回(児童・成人・サービス事業所各施設長・主任)

成人部会 月1回(成人事業所各施設長・主任) 職員会議 ケース会議

エ、研修 法人本部研修(経験年数別)…1年目3日間(1名)2年目(1名)、

中堅I(1名)

かがわブロック研修…講演会2回実施7月18日、12月5日、延べ10名参加

賀川の実践2009合評会実施7月18日 5名参加

成人部門研修…6月27日 2月6日 延べ10名参加

東社協施設体験研修…1日 1講座 延べ1名参加

3. 施設管理

- (1) 設備関係…・エアコン室外機修繕 ・エアコン空調修繕 ・駐車場舗装工事 ・排水
桝蓋修理 ・階段滑り止め張替
- (2) 備品関係…・ワゴン車車検 ・作業室用椅子購入 ・カーテン取り付け
- (3) 災害対策…・自衛消防訓練 年6回実施 ・防災設備の点検委託 年2回

4. 地域社会との連携

- ・町内会へ班長として町内会議に参加。町会祭りに出店し、備品の貸し出し等で協力した。
- ・パン・焼き菓子の販売やアルミ缶回収などで近隣の方や各施設、市民との交流を深めた。
- ・グループかがわ後援会主催バザーで、会場として賀川学園と共に施設開放を行った。
- ・地域のボランティア希望者や中学生の体験学習を受け入れた。
- ・特別支援学校実習生、社会福祉援助実習生、保育士実習生、介護体験等学生を受け入れた。

- 来年度、新体系に移行する予定でいたが、将来、障害者自立支援法が廃止になる方向が明らかになったので、もう一年状況を観ることにする。
- あきる野市地域自立支援協議会の日中系サービスの部会で新しい仕事の共同受注をめざすなど取り組んでいるが、具体的な成果は上がらず、景気の悪化のため、仕事の受注が減り、困難な状況が続いている。
- 模型部品の袋入れの仕事が新たに入った。
- 新たな自主製品の検討も行ってきた。
- 利用者、職員の健康のため作業イスを新しくしたり、作業室Ⅳの窓に網戸を設置するなど作業環境の整備を行った。
- 瀬音の湯における手焼きせんべいの販売スペースが広がった。
- 利用者は 3 人増やし、職員を 1 人増やした。
- パート職員の途中退職については、その都度新しいパート職員を補充してきた。
- 地域の方たちとの交流を図るため、地元のおはやし連にも参加していただき、ワークスタジオまつりを開催した。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容…付録の袋詰め、ビットのパック詰め、チラシの組み合わせ、
プラスチック製品のマスキング、模型部品の袋入れ
自主製品の製造・販売…ポストカード、手焼きせんべい
その他…アルミ缶回収、施設内外の清掃

(2) 利用者の処遇

利用定員…20 人

在籍 …24 人

処遇方針

- ・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。

健康管理

6 月 25 日 内科検診 11 月 5 日 健康診断

- ・作業前に毎日ラジオ体操を行ってきた。

主な行事

4 月 24 日 日帰り旅行 秋川河川公園・小峰公園 30,000 円

10 月 1 日、2 日 一泊旅行 水戸偕楽園・ひたち海浜公園

550,000 円

12 月 25 日 クリスマス会 20,000 円

3 月 19 日 慰労会 横浜・中華街 120,000 円

給 食

- ・アレルギーや肥満など利用者の特性に配慮した食事や行事食などより楽しく食事ができるよう工夫してきた。

安全管理

- ・何度か足長バチの巣が作られたが、発見するたびに駆除を実施した。

(3) 職員の処遇

職員の構成

施設長 1 人 作業指導員 2 人（兼務） 生活支援員 4 人（兼務）
生活支援員（常勤パート） 1 人 生活支援員（パート職員） 11 人
栄養士 1 人（パート職員） 調理員 4 人（パート職員）
事務員 1 人（兼務） 嘱託医 1 人 相談員（非常勤） 1 人
健康管理 健康診断 年 1 回

会 議

法人全体集会 1 回 GK 全体職員会 3 回
運営会 月 1 回 成人部会 月 1 回 成人部門全体会 年 3 回
職員会議 10 回 ケース会議 10 回

研 修

<法人> 新人職員研修 施設長研修 次世代育成プロジェクト
経験年数別研修
<ブロック内> 全体職員研修 実践報告・合評会 交換研修
<外部研修> 東京都社会福祉協議会 発達協会 かくたつグループ
秋川流域自立支援研究連絡会

2 施設管理

(1) 建物・設備関係

- ・作業室Ⅳ網戸取り付け工事
- ・作業室Ⅰ排煙オペレーター修理
- ・照明器具取替工事

(2) 災害対策

- ・6 人の職員が普通救命講習を受けた。

3 地域社会との連携

- ・10 月 24 日（土）ワークスタジオまつりを開催し、地域の方たちとの親睦を深めた。
- ・あきる野市地域自立支援協議会に参加し、他の事業所とともに、地域福祉の向上のために活動した。
- ・あきる野市社会福祉協議会主催の夏体験ボランティアに参加した。
- ・あきる野学園研究発表会で自主製品販売。

3：学童クラブ事業

①事業の評価と今後の課題

キリスト教の行事や日本の行事に触れられるように努力した。また、各イベントや行事の意味を伝えながら取り組むことが出来き、行事にちなんだ製作を行うことで、子どもの気持ちが高まり行事に対する積極性が見られた。月一回学童全員で行う集団遊びを通し、異年齢の交流や子供同士の輪の広がりを感じる事が出来た。また、子どもたちと一緒に、人権（友だちや命について）を考える時間を設けることで、友だちとの関わり方に良い変化が見られた。2010年度は人数が増えることもあるが、子ども一人一人の人格を尊重しながら、子どもたちの意見を聞き、取り入れながら子どもたちと一緒に学童クラブを作り上げていきたいと思う。

学年別 男女別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育
	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	4	3	4	3	5	0	1	0	20	3
5月	3	3	4	3	5	0	1	0	19	3
6月	3	3	4	3	5	0	1	0	19	3
7月	3	3	4	3	5	0	1	0	19	3
8月	3	3	4	3	5	0	1	0	19	2
9月	3	4	4	3	5	0	1	0	20	3
10月	3	4	4	3	5	0	1	0	20	2
11月	3	4	4	3	4	0	1	0	19	2
12月	3	5	4	3	4	0	1	0	20	2
1月	3	5	4	3	4	0	1	0	20	2
2月	3	5	4	3	4	0	1	0	20	2
3月	3	5	4	3	4	0	1	0	20	2
合計	37	47	48	36	55	0	12	0	235	29

③事業報告

日常活動

<一日保育> 8：30登所 9：00学習タイム 10：00自由遊び 12：00昼食
13：00昼食後のんびりタイム 14：00自由遊び（公園や季節の活動）
16：00おやつ 16：30掃除 17：00帰りの会（学校終了後から同様に保育）

延長保育

18：00～19：00 室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす。

おやつ

16：00（複数の学校の為、登所時間を考え遅めのおやつ）
手作りのおやつを提供し、様々な食に触れる機会を増やした。また、子どもが手伝えるようなメニューを考え一緒に作る時間を大切にした。

グループ活動・誕生日会等

グループ活動・・・掃除当番、食前・食後のお祈り、帰りの会の挨拶当番
誕生日会・・・人数が少ないこともあり、それぞれの誕生日に誕生会を実施。子どもたちが出し物を行い会を進めることが出来た。

行事・外出

月日	行事名	内容
4月1日	入所式	新しい入所児を受け入れる式
5月16日	ウェルカムパーティー	新しい入所児、保護者を受け入れるパーティー
6月20・21日	お泊り合宿	夕食作り、お楽しみ会（スポーツ大会）
7月	防犯訓練	葛飾警察署の方から防犯に対してのお話を聞く
8月5・6・7日	キャンプ	千葉県立君津亀山少年自然の家にて、レクリエーション、ドッチボール大会、製作、キャンプファイヤー
10月1日	遠足	千葉市科学館へ遠足
10月28日	ハロウィンパーティー	仮装しお世話になった方々の所を訪問
12月19日	クリスマス会	会食、学童児の出し物発表
3月26日	お別れ遠足	東京タワー・都内ハイキング（東京スカイツリー）
3月31日	お別れ会	卒所児との楽しい思い出作り

④その他の活動—個人面談、保護者会、他

*保護者関連 ・ 5月保護者会・7月キャンプ説明会・10月個人面談・2月新入所児面接・3月新入所説明会
 *その他活動 ・ 毎月集団活動の実施・10月黎明保育園運動会参加・11月黎明保育園おまつりひろば参加

小学生一時預かり事業「クオレ」

学年別 男女別	1年生		2年生		3年生		その他		合計
	女	男	女	男	女	男	女	男	
4月									0
5月									0
6月									0
7月									0
8月									0
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
1月									0
2月									0
3月									0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※活動の評価と課題

4：小学生事業 (地域児童健全育成事業－自由来館児童を中心とした事業－)

①事業の評価と今後の課題

学童クラブを卒所した児童を対象として、在籍している学童児との関わりを重点においたボランティア活動を行った。卒所してからも学童クラブとの繋がりを通して、子どもたちの居場所となった。
れいめい学童として、2010年度より高学年プログラム活動実施に向け準備を進め、現在在籍している子どもの状態を第一に考えなが、在所児・卒所児との双方が良い関係をつくること出来るような活動を考えていきたいと思う。

②体育室活動(設定スポーツの回数、延べ人数、1回平均)

種目名	回数	延参加者	1回平均
(例) ドッチボール	10	100	10
	1		0
	1	1	1
	1	1	1
	1	1	1
	1	1	1
	1	1	1
	1	1	1
	1	1	1
合計	18	107	17

③図書室活動(貸し出し延べ冊数、貸し出し図書ジャンル別数、1日平均貸し出し数など)

(年間)	利用者	延貸出数	月平均	日平均
児童書	100	500	42	1
雑誌				
コミック				
他				
合計	100	500	42	1

④視聴覚・創作等の活動

⑤その他の行事 (2009年度に実施した事業をすべて報告する)

・5月ウェルカムパーティー ・8月学童合同(れいめい宝・れいめい堀切)サマーキャンプ(4年生のみ)
 ・10月黎明保育園運動会への参加 ・11月黎明保育園おまつり広場への参加
 ・1月もちつき会

⑥学年別グループ活動(期毎に各グループの事業内容を報告する)

(1) 1年生グループ活動 1期(月 ~ 月)

開催日	活動内容	参加者数

※活動の評価と課題 (各グループ毎に記入してください)

--

※複写にて毎毎に作成の上記入

⑦自然体験活動

開催日	活動内容・行き先等	対象者	参加者数
8月4～6日	学童合同サマーキャンプ 千葉県立君津亀山少年自然の家	4年生(卒所児)	10名

※活動の評価と課題

<p>学童児と合同プログラムとして参加。その他、在所児とのプログラムの他、活動の準備・片付けを行い在所児との差別化を図った。 高学年単独での活動の幅を広げていくことが課題になる。</p>

⑧ボランティア活動等

開催日	活動内容・実施場所等	対象者	参加者数
2005年4月3日	クリーン作戦	中学生	100

※活動の評価と課題

--

⑨小学生学習支援活動

学年別	学習内容	回数	延人数	回平均
1年生		10	100	10
2年生				
3年生				
4年以上				

※活動の評価と課題

--

⑩小学生対象年間イベント

開催日	イベント名	参加者数
1月23日	保育園児・学童児・卒所児交流プログラム	17名

※活動の評価と課題

卒所児（4年生～6年生）の活動として、バーベキューやもちつきを行った。インフルエンザなどが流行していた為、食品に関して感染の予防の徹底を行った。今後は、活動を通しての卒所児の役割を考え、保育園と学童との関わりを増やし、子どもたちが活動に積極的に参加できるプログラムを考えていきたい。

3: 学童クラブ事業

①事業の評価と今後の課題

新入所児の増加、障害児の入所による混雑が予想された他、夏休み頃まで保育補助が揃わず、体制にゆとりがなかったのだが、子どもたちの様子・クラブ内の雰囲気は年間を通して安定していた。また今年度は、保護者との信頼関係が深まり、様々な相談事が寄せられその対応に追われた。その他虐待児童対応の為、通告や関係機関との連絡を行ない、保護者に配慮する必要もあった。新型インフルエンザ対応では、近隣の小学校で流行し、学級閉鎖等もあり来所児童の減少、クリスマス会の中止などの影響もあったが、手洗い・うがい・消毒の徹底を行い、感染予防に努めた為、大事には至らなかった。今後としては、保育内容の現状維持及び家庭環境の複雑化による配慮が必要であると感じられる。また、増え続ける入所希望児の対応、相談事への配慮、応対や保護者方の関心事である卒所した児童への居場所提供なども検討していく必要があると感じられる。

②クラブ在籍数－学年別、男女別－

学年別 男女別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育
	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	12	10	2	9	10	9	0	0	52	16
5月	12	10	2	9	10	9	0	0	52	16
6月	12	10	2	9	10	9	0	0	52	16
7月	12	11	2	9	10	9	0	0	53	14
8月	12	12	3	9	9	9	0	0	54	14
9月	11	11	3	7	9	9	0	0	50	14
10月	10	11	3	7	9	9	0	0	49	12
11月	10	11	3	7	9	9	0	0	49	12
12月	11	11	3	7	9	9	0	0	50	12
1月	11	11	3	8	8	9	0	0	50	12
2月	11	11	3	8	8	9	0	0	50	12
3月	11	11	3	8	8	9	0	0	50	12
合計	135	130	32	97	109	108	0	0	611	162

③事業報告

日常活動

(一日保育) 8:30登所-9:00勉強タイム-10:00自由タイム-12:00昼食-13:00ビデオタイム・自由遊び-15:00おやつ・掃除・自由遊び(校庭開放)-17:00帰りの会
室内ではままごと・オセロ・ブロック遊び。庭ではドッジ・サッカー・縄跳び。校庭では、タスケなどで遊ぶ。

延長保育

18:00～19:00 室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす。

おやつ

フルーツやひと手間加えたものを多く提供し、駄菓子ばかりにならないように配慮した。
手作りおやつでは、季節行事やイベント毎にちなんだおやつを提供した。(計65回)

グループ活動・誕生会等

誕生会(毎月実施)・ゲーム会・手芸タイム・工作・学習などを行う。
生活班グループを作成し、おやつを食べたり、掃除やお祈り当番のグループ活動を行なった。
昼食会を行い、共にクッキングをする等の活動を行なった。(計15回)

行事・外出

4月イースター礼拝 5月ウェルカムパーティー 6月お泊り合宿 7月防犯訓練 8月サマーキャンプ・プラネタリウム遠足・夕涼み会 9月氷川神社祭り 10月千葉市科学館遠足・ハロウィンパーティー 11月収穫感謝祭 12月クリスマス会・クリスマス礼拝 3月お別れ合宿

④その他の活動－個人面談、保護者会、他

4月入所式 5月保護者会 7月キャンプ説明会 10月個人面談 2月新入所児面接 3月新入所児説明会・卒所式 10月保育園運動会に参加 11月保育園おまつり広場に参加
1月卒所児を対象にもちつき会を実施(20名ほど参加)
3月3年生限定のお別れ合宿に卒所児数名参加

小学生一時預かり事業「クオレ」

学年別 男女別	1年生		2年生		3年生		その他		合計
	女	男	女	男	女	男	女	男	
4月									0
5月									0
6月									0
7月									0
8月									0
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
1月									0
2月									0
3月									0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※活動の評価と課題

4:小学生事業 (地域児童健全育成事業－自由来館児童を中心とした事業－)

①事業の評価と今後の課題

昨年度と同様に学童卒所児限定という枠を設定し、通常保育活動での小学生ボランティアの受け入れを行なった。また、卒所児プログラムとしてもちつき会を企画し、3年生のお別れ合宿にもボランティア参加として活動を行なった。卒所しても学童や保育園との繋がりを持てる活動を展開することが出来た。またここ数年、高学年の受け入れ場所を確保してほしいと保護者・卒所児のニーズがあるので、れいめい学童として2010年度より高学年プログラム活動実施に向け準備を進め、しっかりとした活動を展開することが課題である。

②体育室活動(設定スポーツの回数、延べ人数、1回平均)

種目名	回数	延参加者	1回平均
(例)ドッチボール	10	100	10
合計			

③図書室活動(貸し出し延べ冊数、貸し出し図書ジャンル別数、1日平均貸し出し数など)

(年間)	利用者	延貸出数	月平均	日平均
児童書				
雑誌				
コミック				
他				
合計				

④視聴覚・創作等の活動

--

⑤その他の行事(2009年度に実施した事業をすべて報告する)

5月ウェルカムパーティー 8月学童合同サマーキャンプ(4年生のみ) 10月黎明保育園運動会への参加 11月黎明保育園おまつり広場への参加 1月もちつき会

⑥学年別グループ活動(期毎に各グループの事業内容を報告する)

(1)4年生グループ活動 1期(月 ~ 月)

開催日	活動内容	参加者数

※活動の評価と課題（各グループ毎に記入してください）

--

※複写にて期毎に作成の上記入

⑦自然体験活動

開催日	活動内容・行き先等	対象者	参加者数
8月3～5日	学童合同サマーキャンプ・千葉県君津市少年自然の家	4年生	10人

※活動の評価と課題

学童児と合同ではあったが、活動に支障はなかった。またキャンププログラムのみではあったが、活躍場所を提供したので楽しむことができていた。今後としては、次年度より始まる高学年プログラム単独での活動を展開していきたい。

⑧ボランティア活動等

開催日	活動内容・実施場所等	対象者	参加者数

※活動の評価と課題

--

⑨小学生学習支援活動

学年別	学習内容	回数	延人数	回平均
1年生				
2年生				
3年生				
4年以上				

※活動の評価と課題

--

⑩小学生対象年間イベント

開催日	イベント名	参加者数
1月23日(土)	保育園児・学童児・卒所児交流プログラム(もちつき)	17名
3月19日(金)~20日(土)	3年生お別れ合宿(6年生のみボランティアとして参加)	2名

※活動の評価と課題

卒所児限定という中での活動であったが、まずまずの参加者だった。しかし、卒所児以外の小学生から参加したいとの声もある為、彼らをどうする方法で対応していくかが課題である。次年度からは、年数回になるかもしれないが、学童や保育園などの行事と連携して活動を行い、小学生の受け入れの幅を広げていきたい。

1. 総括

現在新体系への移行先が決まっていないが、交付されている補助金制度がなくなることを仮定し、この事業を継続させていくために、職員の育成と指導枠の維持・増加を考えて新人職員を迎え、4名の常勤職員数で今年度は事業を進めた。指導枠の維持・増加に努めるため、業務委託で指導員を集めた。年度途中で、新人職員が病気で退職することとなり、新たに6月より常勤職員を採用し、4名の常勤職員数を維持した。利用者の指導日を減らすなどの対応により、利用者数を維持することができた。

新しい職員や業務委託の指導員に代わったことで、指導への共通理解などを得るために、ケース会議の日程を増やし、引き続き学習会を定期的に取り組んだ。職員の退職により、職員が担う雑務や利用者に対してのフォローなどが増えたが、利用者のニーズに応えるべく、例年通りに体験学習を実施した。

建物の老朽化による修繕・正規職員の雇用などにより年々支出が増大していく傾向が顕著である。現在できることは、今後に備えて収入を増やし支出を減らすことである。しかし収入は限られているため、職員間の経費節減への意識を高め、光熱費の使用削減・消耗品の使用・廃棄について効率的な方法を周知し実践するように努めた。

2. 施設運営

(1) 実施事業

個別指導、ペア指導、グループ指導、余暇支援、体験学習4回、キャンプの年間の延べ247日、利用者数は補助金事業対象者の年間延べ利用者数は3,666名。その他、講演会年2回、さくらの木相談室年6回、コミュニケーションブック24冊頒布、レシピ集を作成し7冊頒布。

(2) 利用者の支援

自閉的傾向や発達に遅れのある子どもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけることを目指して支援を行った。指導内容は主に日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じたプログラムを立て取り組んだ。

ア 利用者年齢構成

	利用者数(名)
幼 児	2
小学生	77
中学生	17
高校生	5
合 計	101

イ 月別開所日数

(日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	23	26	24	17	21	26	20	18	20	19	13	247

ウ 健康管理

利用者の健康状態に留意し、軽い怪我には対応できるような薬を常備した。

(3)職員の処遇

施設長 1 名、指導員 25 名で指導にあたった。

職員には年 1 回の健康診断を行い、健康の管理に努めた。

事業所内の職員会議(原則、週 1 回)を中心に、法人全体集会(年 1 回)、グループかがわ運営会議(月 1 回)、児童部門職員会議(年 2 回)、グループかがわ全体職員会(年 3 回)、ケース会議(月 4~6 回)を行い、運営上の課題・支援の方法等を話し合った。

発達障害に関する専門性向上を目的に、研修(他機関主催の研修に 1 人年 1 回)、学習会(月 1 回)、学校等の関連機関の見学(延べ 44 件)や受け入れ(延べ 11 件)を積極的に実施した。また発達障害に関する書籍を購入し、研鑽に努めた。

3. 施設管理

2 階トイレの天井より水漏れがあり、業者に依頼し点検した。

4. 地域社会との連携

賀川学園の卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付けている。

発達障がいや事業への理解を促進し、近隣との良好な関係を保つため、ボランティアや見学者を積極的に受け入れた。またグループかがわ後援会主催のバザーや自治会に参加するなど、地域住民との交流を図った。